

晩秋の天増川(湖西) 今村 克美

世界の山旅 刃境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

とっておきのヒマラヤ展望の尾根歩き エベレスト山群まっただ中の展望地タンポチェへ アンナプルナとダウラギリの巨峰群を眺める高道コース

ネパール・ヒマラヤ・スカイライン・ハイキング 8日間

大阪・名古屋・福岡・東京

- 11/10●12/1発……………¥348,000
- 12/22発……………¥410,000
- 1/6●2/3●2/23発……………¥350,000

エベレスト・パノラマ・トレッキング 12・13日間

大阪・名古屋・福岡・東京

- 11/9●11/16発(12日間)……………¥350,000
- 11/20●12/11発(13日間)……………¥360,000

アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマ・トレッキング 9日間

大阪・東京

- 12/21●1/6発……………¥316,000
- 12/28発……………¥366,000

NZ「アルプス街道」の壮大な景色が大展開!

サザンアルプス・パノラマ・ハイキング 8日間

大阪・東京

- 11/25●1/6●1/20発……………¥478,000
- 12/12発……………¥486,000
- 12/18発……………¥498,000

山小屋泊りのブナの原生林と氷河のマウントクック山頂を歩く

ミルフォード・トラックとマウントクック 11日間

大阪・東京

- 12/14●1/18●1/25発……………¥538,000
- 12/25発……………¥730,000
- 1/4発……………¥648,000

ハワイ麓の絶景を詰め込んだ、ハワイの山岳の決闘!

ハワイ島マウナケア山頂&カウアイ島ハイキングとダイヤモンドヘッド山頂 9日間

大阪・東京

- 11/26●12/18●1/8発……………¥468,000

世界で最も水と空気の美しい島を歩く

タスマニア島 満喫ハイキング 9日間

大阪・名古屋・東京

- 12/15発……………¥532,000
- 1/10発……………¥496,000
- 2/23発……………¥498,000

ゆったりとした日程でアフリカ最高峰に挑む

キリマンジャロ ゆったり登頂とサファリ 11日間

大阪・東京

- 12/11●1/22●2/5発(KLMオランダ航空利用)……………¥630,000
- 12/23発(インド航空利用)……………¥640,000

SF冒険小説「失われた世界」の舞台

秘跡ギアナ高地、ロライマ山・トレッキングとカナイマ国立公園 16日間

東京

- 11/27発……………¥720,000
- 3/4発……………¥738,000

メキシコ第4の高峰山頂と古代遺跡ティオティワカン

4,000m峰トルーカ山登頂とメキシコの山旅 8日間

東京

- 11/21●2/20発……………¥378,000
- 12/28発……………¥468,000
- 1/26発……………¥382,000

ベトナム最南端の自然、文化をコンパクトな日程で満喫!

ベトナム最高峰ファンシーパン山頂と世界遺産ハロン湾クルーズ 8日間

大阪・名古屋・東京

- 11/25発……………¥278,000
- 2/24●4/20発……………¥298,000
- 3/23発……………¥306,000

4,000m級の雪山を5日間でご満喫する絶景向き企画

マレーシア最高峰 Mt.キナバル山登頂 5日間

大阪・東京

- 11/3●12/1発……………¥158,000
- 12/30発……………¥274,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

山岳 山岳 山岳

アルパインツアーサービス株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F

東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)
(掛りんゆう観光) 広島/☎082(542)1660(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい。いつもの山仲間で海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

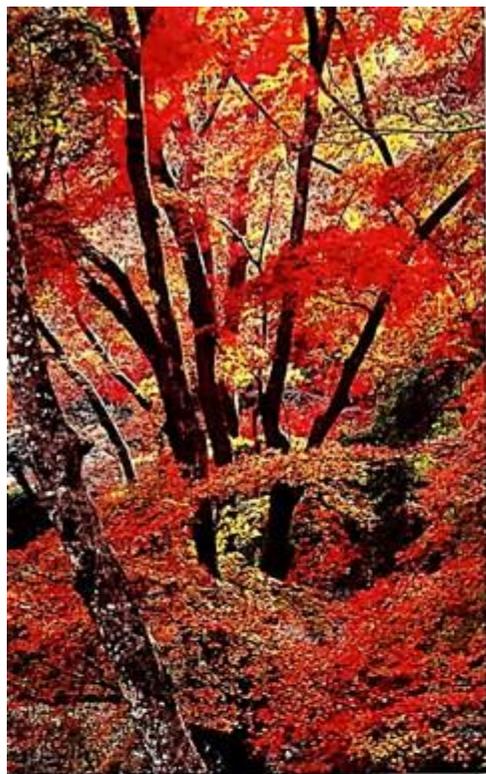
出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します。

Photo essay

菩提山[®]

題字 中田 蘭 石
撮影 由井 収
文 松 永 恵 一

紅葉（正暦寺）

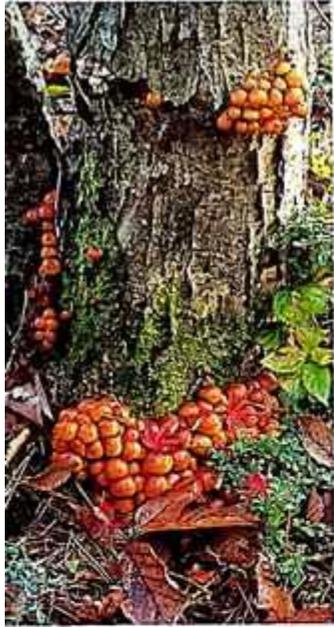


紅葉のトンネル（正暦寺）

菩提山はお釈迦様の修行した聖地
鹿野蘭、大慈仙、忍辱山、誓多淋
春日山原始林を取り巻いている
まばゆいばかりの紅葉の海
空の青さに負けじと織りなす錦秋
菩提山川の渓流に沿って続く山道
流れに散り浮く楓や紅葉
紅葉の名所 錦の里 正暦寺
一条天皇の発願で正暦三年に創建
南都焼き討ちにより堂宇を焼失
重要文化財の福寿院が今に残る
清酒発祥の地として知られる
「菩提もと」と呼ばれる酒母
時空を越えて甦った濃醇旨口の酒
繊細にして深潤な秋に出会った

錦の里（正暦寺）





秋の実り

季節の



惜秋

実景

紅葉三昧 (湖西箱館山)

晩秋

撮影 武市通治



紅葉

黄葉

湖秋 (処女湖)





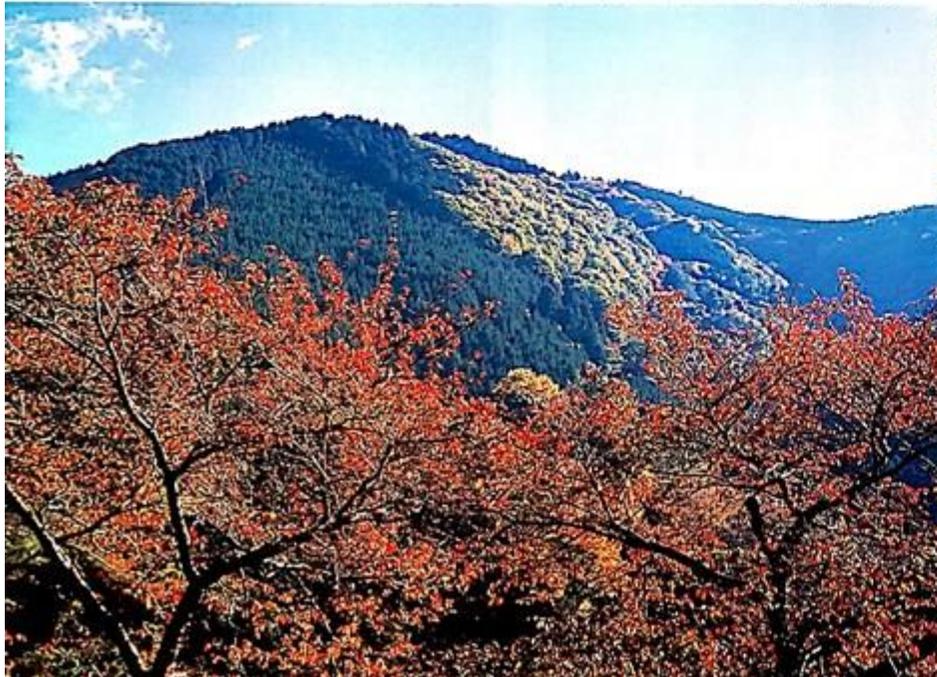
雨乞岳秋色（鈴鹿） 一芝 義雄



秋深まる穂高（北アルプス） 武田 誠司

比叡秋景（左京区八瀬から） 山中 茂

峠の展望（京都北山・地藏峠） 中川 光郎



南朝哀史の跡を訪ねる 一 台高・かくし平谷

奥田 英一郎



通れて来た奥山



明神滝 (三之公川明神谷)

回天の大志むなしく



別冊 関西の山
07年11・12月 秋 第97号

●目次

表紙：松田敏男「初冬 木平温原」(奥飛騨)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版、山岳版の編集多岐関与。京都平安西風、南アルプス山水小説、東京ギャラリー(百号、他)山の版権集「光る山山」刊行(東京新聞社版権)。京都市と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

●クラヒア	菅堤山……撮影 由井 収 文 松永 恵一
(口絵) 今村克美 武田辰司 中川光郎 一芝義雄 山中 茂 奥田英一郎	武市 通治 4 2
随想(山のエッセイ)	
冒険と登山の間……	西尾 寿一
日帰りのアルプス……	鷺見 守康 12 10
●紀行	
思親山(甲州)……	田中 明 24 20 17 14
三上山の洞窟「姥の懐」を訪ねて(湖東)……	伊澤 康夫
三ノ沢岳と入笠山(南信)……	木村 太郎
地蔵峠・横谷峠・荒谷峠・滝谷越(比良)……	小山 誠次
連載 標高による山の紹介シリーズ37 △△97の山	
野谷荘司山・高麗寺ヶ岳・蕎麦粒山・上谷山……	松田 敏男
迫子・迫間・古和浦・大山各浅間山(南勢)……	森本 伸人
岐阜百山の実濃俣丸・御前岳(奥美濃)……	山田 明男
小野岳・志津倉山・金華山他(奥北)……	生駒 登峰
塔尾金明神・コリカキバ・イブネ(鈴鹿)……	長谷川 雅俊
連載 三角点を訪ねて⑨	
茶野から滝洞谷を渡って万野へ(鈴鹿)……	磯部 純 62

●エリヤ別荘底研究 京都北山を歩く・ミニガイド(第6回)	
①換峙から魚谷山 ②西尾根から桑谷山	村田 智俊 54
●旗振り通信の最新研究④	
●旗振り通信・旗振り通信の文庫	柴田 昭彦 58
●文学歴史探訪ハイク⑩	
●富田林に石上露子を訪ねて	松永 恵一
●〈山のレポート〉山の地名を歩く⑨「シブレ山」	西尾 寿一
●〈山のレポート〉大連れ登山	金谷 昭 72 70 66

●コース	
① 荒谷山地(鎌手)と大狭山(湖西)	長宗 清司 78 76 74
② 小栗(若狭)	金谷 一昭
③ 三石山(北畠)	松尾 昭

沿線ハイキングガイド	85 82
せせらぎ	88
新ハイサービステーション	94
新ハイ関西山行計画	
新ハイ関西山行報告	112 111 105
入会の案内・新入会員紹介	
編集後記・広告案内	

巻頭言

先日、調べものがあり、書店に出向き棚を見るが無い。店主に尋ねると、「いまはインターネットで調べるから、この手の本は動かさないで置いていらない」と言う。パソコンで検索すれば知りたい情報は大概手に入る。夏休みの宿題もインターネットで仕上げるらしい。図書館はガラ空きで「作品別読書感想文例集」まであるというから驚く。本は読まないし、勿論考えて書くという作業もしない。インターネットやケータイを利用して物事を処理する現代人は確かに多いが、エネルギーと時間を浪費しなければよいが心配する。

登った山をネットで調べてみた。多くの山行記録があり、地図や写真まで載っている。読んでみるがしっくりこない。どの山を見ても同じ書き手が登場する。文も内容も個性が強すぎ、じつくり読めるものは少ない。かなり以前の情報もそのまま。これではネットワーク情報を参考に山には入れない。

手元に置きつつも読める、信頼できる山の本・地図・雑誌の必要性はまだあるなと、思う。氾濫する中で確かな情報を見つけ、山に登って欲しい。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



随想

(山のエッセイ)

冒険と登山の間

西尾 寿一

かつて登山は冒険であった。それがいつの間にか分離され、冒険と一線を画するようになった。

小生の若い頃、周辺の大人達は、登山は冒険のように一か八かの危険なものでなく、しっかりした計画に基いて実行されるものである、とも言われた。そんな影響もあって、登山は冒険より格上のものであるかのように信じられてきた。しかし、はたしてそうなのか？ 近頃、信じ込んでいたものがにわかには揺らいできたのである。

その要因は最近の登山事情にある。例えば①すっかりした計画の登山が実につまらなくなってきたこと、②先端に行く若い

登山者が積極的に冒険を行うこと、などである。

登山に際しては昔から完璧な計画書を作成しなければならなかった。それが冬山なら、しかるべき部署に提出の義務があり、もし内容に不審点があり不完全であれば、問題にされた。つまり登山は計画通り行うもので、サイエンスの部分強調し、アドベンチャーの部分を取り捨てることに腐心し、社会の信用を得ようとしたのである。

ヒマラヤ登山のように大規模な遠征は、こうした緻密な計画がものを言ったが、そんな時代は終わり、ライトな登山のなかでの緻密なプランはむしろ陳腐でさえあり、今日ではむしろ冒険的要素を重要と考えるようになってきた。

この傾向は計画書を否定するのではなく、計画書にしばられない幅広い活動を個人が演じきる意味において、計画書を超え

た強力な登山力を、それぞれの登山者に求めるものと考えたい。③においては、登山における冒険的要素が減少したことにより、登山者が他の分野へ移行していることだ。山岳部員が海に出たり、歩行・自転車・リヤカー・バイクなどでユーラシア大陸を縦横断したりすることが不自然でなくなった。

そのことは、計画書通りを行う登山におもしろみが欠如していることを意味している。

登山は辞書で引くまでもないが、冒険を「広辞苑」で見ると①危険を冒すこと。②成功のたしかでないことをあえてすること。とある。探検(険)をみると、「未知のものを実地に探りしらべること、また危険を冒して実地を探ること」とある。

ちなみに、学術をみると①学問と芸術と、②学問にその応用方面を含めていう語。とある。

つまり「学術探検」とは学問と芸術とその他の応用として深く調査する要素が加えられたものであり、なるほどどうまい用語を發明したものと感心する。

先にみた冒険は、やはり危険を冒す部分が強いたので、登山からその部分を削除したい人がいたことがよく理解できる。登山を限りなくサイエンスに近づけることによって山の危険から逃れられた可能性は高く、彼らの努力のためものとして評価するものではあるが、反面において自然そのままに向かい合う登山の真の喜びや危険から、遠く隔離されていくような感覚をおぼえることになった。

その昔、登山は立派な冒険であったのに、牙を抜かれた猛獣みたいに行儀よくおとなしくなったことに、今さらながら気づくのである。

登山は、やんちゃだった昔に

戻されるべきではなからうか、そして他の分野と区別されボーダーラインを外すことも必要となっていく。登山も冒険の一部として他の分野と共に昔に返されるべきだ。そこからしか、自由な登山スタイルは、よみがえることはないと思うのである。

4年度、植村直己賞を受賞した安東浩正氏は、植村直己を師とあおぐ鳥取大学の山岳部OBである。

同郷に近く植村の業績に深く傾倒したことは理解できるが、その行動の類似性は一層明白となる。彼の受賞対象はユーラシア大陸のV字縦横断を自転車によったこと。中国語・ロシア語をあやつり、零下40度のツンドラを駆け抜けて、しかも、それを50万円で済ませる卓抜なマネージメントでしめくくっている。

彼は山岳部時代から中国雲南・四川などの横断山脈に入り、偵

察行とトレッキングを行っている。現地主義を通し、言語もそのなかでマスターしている。彼のように世界中を旅する受賞対象者は大勢いたのである。

その中で彼が榮譽を勝ちとった背景には、地理的未知の部分も多く残す冒険と探検の要素を重くみた結果と考える。確実に登山は冒険のもとに帰されたのである。



日帰りのアルプス

鷺見 守康

日本アルプスを歩くとすれば、数日かけて縦走するのが常であるが、今夏、前日に麓に泊まり、日帰りでのピークに登るといふ体験をした。

7月に北沢峠から仙丈ヶ岳、8月には中房温泉から燕岳に登った。

どちらも頂上近くに山小屋があり、山小屋を利用すればかなり余裕のある登り方ができる。現に昨秋は、同じメンバー構成で仙水小屋を利用し、1泊2日のゆったりペースで甲斐駒ヶ岳へ登山した。

今夏日帰りにしたのは、休日前の山小屋泊まりを敬遠してのことである。メンバーの中には、私より一回り年上の高齢者もい

て、山小屋の混雑による疲れが心配であるし、私自身、肩と肩をぶつけ合って寝る状況をものともしない気力は、もはや失せている。

麓の「普通」の宿での泊まりは、何といっても快適である。7月は伊那市宮(旧長谷村)の仙流荘、8月は安曇野市宮(旧穂高町)の国民宿舎有明荘に泊まった。両宿とも登山者の利用が多く、登山者慣れしている宿の対応は、私達には心地よかった。

しかし、麓からの日帰りはそれはそれで大変である。

仙丈ヶ岳は、登山口の北沢峠と麓の仙流荘とを結ぶ南アルプススーパールン道バスの発着時刻の制約があり、何としても北沢峠発の最終バスに乗り込んで帰らなければならない。

北沢峠から仙丈ヶ岳への標高

差は1000m以上あり。休憩を除く往復の標準コースタイムは7時間。16時の最終バスまでの9時間を歩き抜けるだろうか。時間を気にしてのいつもよりハイペースな登高のせいで、メンバーはかなりしんどい思いをし、昼食時には食欲を無くする人もいた。

仙流荘を同じバスで出発し、逆コースを歩いた他の日帰りパーティとすれ違った時、「健脚ですねー」と声をかけられ、私は複雑な気持ちだった。結局、北沢峠に下り立ったのは、最終バスが出る2時間も前の14時であった。

国民宿舎有明荘へは蛇行を繰り返す狭い車道だった。昔、常念岳へ縦走した折にはこの道をタクシーで乗り込んだものだが、今回この道を初めて運転し、かなり疲れた。

有明荘は、燕山荘が安曇野市



随想

(山のエッセイ)

から委託を受けて運営しており、燕岳登山の基地として登山者には細かな配慮がみられた。これから登る人の朝食が7時というのはちょっと解せないが、館内は清潔で従業員の応対もよい。朝食を弁当にしてみたら、朝5時前に宿を出た。登山者用の第一、第二駐車場はすでに満杯。私たちが有明荘の宿泊者には、有明荘の専用駐車場がある。

奥の中房温泉へは駐車場から徒歩15分ほど。この登山口から燕岳への標高差は、およそ1300m弱である。空はよく晴れ上がり、その分だけ余計に暑い。時間的な制約が無いのは何よりで、第一ベンチから第三ベンチ、そして富士見ベンチとすべてのベンチで休んだ。

コースは、第三ベンチから富士見ベンチの間が最も急登で苦しい。その苦しさに喘いで登ると、富士見ベンチから、その名の通り富士山が見えた。富士山

の右には南アルプスの甲斐駒ヶ岳、北岳、仙丈ヶ岳が並び、左には八ヶ岳連峰が雲上に浮かんでいた。

合戦小屋では名物のスイカを食べた。9時過ぎ、燕山荘の建つ稜線に到達し、稜線上から眺める北アルプスの山容は限りなく美しかった。

かつて歩いた槍・穂高連峰、裏銀座、立山連峰、後立山連峰等々の峰々が居並ぶ光景はまさに壮観であった。

花崗岩白砂の斜面に静かに咲くコマクサを愛で、燕岳の頂上に立った。頂上は夏のアルプスに憩う登山者達の交歓の場であった。

10時半過ぎに下山を開始すると、続々と登山者が上ってきた。驚いたことに、家族連れのパーティがとて多い。幼い子供や小学生を交えた家族はもちろんだが、20歳前後の息子や娘連といっしょの家族も目立つ。

第二ベンチでは、疲れてひと眠り中の父親の横で、汗をぬぐう10代後半の娘2人と妻が休んでいた。

まるで観光地のような光景である。日本アルプスといえば、まさに中高年が闊歩している地だとばかり信じていた私には、実に新鮮な驚きであった。

「そうか。燕岳とはそういう山なのか」とひとり呟いたのだ。

思親山

田中 明

甲州

いつの頃からか、山歩きの中で出会う富士山を気にするようになって久しい。いつ、どんな天候であれ、雲を従えながら裾野を広げて佇む富士山、どこから見ても一度として同じ姿の富士はない。

富士山を目の当たりにすれば、どんなに疲れていようと、この一瞬ですっかり心洗われ、ああ、今生きているんだと心震える。そして山歩きをしていてよかったですと思う。こんな気持ちは、山を歩いていて富士山を見た人ならどなたにも理解していただけるだろう。

富士山を西側から見るのに恰好の思親山は1031級の低山だが、山梨百名山

であり、関東の富士見百景にも選ばれている。

一日蓮上人が身延山で修行中、この峰越しに房州に住む両親を偲んだという伝説から名付けられたといわれる。

ガイドブックによると、「山頂からの展望は良く、東北東の富士山の姿や南側には富士宮市から駿河湾へと静岡方面が眺められる」と記されている。コースは東海自然歩道であり、整備されているようだ。

富士山の西を走るJR身延線沿いには、他にも富士を見るビューポイントの山が多くあるようだが、私は山名の美しい響きに魅せられ、アクセスも好都合なので

りタクシーに乗り込む。半時間足らずで南部町が管理する東屋・トイレのある佐野峠までいとも簡単に来た。

ところがどうだ。降水確率0%の天気予報を確認のうえで登山にもかかわらず、目の前の富士山には雲がかかって姿は無い。案内板の所から見えるのは天子ヶ岳のようだ。その右横に富士山が見えるはずなのだが……。友の悲しそうな小さな声もれる。

佐野峠からの富士は諦め、頂上からならさきと顔を見せてくれるだろうと慰め合いながら、木の階段で整備された登路

を行く。いろいろな樹木名札を見ながら歩くが、イヌシデ・マメザクラ・ミズナラ・タンナサワフタギ・コアジサイ・コハウチワカエデ・エゴノキ・ムラサキシキブ・キハダ・ヒメシヤラ・ヤマハンノキ・コゴメウツギ・アブラチャン・イボタノキ・ホウノキなど、友もいずれも既に熟知している種ばかりで足も止まらない。

いくらのんびり歩いても頂上まで1時間もかからない超初級の山歩きである。途中には自然林が続き、いろいろな樹木や山野草が見られるようで、4月下旬に



思親山からの富士山



この山に決めた。もちろん、山仲間も快く同行してくれた。例によってJR「ムーンライトながら」で何度も電車を乗り換え、秀麗の富士を眺めるのだという期待感を胸に、長い列車の夜行の旅を苦ともせず、登山口に近い内船駅に早朝着いた。

駅から歩けば登山口の佐野峠まで約2時間近くはかかるので、手筈どお

は、カタクリ・ニリンソウ・ヒトリシズカ・ヤママルソウ・アマナ・ツルキンバイ・キクザキイチゲ、さらにアケボノ・エイザン・ニオイタチツボなどのスミレ類も咲くという。季節を変えて再訪したい登山道だった。

思親山の頂は南北に連なっていて、三角点のある山頂よりも北側の樹林に囲まれたピークのほうがやや高いようだが、山頂は草原の小広い丸っぽい広場で、2等三角点やベンチも置かれるなど、心安らぐのどかなスペースである。

しかしながら肝心の富士山は、雲の間から頭がすこし見られるもののいまひとつ。冠雪を頂くすばらしい富士を期待していた一同も悲観にくれている。あの猛々しい大沢崩れの山容も目に映らない。やむなく頂上にはしばらく居座ることにしよう。ベンチや芝生にふて寝する。目を西側に移せば、安倍川上流域の十枚山や身延山地の篠井山はしっかり見えたが、期待の南アルプスの連嶺はガスのなかである。

山頂部の樹木は、カラマツ・コナラ・ヤマナラシ・クロモジ・マユミ・ノリウツギ・ドウダナンツツジ・ヤマハンノキ・



マメザクラなどが確認できた。そうこうしているうちに、東の空に上の方だけではあるが、大沢崩れを真っ白に化粧した富士山が、流れる雲間にくっきり現れた。みんな驚いて、傾れを打つようにカメラタイムとなった。「さすがに律儀な富士山、礼儀をわきまえている」うれしさのあまり、こんな声も出るほど感激し合った。

これを目にした一瞬、私は「そうだ、山から帰ったら両親の墓参りに田舎へ足を運ぼう」と心静かに手を合わせた。もちろん口には出さない。

心のウサを晴らした我らは堂々と胸を張り、喜々として山頂を後にした。

気分よく足も軽くなり、次のピークの相之山を捲いて何度か舗装道路を横切り、山道への出入りを繰り返しながら、なだらかな下り一辺倒の道をどんとん歩き通した。

途中、キッコウハグマの残花、キハギ・

ヤマハギ、それに立派なコモチシダを見たり、何本かミツマタの花を見た。後でわかったのだが、どうやらこの一帯では昔ミツマタ・コウソなどでの和紙作りを生活の糧とする細々とした山村の暮らしが続いていたようだ。

林道を何度か横切り、舗装道路を行くと源立寺で、八木沢集落とは名ばかりの一戸の家が石垣上に建っているのみ。このような山奥に今でもどうして生活しているのだろうかと思えさせられてしまう。

この後、舗装路をくだるとようやく標高差860mの長い道のりも終わり、でっかい富士川とは対照的に無人のJR井出駅がぼつんとある。予定通りの時間に到着でき、本数の少ない電車に間に合った。我ら以外に乗客は皆無であった。

その駅舎の傷みも衰えなほどで、石造にはヒメツルソバにハタケニラがひっそりと花を咲かせていて、郷愁を誘っていた。

この思親山を歩いて思い出した。遠い昔に父親がよく口にしていた「投所を見たら落所を見るな」という、物事はほどほどが良く、末の末まで追求してはいけない。

ないという話だ。

富士山が雲ひとつなく白銀を纏って裾野を八の字に引いた姿が理想ではあるが、その姿を追い求めることは止そうと心に思いながら、車窓からぼんやりと愛しい富士を眺めて心静かに目を閉じる。父親の言葉を思い出しながらも、いやいややっぱりに絵に描いたようなすばらしい富士の姿に出会いたいとの気持ちがあふつと湧いてくるのであった。

さあ、次はどの山から富士を狙おうかと葛藤を繰り返している。

(平成18年12月11日歩く)

▲コースタイム▼

JR内船駅(タクシー25分) 佐野峠(55分) 思親山(1時間40分) 一番大きな舗装路・源立寺(50分) JR井出駅

△地形図▼

2万5千Ⅱ南部(問い合わせ先)

南部交通タクシー

なんぶの湯 ☎0556(66) 2125
☎0556(64) 2434
(5000円)

ふるさと富士・近江富士

三上山の洞窟「姥の懐」を訪ねて

湖東

伊澤 康夫

京都新聞(平成19年4月23日朝)の見出し、「野洲・三上山、登山道独力で整備」に目が留まった。記事の内容は、

江戸時代の天保一揆で農民に追われた役人が逃げ込んだとされる野洲市の三上山中腹の洞窟「姥の懐」への登山道を、市内の男性が二年がかりで整備した。山頂への登山道から急な斜面約80mを登った所にあり、三百段以上の階段とロープを取り付け、案内板も設置した。洞窟は地元の人にしか知られておらず「新名所になれば」。

三上山登山が好きな太田二郎さんは、定年退職後に文献で洞窟の存在を知った。「洞窟を史跡として復活させ、山

「姥の懐」手前の案内板にて



けて少量ずつ36回の排便。肛門は痛く、深夜も続いたのでヘトヘトになった。

28日(出)の夜はぐっすり寝たが、29日(回)の目覚めは体がスッキリしない。

近くの山を登り、滝のような流れる汗をかいて、すっきりしたい!

新聞の切り抜きを思いだし、三上山の「姥の懐」を妻と訪ねることにした。自宅から登山口まで車で約1時間の山。午

後は雷雨の天気予報。「早く登ってしまおう！」。

洗濯など妻の家事も終わり、9時過ぎに自宅を出る。登山口近くのコンビニでオニギリを買い、天保義民碑のある裏登山口に10時過ぎ着。登山靴に履き替え準備していると、すでに数名の下山者。「こんにちはい早いですね〜」声をかけると、「次の山へ行きますから」と車は走り去った。登山口から5分も歩くと分岐があり、右折して裏登山道に登る。

なだらかな道とはいえ、10分も歩くと汗だくになってきた。妻は、「今日は歩



クに入れてきた。そのとき中年のおじさんが一人で登ってこられ、「こんにちはい早いですね〜」近くからですか？」と声をかけると、「湖南市で近くからです」「近々、加賀白山か常念岳に登る予定なので、足腰を鍛えようと思ってね」「そうですか」「ところで、この本(いちにの山)は、2月に出版しましたね」「よろしかったら」。

バラバラと頁をめくり「買いますよー!」「サインをしてください!」「ありがとございます(湖南市、西田力さんへ。花鳥風月・自然っていいなあ〜みんな生きてるんだな! 2007.7.29伊澤康夫サインをして、しばらく西田さんと山談義。「姥の懐」の話をすると、整備された太田二郎さんと清掃登山などで知り合いとか。「私もこの機会に(姥の懐)を見て帰ろう」と言う西田さんに、裏道の分岐点(岩に赤ペンキで25番と〇印記入)を見落とさないように伝え、先に山頂を離れた。

下りは早く、あっという間に打越の分岐に着いてしまった。「姥の懐への分岐に気付かなかったなあ〜」「下りは岩の数字が見えないし、斜面の階段も木々で

き出しから足が重いわ」と言いながら少し後ろを歩いてくる。

のんびりと歩き、30分ほど登れば打越(分岐)に着いた。三上山は今日で三回目だが、稜線づたいに女山があることを初めて知った。「婦りに寄ってみようか!」妻に語りかけ日陰に腰を降ろした。話し声が近づき「〇〇☆☆?」「こんにちはい」「〇〇☆☆?」2人の異国の青年がくだって行った。「しばらく来ないうちに国際的な山になったんやなあ」「日本に働く外国の人が多くなったんよ」。

「しかし暑いなあ」「明恵(良女)と明生・侑生(悠)は友達とパーベキューに行ってるけど、この空やったら今日は雷雨の心配は無さそうやなあ〜」「ぼちぼち行こか!」。

六合目を過ぎたあたりに「姥の懐」への階段が整備されているはず。それらしき案内板が見当たらず、登山道の左側斜面を注意しながら歩いていると、斜面に階段を発見した。おそらくこれだろう。少し後ろを歩いている妻に「あつたよ」。急斜面の階段を少し上ると、左上の木に取り付けられた案内板を発見した。

「この階段で間違いない、登って来

見えにくいかもなあ」「西田さんわかっただけなあ。打越の分岐で少し休憩しながら妻と話す。

5分も登ると女山。標識は無く、三角点があるので女山だろう。写真を撮り、下りかけると西田さんが登ってこられた。「姥の懐は行かれましたか?」と訪ねると、「わかんなかった!」「やっぱりなあ、下りはわかりにくいですね」「近いことだし、もう一度引き返して行ってきますよ」。元気な西田さんと別れ、打越分岐から登山口へとくだる。

滝のように流れた登りの汗は乾き、吹き上げてくる爽やかな風に「ああ〜気持ちいいなあ」と立ち止まってしまおう妻と私。「まさしく自然のクーラーやなあ」「極楽! 極楽!」。

爽やかな風とともに14時過ぎに下山し、天保義民の歴史を改めて読んだ。

幕府役人、市野茂三郎は厳しい検地を告げ、不正な検地を実施。

農民は一揆の相談。数万人の農民が矢川神社(甲南町)に集結する。

しかし、指導者の平兵衛徳十名は捕らえられて江戸送りとなった。

て〜」下で待っていた妻に合図をして先に進んだ。しばらく登ると、階段は斜面に沿って続くが、左になだらかな分岐道がある。階段に気をとられていると左分岐は見落とすしやうい道だ。

「姥の懐」は、左への分岐から10分程度進んだ所にあった。洞窟手前の岩場にはロープが張られ、安心して歩ける。苦勞されて整備された階段のおかげで、今「姥の懐」にいる。

「農民に追われた役人が逃げ込んだ狭い洞窟、何人がこの洞窟に入ったのだろうか? 逃げ込んだ後、食事はどうしていたのかな?」「階段を整備された太田二郎さん、歴史を感じながら懐にいますよ〜」狭い洞窟だが、妻と2人でしばらく歴史を感じた。

山頂への道に引き返し、30分ほど登ると鳥居が見え、山頂に12時10分着。お参りを済ませ木陰でオニギリをほおぼる。「こんにちはい〜」小学生の女の子と母親が花緑公園から登ってきた。しばらくして、今度は小学生の男の子と父親が裏道から登ってきた。妻が「お父さへ、セールス! セールス」と言う。自著「いちにの山」を紹介(購読依頼)するためザツ

土川平兵衛連の獄門札、又、一揆の村々には割金のおふれがあった。
天保十三年十月十六日、幕府役人、市野茂三郎がいた三上村の陣屋にて、遂に「検地の十万日の日延」を勝ち取る。

150余年後の今でも、自らの命をかけて郷土を守ろうとした勇氣ある献身的な行為、天保義民として遺徳を偲び、その心を後世に伝え、毎年10月15日にこの場所で行われる天保義民祭が行われている。

「人のため 身は罪とがに近江路を別れて急ぐ 死出の旅立ち」

土川平兵衛 辞世の句
(平成19年7月29日歩く)

▲参考タイム▼

「天保義民碑」前駐車場10・55―裏登山道―打越―分岐―赤ペンキ印25番手前―「姥の懐」山頂12・10(昼食)―女山―打越―「天保義民碑」前駐車場14・30
△地形図▼2万5千野洲

展望の優れた山

三ノ沢岳と入笠山

南信

木村 太郎

落葉の季節が近づいて、「アルプスが見える展望の優れた山へ行こう」と言う信田さんの誘いで、南信州へ車を走らせた。前夜発で1等三角点の戸倉山と守屋山、そして宿泊地の入笠山の三座を歩く計画である。

戸倉山に登るつもりで、夜が明けた駒ヶ根インターを降りる。車中から中央アルプスを見上げると、降雪はそれほどもなさそう。11月半ばを過ぎた時期、3000級の山には積雪が始まり、一般ハイキングの領域を離れ、容易には登れないと思っていた。

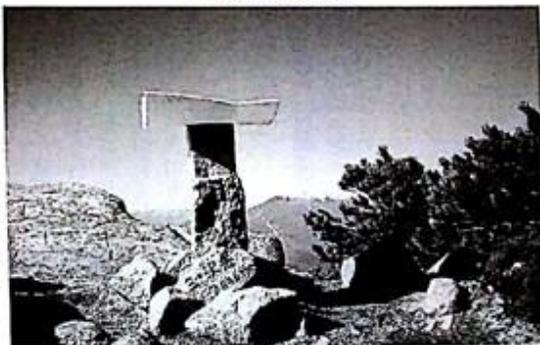
「たいした雪でもなさそうだ」「これなら木曾駒でも登れるんじゃない」「独

立峰みたいな三ノ沢岳なら展望が良さそうだよ」「伊那富士(倉倉山)よりも断然眺めがいいもんね」と、車の中で目的の変更を話し合う。車をJR駒ヶ根駅前駐車場に預け、しらび平行き伊那バスに乗り込んだ。

改装が終わったばかりの中央アルプス駒ヶ根ロープウェイで空中散歩を楽しみ、千畳敷駅へ運び上げられる。高山が花の楽園になる季節に木曾駒ヶ岳は登頂しており、未登峰の三ノ沢岳に登ろうと話がまとまった。

ホテル千畳敷前の広場に立ち、ぐるりと山上を見渡した。お花畑の役割を終えた千畳敷カールは、氷河の原点に還るか

三ノ沢岳山頂



のように雪化粧を始めている。カールを裾にした宝剣岳の岩峰群は、無雪期の名残の荒々しい岩肌を見せている。

広場に詰めている山岳指導員に呼び止められ、装備を正された。ザックの中に防寒着と雨合羽、ツェルトもアイゼンも携行していると告げ、登山届を書いた。友と地図を広げ、三ノ沢岳の登山コースを確かめた。

千畳敷の観光コースの人達、他ルートでの登山者達と別れ、極楽平の分岐で鳥田嶺にあいさつを送る。三ノ沢岳方面へは、僕達のほかには登山者がいない。大きなケルンが立つ雪を敷いた尾根に出て、宝剣岳への道と分かれる。風衝砂礫帯の光を浴びて、三ノ沢岳を見すえて進んで行った。

足下にハイマツが張り出した歩きにくい雪道を進む。ハイマツ帯が途切れたら岩場が現れ、登下降を繰り返して鞍部に届く。ここから厳しい登りが待ち構えており、少し広まった通過地にザックをデポし、先の道を行くことにした。

身が軽くなるとげんきなもので、周りを眺める余裕が生じ、雲海に浮き上がる山々を目にして、降り注ぐ太陽の光を胸に受けとめる。突然「ほら、南アルプスが見えるよ」と友の声がする。「あの奥に見えるの、富士山じゃない」と言い足した。

今時分のアルプスは、風がビュービューと音を立てて荒れ狂い、横なぐりの雪が吹きつけても不思議ではない。おだやかな日差しはな、雲の上に南アルプス、さらに富士山まで遠望する光景、何とい

う幸運なる好天に恵まれた日なんだろう。ひとことは思えない遭難者のケルンを見て、背の低いハイマツをかき分け、主峰と勘違いした前峰に出る。最後のひと頑張り巨岩におおわれた、1等三角点の三ノ沢岳(2846.5m)ピークに登り着いた。

友と僕のほかには誰もいない。静寂のなかで積み重なる巨岩に腰をかけ、山々を眺め回した。「アルプスが見える展望の優れた山に行こう」と約束していた風景が視界を占めている。2人が希望した山旅の結末に、言葉は要らないほどに満ち足りていた。

北から南に木曾駒ヶ岳から空木岳など木曾山脈の主稜線が走り、さらに後方に堂々と赤石山脈の山並が横たわる。視線を反転させれば乗鞍岳、北方遠くに穂高岳や槍ヶ岳など、北アルプスが連なりを見せている。僕達がいる大阪周辺の低山では叶えられない、垂涎の眺めと至福の時とが流れていた。

三ノ沢岳がいちばん賑わう時は、山頂側の南斜面一帯にコマウスユキソウが群生する季節である。今は花の無い時期だが、巨岩の日陰の所どころに斑雪があ



三ノ沢岳・宝剣岳分岐





が立っている。左手の斜面に広がる草原に、「6月に歩いた時は草に隠れて、恥ずかしそうにスズランが群生していたんだ」、僕の思い出話を友は機嫌よく聞いている。

徐々に明るくなる山道は、クマザサの道、コナシの名があるズミの多い道になる。北面から山頂へ向かう道には、「スズランやツマトリソウがあちこちに咲いて、ズミの白い花の下でかくれんぼしていたんだよ」と、僕は調子にのって、おしゃべりになっていた。

カラマツ・モミ・ズミなどの灌木帯を

南アルプス前衛峰の入笠山に寄ること友に連言したのは僕だった。1等三角点の戸倉山、翌日は1等三角点の守屋山に登る、最初の計画では宿泊地を決めかねていた。

入笠山直下の山荘に泊まれば、諏訪市の守屋山へ廻る前に、入笠山で日の出が

り、まるで花の代わりをしているようだ。デポしたザックを引き上げ、宝剣岳の分岐に引き返すと、「ついでに宝剣岳も踏んで行こう」と言う。友の誘いにのり、気持ちを引き締めアイゼンを締める。単独行なら寄らなかつたが、登りたそうな友の表情を見て、宝剣岳を付き合うことにした。

水雪を薄く光らせた宝剣岳(2931m)の岩峰を踏み越え、乗越浄土へくだる。四つん這いになり少々スリルを味わうが、友情の絆が友と僕の間を結びつけていた。

千畳敷駅からは来た道を引き返して、諏訪南インターに廻り、入笠山直下の宿泊地へ向かう。途中で少し遅れると電話を入れ、車を急がせた。釣瓶落としの秋の日は暮れかけていた。

日の出のセレモニーが終わり、いつの間にか朝景色になっていた。花のシーズンに賑わっていた山頂も季節外れで時間も早いため、数える程の登山者がいるだけで静寂に包まれている。

方位盤で名の知れたアルプスの山名を確かめ、友は入笠山頂から立ち去りがたいようだ。友が南アルプス連峰の方に向けて、双眼鏡で富士山を眺めていた後ろ姿を、時が過ぎた今でも忘れられない。

入笠山を南にくだれば、高層湿原の大阿原湿原、シラビソンの釜無山への道がのびる。朝食時間がくるのでそのまま山

見られる。スズランに会いに来た去年の初夏、マナスル山荘に泊まった僕の話で、友もその気になった。

妻妻家の友は、お土産にする山の写真を撮ることに余念がない。手間少なく歩ける山に、時々友は妻同伴で出かけている。山荘の御所平峠からは、30分ほど歩けば展望優れた山頂に立て、夫妻におすすめしたい山でもある。

入笠山へは中央本線青柳駅と、すずらの里駅から登る道がある。御所平峠の入笠山バス停まで諏訪バスがシーズン運行している。富士見パノラマスキー場のゴンドラリフト流屋は、入笠湿原直下まで上っている。

御所平峠からの入笠山はあまりに近すぎて物足りない場合、富士見峠から車道を上げる途中に沢入登山口がある。富士見峠近くの富士見公園では、この地を愛したアララギ派の歌人、伊藤左千夫や斎藤茂吉らの歌碑が見学できる。

富士見駅からのバスが停まる入笠山登山口(沢入登山口)から入笠湿原までは1時間余りの道程。バス停そばに道標があり、カラマツ林主体の道がのびる。アノラ山の山腹を捲いて、木道を敷いた

抜ければ、カヤトが道を占め山頂に近づく。スズランが散り去った後、マツムシソウの群生する場所である。マツムシソウのほか、ヤナギラン・サワギキョウなど、夏から秋にかけても花は豊かだといふ。

ほどなく諏訪の富士見町、上伊那の高遠町と長谷村境の入笠山(1955.1m)に登り着いた。山頂は小石が散らばる禿山で、約束通り眺めが優れている。南アルプスは無論のこと、北アルプス・中央アルプス・八ヶ岳連峰など、あこがれ心をかきたてる。

入笠湿原に出る。この道は僕は、去年の6月に歩いてい

初夏にシラカンバが点在する木道をめぐれば、クリンソウ・ベニバナイチヤクソウ・レンゲツツジの花々に出会える。入笠湿原から御所平峠へは10分程で、天体望遠鏡のドームを屋根にのせたマナスル山荘がある。

きのうは山荘に着くのが遅く、食堂は僕らだけで静かだった。去年の山荘は、鈴蘭山の愛称がある入笠山への団体客で賑わっていた。山菜の天ぷら・やまめの塩焼き、かりん酒をいただき、見知らぬ人達と山の話をした、初夏の思い出が無性に懐かしい。

入笠山で日の出を見るため、朝食の前に山荘を抜け出し、薄明りの登山道に入る。入口にお花畑を知らせる小さな看板

庄へ下山した。

林檎二つと山の絵葉書をお土産に貰い、山荘に別れを告げる。守屋山へ向かう僕達を、玄関前の鐘を鳴らして山荘のご夫妻が見送ってくれた。

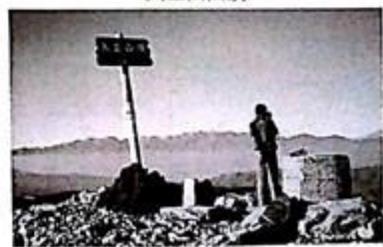
諏訪大社の守屋神社奥宮があり、海底火山による緑色凝灰岩の峰を指し、登山口の杖突峠へ車を走らせた。また一つ展望の優れた山を歩けると思うだけで、僕の胸はときめいていた。

(平成11年11月21日・22日歩く)

▲三ノ沢岳コースタイム▽
千畳敷駅(40分) 極楽平(2時間10分)
三ノ沢岳(1時間50分) 宝剣岳分岐(50分) 乗越浄土(30分) 千畳敷駅

▲地形図▽2万5千||木曾駒ヶ岳・赤穂
▲入笠山コースタイム▽
御所平峠(35分) 入笠山(25分) 御所平峠

▲地形図▽2万5千||信濃富士見・茅野



入笠山山頂

比良山系北部のバス・ハンティング

地蔵峠・横谷峠・荒谷峠・滝谷越

比良

小山 誠次

今年暖冬で、いまだ比良山系には積雪が無い。今回は比良山系北部のあまり人が通らない峠道を踏破することとした。なお、地蔵峠から横谷峠までは、北稜をそのままとったものではない。

平成18年12月16日、前日の天気予報によれば、滋賀県と京都府の降水確率は、南部・北部共に午前0%・午後20%であったが、当日朝の予報では全て午前0%・午後10%と改善し、晴れのち曇り、最高気温は13度とのことであった。こしはらくの土・日曜日は降雨が続いたので、久し振りの登山日和である。

京都駅に急いでくれる妻の運転する車からは、東福寺の紅葉はまだ色鮮やかで、

今時分になっても楽しめるのは暖冬ならではのこと。しかし、観光客はもう少ない。

京都駅8時15分発の敦賀行き新快速は、今の時期は湖西レジャー号ではないので、志賀駅には停車しない。西大津駅あたりから日が差し、上空には巻雲が羽毛状に棚引いている。打見山から堂満岳中腹には断片的に層雲も浮かんでいるが、やがて消滅するだろう。

8時55分近江高島駅に到着し、9時03分発の畑行き高島市コミュニティバスに乗った。途中、運転手さんが「狐だ!」と言ってバスを止めると、警戒心がまだ育っていないのか、一匹の子狐がバス路

いだった。生き残った大和乗組員が、亡くなった戦友の母親に報告するシーンである。実は本日帰宅後にもう一度チェックすると、棚田と牧場もよく写っている。

八幡神社の側を通り、道なりに進むと左に直角に折れて平坦な道になる。右手にのびる舗装路をやり過ぐすとすぐに地道になった。いよいよ山道である。牧場を開けて入ると、始めは見谷川左岸に沿

うが、途中で右岸に渡る。間もなく広城林道・鶴川村井線が建設されたときにいっしょにつくられた階段を登ると、舗装された林道に到る。

本日は林道に沿ってグルッと廻るルートではなく、ここから直登して元々の地蔵峠道をたどる。4分後に再度林道に出合う。ここからは現在も比較的良好とどられていた道である。落ち葉が堆積し、適度にクッションになった溝状の古道を登高する。

本日は無風なので、バス停を出発するときからアウターウェアを脱いでいたが、それでもかなり汗をかいてきた。二回目の林道出合を出発して32分後、北稜と合流し、その2分後には地蔵峠に到着した。10時40分である。

何と、噂には聞いていたが、鶴川村井線とはまた別の林道がここまで建設されている(写真1)。以前に村井から地蔵峠に登る山道をたどっているとき、建設中の林道を見かけたが、それがここまでのばされたのである。

2分後に地蔵山に到着し、リトル比良方面を眺めるが、本日は岩阿沙利山のガレがあまりよくわからない(写真2)。霧

(写真1) 地蔵峠までのびた林道



線近くを走り廻っている。乗客のおぼさん方から歓声が上がった。

9時26分畑バス停に到着し、準備を整えて5分後、地蔵峠を目指して左側の坂道を登り始めた。すると3分後に「男たちの大和 撮影現場こちら」と、道の左側に矢印で案内がある。ちょうど二週間前、たまたまその映画のDVDを観賞したばかりだったので、すぐにシーンを思

がかかっているのか、見通しが悪い。一方、山頂の落葉樹にはもうほとんど葉が残っていない。さすがに12月の比良山系である。

11分間の休憩後、10時53分北方に向けて出発する。2分後に地蔵峠のお地蔵さんに手を合わせる。先程は新しい林道に気を取られ、合掌するのを忘れていた。さらに2分後には先程の往路を右に見送る。そして10分後、北稜から左側に分岐する尾根をたどることとする。ここで標高710mである。

この尾根上は植林帯がずっと続き、北稜に近い所では鹿の皮剥ぎ防止対策のために巻かれるテープは黄色だが、下降して行くとピンク色に変わってゆく。なかなかおもしろい。確かに鹿が多いようで、「ケーン」という鳴き声と共に逃げて行く姿を三回も見かけた。この下降斜面の尾根はやせていて、左右共に谷に挟まれているのがよくわかる。さらにそのままドンドンくだると、ついに鶴川村井線の路面が足許に見えるようになってきた。

何と、最後は感覚的には垂直に近く下降しているようだ。今までの経験上、感覚的に垂直に近くというのは、実際の斜



(写真2) 地蔵山からリトル比良と落葉



らルートが続いて
いたのだろうか。
峠谷左岸の踏み
跡はそのまま横谷
峠へと続いている
ようである。注意
深く観察すると、
途中から獣道と平
行するようになって
いた。そして、獣道
が踏み跡と合流し
た所のすぐ目前が
横谷峠の平である。
結局、峠谷そのも
のはなく、峠近くの
踏み跡は、峠谷左
岸中腹を通行する
ようになっていた。
横谷峠到着は12
時14分。標識には、
村井(難路)と記
されているが、大
津ワングル道への
分岐点で難路と記
されているとは

だいぶ意味が異なる。ここでは、難路で
はなくて廃道と記すべきである。
5分間の休憩後、北稜を北方に向かう。
今朝方、上空の巻雲を見たときは基本的
に青天だったが、いつの間にか高層雲が
全天を占めるようになった。太陽の位置
はよくわかるが、北稜の木々の密集した
場所は薄暗くなっている。
12時34分、荒谷峠に到着した。1分後
に東側の峠下で昼食タイムとする。空模
様からあまり落ち着いていられそうにな
いが、握り飯と新発売のカップラーメン
の後は、暑いコーヒーを楽しんだ。しか
し、空模様だけでなく、じっと坐ってい
ると、やはり12月の稜線ということと思
い起こさせてくれる。途中でアウトウェ
アを再着した。30分間余りの大休憩だっ
た。
さて、今まで坐っていた場所は、実は
峠道だったが、すでに木々が生い茂っ
て道のような外観を呈していない。ただ
し、そこを抜けたら間もなくジグザグに
付けられた滝状の古道となる。荒谷峠道
は落ち葉が積もりすぎ、かえって足下が
不安定になるので、適当に土手を歩い
たり、短縮ルートを選んだりしながら

度60度位である。林道建設時の落石防止
用金網を固定するワイヤーが張り巡らさ
れているなか、確実な支持として利用し、
さらに樹幹を持ち替えて慎重にくだり終
え、無事に舗装路に立った。11時24分
である。ここは横谷トンネルの西口から歩
いて5分位のマーキングのある所である。
標高470m。最後はなかなか急な下降
斜面だった。あまり人にはおすすめで



(写真3) 横谷川へくだる道

ないルートである。
さて、これからは鶴川村井線をとど
て少しトンネルに近づき、左手下方に見
える横谷川までの道を下りて行く(写真
3)。すると、すぐ目前に堰堤があり、
その左岸から乗り越えたが、どうも右岸
からのほうが容易だったようだ。次に右
岸に渡り、壁になっている岩を乗り越え
て再び左岸に戻り、そのまま少し進むと
目指す谷に出合った。今、仮に峠谷と名
付けておく。ここから標高差180mを
登ることになる。
周囲を見廻して昔の道跡を探すと、峠
谷左岸の小さな尾根に残っているように
思えた。それをたどると、不明瞭となっ
たので、峠谷の一つ南の涸れた石のゴロ
ゴロする谷を直登することにした。登高
途中で昔のマーキング跡を発見したが、
このあたりは踏み跡すら残っていない。
こういうルートは後続者への落石事故を
心配しなくていいから、単独行のほうが
楽だ。もう少しそのまま登り、ようやく
下を眺めて横谷川が視界から消えた頃、
左手の峠谷左岸の小さな尾根へと続く細
い踏み跡に出合った。おそらく元々は、
今登って来た谷をジグザグに交叉しなが

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆



オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームの登山ザックです。

☆25L☆

- ・カラー ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー・ワイン×ネイビー・スチレン×ネイビー
- ・重量 820g
- ・素材 ナイロンU・リップ
- ・価格 ￥11,500

イモック山遊行くらぶ

11月11日 大峰山系の山
11月22~25日 殿久磨の山
12月16日 兵庫の山で毎年

詳細はお問合せ下さい。



IMOCK
KOBÉ

〒653-0025 神戸市兵庫区日吉町3丁目1番30号
カナノビル2F

TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528

■営業時間/10:00~20:00 ■日曜日本店休



(写真4) 滝谷越取付点

だった。意外にも時々マーキングに出会う。しかし、ほぼ一本道である。

出発してから15分後、荒谷川の渓音が右下方より聞こえてくるようになった。その2分後、道が三本に分岐している。しかし、右下方からの渓音が一層強くなっている。躊躇せず右側のルートを選択した。さらに下山すると、ついに荒谷川べりにやって来た。小さな溪流で

ある。ここで標高4700m。見れば、荒谷川左岸上流へも道が続いているが、これは今下山して来た尾根の一つ南の尾根をたどるルートである。

荒谷川を渡り返しながらの道をくだると、7分後に本来の横谷峠からの道と合流し、その3分後には鶴川村井線と出合った。本日四回目の林道出合いである。ここで標高4000m。このまま鶴川村井線を左に折れて進むこととする。

13分後の13時50分、ボボフダ峠(須川峠)への標識に出会い、その2分後には滝谷越の取付点に到着した(写真4)。ここで標高3400mである。この林道が完成するまで続いていた山道は今や寸断されているので、少しやぶを漕いで本来の滝谷越の山道にのった。さすがに人もほとんど通っていないようで、少し登ると道の左右共に生い茂った木が邪魔になるぐらいである。

12分後、周囲が開けた場所によって来た。ここは境界を示すためだったのか、古い鉄条網が半分壊れたままで残っている。この場所からの眺望はさしずめ京見峠ならぬ、畑見峠が相応しい。遠方にはカラ岳・釈迦岳・ヤケオ山、手前には畑

言うまでもない。また、先程の滝谷川右岸の明瞭な山道は中央の道であろう。すると、右の道はどこに? と見廻すと、堰堤すぐの左下流左岸に登路がある。その道が堰堤を左岸から捲いていることまでは確認できたが、後はわからない。そのうちに調べてみたい。

さて、堰堤からは一部分の地道を除くと、舗装路が富坂口まで続く。出発するとすぐの右手後方に、先程の支流の堰堤もよく見える。水量は同じ位のようなので、そのまま下りの林道を進むと、滝谷川を渡り、これから右岸沿いの道となる。

富坂集落の民家の前までやって来ると、再び左岸に渡る。願証寺で一礼し、4分後の玉津島神社では石段を上がって参拝後、高層雲のままで降雨に遭遇しなかったことにホッとしながら、15時22分富坂口バス停に到着した。1時間後の16時23分発の近江高島駅行きバスは、朝方と同じ運転手さんだったので、和やかに再会の挨拶をして帰途に着いた。

本日は比良山系北部のあまり人の通らない峠道を踏破する目的で山行を実施した。同じく北部の植谷峠道は来年の課題

集落の一部が眺められるが、残念ながら午前中以上に曇りかかっている。スリッパと写真を撮る暇はない。

さらにそこから4分後、いよいよ滝谷越の頂上に到達した。標高4400m。何と、そこには造林公社の小屋が建てられている(写真5)。中を覗いたが、天井から一本の紐がぶら下がっているだけで何も無い。今たどっている滝谷越と直角に歩く尾根ルートもおもしろいな、と考えながら9分間の休憩をとった。

ここからは最後の下降である。歩き出すとすぐに滝谷川支流の渓音が聞こえてきた。道はさほど問題なく続いていて、いったん小さな支流を渡り、そのまま直ぐ一つ北の尾根の末端を登り返すと、最後の頂上である。

だが、ここからの道がやや不明瞭である。少し様子を窺うと、幸いにも滝谷川本流に建設された大きな堰堤が下方遠くに見えているので、ともかくそこまで落ち葉で滑りやすい斜面をくだることとした。すると、滝谷川右岸に明瞭な山道を発見した。後はそのまま堰堤を見上げる位置まで滑落しないように慎重にくだり、最後は本流に架かる古い小さなコンクリー

として残すこととした。本日は三度の峠越えのアップダウンを果たし、まさにピーク・ハンティングならぬ、バス(峠)・ハンティングの一日だった。

(平成18年12月16日歩く)

▲コースタイム▼

畑バス停(3分) 撮影現場(21分) 広域林道・鶴川村井線(4分) 再度の林道(32分) 北稜出合(2分) 地蔵峠(2分) 地蔵山(2分) 地蔵峠(2分) 往復分岐(10分) 北稜分岐(17分) 三度目の林道(4分) 横谷への分岐(44分) 横谷峠(15分) 荒谷峠(1分) 峠下(17分) 三方向への分岐(2分) 荒谷川(7分) 横谷峠道との合流(3分) 四度目の林道(13分) ボボフダ峠入口標識(2分) 滝谷越取付点(12分) 眺望所(4分) 滝谷越頂上(7分) 滝谷川支流出合(3分) 一つ北の尾根頂上(10分) コンクリート製の橋(23分) 願証寺(4分) 玉津島神社(14分) 富坂口バス停

△地図・地形図▼

昭文社『比良山系』(2006年版&1989年版)
2万5千1:1北小松



(写真5) 滝谷越の頂上に建つ造林公社の小屋

ト製の橋を渡って、事実上本日の山行終了である。ここで標高3500m。
角倉太郎著『比良連嶺』(昭和16年再版)によれば、「……滝谷をしばらく登るとやがてそれが三つに岐れる。いづれにも道がついてる。左は——畑へ越え、中央は——谷に沿って主脊へ向ふ。……右は——頂上までの最捷徑である」とのこと。畑へ越える道は滝谷越であることは

新ハイ関西97号
標高△△97mの山

野谷荘司山	(1797m)	白山
高竜寺ヶ岳	(697m)	丹後
蕎麦粒山	(1297m)	奥美濃
上谷山	(1197m)	江越国境

野谷荘司山

白山連峰の北縦走路の途中にある、もうせん平に行ってみたくて、時高さんと高橋さんの3人で出かけた。もうせん平名付けられた平は優しい感触の別天地ではないかと楽しみだった。

スーパー林道の駐車場に車を置き、三方岩岳の急な登山道に登る。続いて今回の最高点の野谷荘司山に登った。両山共、6月下旬だから山頂は暑かった。しかしもうせん平は雪がシャーベット状に一面に残っていた。不思議なほどひんやりとっていて、冷やしたビールが必要なくらいだった。

らいだった。

下山してスーパー林道の途中にある露天風呂の親谷の湯に入った。蛇ヶ滝という名の美しい形のナメ流を眼前にして入るのはすばらしいのだが、すぐ横を滝見物の観光客が行き交うので緊張感あふれる露天風呂だった。

(平成8年6月23日歩く)

ACコースタイム

白山スーパー林道駐車場(3時間) 野谷荘司山を経由してもうせん平(2時間30分) 駐車場

△地図▽昭文社「白山」

高竜寺ヶ岳

山の案内書「京都ふるさと登山50選」の扉写真を飾っている高竜寺ヶ岳山頂の賑やかな山名表示標から山頂展望のすばらしさを推し測って、三宅さんと2人で行った。

丹後の加悦町から滝峠を越えて但馬に入り、但馬の但東町から再び丹後へと今度はトンネルで抜けた。トンネルは「たんだんトンネル」と名付けられている。丹後側に出た所に林道との分岐があって、そこが登山口だった。

トンネルが出来るまでは車での峠越え道だった道を登り始める。耐ヶ畑峠に近づくと、深山の趣漂う奥深い雰囲気のある道となった。

峠に出るといったん興醒めしてしまうが、峠より高竜寺ヶ岳への細径に入ると、また次第にその森の良さが増し、山頂直下などは近畿地方の1000m未満の山を歩いているとは思えないほどの質の高いブナの純林だった。

山頂は秋から早春にかけてだったら、さぞ美しい山並に見えることだろう。こ



の季節では、いくら晴天でも低い山の連なりなので感興を覚えるには至らなかった。

しかし予想をはるかに上回る難しい山だった。(平成18年7月9日歩く)

ACコースタイム

たんだんトンネル丹後側入口林道分岐(1時間40分) 高竜寺ヶ岳(1時間) 林道分岐

△地形図▽2万5千1須田

蕎麦粒山

会山行で7人で行った。奥美濃を代表する山だけあって、登りこたえのある山だった。

五蛇池峠へ通じる本谷のしっとりとした谷筋の樹林帯と、尾根に取り付いてから急登の連続する灌木帯の登山道との対比は、深い緑と明るい緑との対比でもあって、二つの緑のシャワーのなか、心はずませて往復した記憶が残っている。持って上がるのが重く、作るにも手間のかかるホットケーキを昼食後に山頂で作った。体力的に余裕のあった頃だったなあと、懐しい思い出となっている。

(平成4年5月31日歩く)

ACコースタイム

大谷川林道車止(4時間) 蕎麦粒山(2時間30分) 車止

△地形図▽2万5千1美濃広瀬

上谷山

須藤さんがリーダーの「岩と雪」大津店のスキーツアーで登った。7人のパーティだったが、山の会のメンバーがその

うち4人なので、まだ滑ることに全くといっていいほど不慣れだった私としては、参加しやすい状況だった。

積立の集落から500m程上流の地点、手倉山のある尾根の末端から登り始めた。長い尾根だが急斜面があまりないので、初心者でも体力さえあれば登りやすいコースだ。

当日は快晴で遠くの見晴しは抜群だったが、何しろ初心者の私は皆さんについていけることだけが目的のような身分、景色の記憶がほとんどない。

山頂で奥美濃の大展望を楽しむ余裕はなく、ただ食料や水分の補給と、シールをはずして滑る体勢の準備でいっぱいだった。

でもこの尾根の長丁場を往復できたことが、その後の山スキーの楽しさに発展していったポイントとなる山行だった。なおコンサイス日本山名辞典には「うえのたにやま」で載っている。

(平成10年2月22日歩く)

ACコースタイム

手倉山尾根末端(7時間) 上谷山(3時間) 尾根末端

△地形図▽2万5千1広野・板取

迫子・迫間・古和浦・大山各浅間山

南勢

薮木伸人

日本一の霊峰富士山を崇める富士信仰は、古来よりあったが、江戸後期、大いに流行するようになった。富士講が組織され、6月1日から21日にかけて、白衣をまとい鈴を振りつつ、山頂の浅間社に参拝したという。

富士講を江戸期に流行させた見解は、伊勢国川上村(現、津市美杉町)出身で、江戸商いで成功後、信仰に帰依したそうである。

この富士講は、従って南勢地域でも盛んで、1965年頃までは、多くの地区に残っていた。ごく最近も、何十年ぶりかで再開された例がある。私の行動範囲である松阪以南には、浅間社の造られて

いる山が多い。詳しくはわからないが、遙か遠くの富士山まで出かける代りに、地元の山を信仰の場としたのだろう。

山頂に祀られている大日如来は、密教の教主であるが、浅間神社(富士宮市にある駿河国一の宮)の主祭神は木花之開耶姫であり、両方が並べて祀られている山もある。また、この辺りでは、大峰信仰の象徴である役行者がいっしょに祀られている所、浅間社の轡に「大漁」の文字が染め抜かれている所などもあり、なかなか興味深い。

志摩市から大紀町にかけては、小曾坊塩屋、松山路、切原、五カ所、宿浦、田曾浦、阿曾浦、滝原、阿曾など数多くの

備された階段道(七三六段)だ。姥目樫のトンネルを抜けると、山頂が見えてくる。浅間社は林のなかであるが、約40坪南に展望台が設置され、横山から鶴方の街、賢島、先志摩半島、浜島、五カ所方面、局ヶ頂へと広範囲の展望が得られた。(平成18年2月12日歩く)

▲コースタイム▼
階段登り口(25分) いっぱく峠(10分)
山頂浅間社(20分) 登り口

迫間浅間山は、南伊勢町(旧南勢町)迫間浦漁港から登った。海辺の街の趣ある坂道を登って行くと、石垣と白壁を越えて空にのびる蘇鉄が見えてくる。海雲寺山門前に着き、山頂部を見ると、旗のようなのを確認できた。

南嶋新四国八十八ヶ所の標石の間を登り、第二十五番石仏から折り返す。右に天満宮の社を見ると、すぐに浅間社の赤い鳥居があった。手すり付きの舗装路をひと登りすれば、山頂である。4等三角点は、点名、海雲寺、標高1111・444坪。ここは磐跡だったらしく平坦で、周りに立木はあるものの、北方以外は好展望が得られる。迫間浦漁港を下に見て、

迫間浅間山より迫間港



浅間山がある。その内、私が近年登った、海に臨む四山を、登った順に紹介してみよう。

迫子浅間山(1833坪)は、リアス式海岸美で名高い英虞湾を望む、横山(点名、浅間)から約3000坪、尾根続きの山である。農免道路脇から登る路は、近畿自然歩道になっており、ほとんどが整

北東は五カ所、龍仙山、正面の半島奥には宿田曾の浅間山、南には南海展望台が輝く海と共に望まれた。養殖後の間を、時折漁船が行き交う。のんびりしたくなる頂だ。(平成18年2月18日歩く)

▲コースタイム▼
漁港(10分) 海雲寺(15分) 山頂浅間社(20分) 漁港(※北からも登路あり)

古和浦浅間山も、海辺の街の小さな山である。昔は、古和峠か錦峠の道がなかなか大変だったが、今では、トンネルの開通によって国道42号線からずいぶん楽に行けるようになった。社へと続く石段の登り口には鳥居が立っている。登り始めてすぐ下の社に着いた。道はしっかりしており、三合目の石標が立つ所から古和浦の街が見えていた。

その後、山頂の手前で再び海が見える以外は照葉樹林のなかで、ほとんど展望は無かった。山頂の社は標高180坪にあり、ヤマモモの古木が印象的だった。その他、ムベ・アケビ・シキミ・シロダモ・ソヨゴ・ネズミモチ・ヒサカキ・ヤブツバキ・ヤマビワ・スダジイ・アラカシ・シラカン等の樹相だった。



迫子・迫間・古和浦・大山各浅間山付近略図

冬春号 パンフレット完成

冬の増刊号！

暖かい南の島から北海道まで、豊富なツアー設定。初心者の方からの雪山基礎講座も開催。海外ツアーも満載！



お電話
おはがき
FAX・HP
にて！

**送料・本体無料
ご請求ください！**

弊社カタログ
ラインナップ



総合カタログ 山歩き教室

見ごたえたっぷり国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のためのための、山歩き教室カタログ。それ以外にも、世界遺産やパードウォッチングのツアーもあります！お気軽にお問い合わせください。

山岳添乗員・山岳ガイド募集

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amtsa@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377



古和浦浅間山より古和浦

(平成18年4月1日歩く)
△コースタイム▽
登り口鳥居(35分) 山頂浅間社(25分)
登り口

志摩市浜島町の大山浅間山も、南を通っている車道脇の鳥居から登り始める。登路は明確だが、私達が登った春には、両側から道にかぶさってきているコシダが

少々うっとうしかった。モチツツジとヒメハギの花が時折慰めてくれた。
途中で浜島の街、英虞湾、先志摩半島の先端黒森(岬山)が見える所があり、さらに登ると、「展望台」に着く。「標高一三九m」とある。四阿があるものの、周りの木がのびていてほとんど展望は無かった。枝の間から局ヶ頂を確認する。木の鳥居を潜り、「南無大山浅間大菩薩」の幟が並ぶ坂道の先に、屋根付きの祠があった。大日如来と不動明王、役行者らしい。毎年6月28日に、浅間祭が行われているそうである。
ここが山頂かと思ひ、三角点を探したが見つからないので、さらに尾根を進んでみると、2等三角点、浜島、標高156.5mに出会えた。傍らには、2層程の自然木三本が、昔の灯台のように組まれて立っている。三角点の辺りだけ、ぼかり空が仰げる山頂で、優雅に舞うクロアゲハやアオスジアゲハをしばらく見物北へくると、メロンで有名な南張にくだれそうだった。
往路をのんびり戻ると、ルリセンテコガネに出会った。ウゲイス・シジュウカラ・トビ・コジュケイたちの声もしていた。

(平成19年4月30日歩く)

△コースタイム▽
登り口鳥居(20分) 展望台(5分) 浅間祠(5分) 三角点山頂(25分) 登り口

海が望める山も、それぞれ個性があった良いものだ。急な石段を登った先にすばらしい展望が待っていた切原浅間山、たわに突った檜の香を嗅ぎながら登った五カ所浅間山。途中で道を横切る瓜坊たちに出会った宿浦浅間山など、想い出深い山がたくさんある。

△地形図▽
2万5千浜島・五カ所浦・相賀浦・古和浦

△参考文献▽
・伊勢山の会「南海の山40山」(2003年)
・伊勢志摩国立公園協会「伊勢志摩ウォーキング50」(1999年)
・明和町史編集委員会「明和町史」(1972年)
・HP「伊勢志摩きりり千選」
・三重ことわかもの育成財団育成グループ広報紙「わかすぎ」(一一八号、2007年)

岐阜百山の美濃侯丸・御前岳

奥美濃

山田明男

岐阜百山は120だが山の数は124山、そのうち登山道の無い山が30もある。「残雪期に登る山で登山道は無い」と案内書に記載されている山がそれである。美濃侯丸もその一つで、福井と岐阜の県境の山で三周ヶ岳の北に位置している。三周ヶ岳は県境稜線を外れているので、三周ヶ岳からでは行けない。稜線上はやぶで、しかも距離は夜叉ヶ池からだとも程もあり、これもまた無理である。残雪期にはどこまで車が入れるかが問題になり、広野ダムから歩き出すと、夜叉ヶ池でテントを張って2日が必要になる。私は、やぶ山であってもまず現地を見て、行けそうであればやぶをかき分けて

も歩きたいほうだから、下見のつもりで、07年6月17日に美濃侯丸に出かけた。出かける前に地図を確認する。これまでに行ったやぶ山でも、まずは地図で見るところから取り付くのが一番楽に行けるかを判断した。判断したらそのように歩いて、ほとんどのやぶ山に立ってきた。近江の金山、岐阜の高丸山・猿ヶ馬場山・笈ヶ岳・御前岳・火山・傘山、そして今回の美濃侯丸である。野伏ヶ岳・願教寺山・烏帽子岳・釈迦堂などは次の予定だ。唯一行けなかったのは日照岳で、やぶがひどくて1300付近で締め、残雪期に挑戦することとした。美濃侯丸は、地図で見ると鈴谷を奥ま

八合目付近より美濃侯丸山頂を見る



で進んで、尾根を登れば直線で2kmで山頂。現地は傾斜があるので距離は三割増しで3km弱だろうか。それでも近いから行けるだろう。これまでの経験から激やぶなら3kmが限度。2kmならやぶの程度によるが十分歩ける距離である。朝7時15分に7名集合。現地・広野ダムの先、鈴谷では9時になっていた。林道は車が入れる広さだが先がわからない

ので、入口に駐車して歩き出した。想定した取付口近くまで林道がのびていればよいがと思っていたが、半ばで橋が落ちていて車は入れない。林道終点はまさに想定した尾根の下だった。見上げる尾根



山頂の山名板と三角点

は傾斜もきつくやぶもけっこう濃そうだ。200m程登って休む。その上からはやぶも薄くなり、傾斜もゆるくなり歩きやすくなった。やぶは最後まで濃くならずに行けたし、上の尾根に合流すれば、かすかな踏み跡とテーピングも見られた。しかし尾根はわりに広い所が多く、下りは苦勞しそうだ。目印になりそうな大きなブナの木、尾根の分岐や傾斜も頭に入れながら歩いた。

山頂が眺められるようになってからでも、山頂まで1時間程かかった。しかし人の歩いた跡がわかるようになり、気分はずいぶん楽になった。山頂手前には急な岩場があるが、シャクナゲをかき分けて登り、下から3時間半で山頂に着けた。誰もいないと思って三角点の先の広場に行けば、男性3人がお昼を食べている。私もびっくりしたが、向こうはもともとびっくりにしただろう。7人も人間が尾根から来て3時間半だったと話したのだから。3人はミノマタ谷をつめて5時間半かかったと話された。

我々が山頂に到着する前に、同じ谷から来た4人が下りて行ったと聞いたが、林道で4人に追いついた。このグループ

も5時間半かかったと聞いた。

4人の内2人は女性で、大阪と岐阜の混成グループと聞いた。3人の男性は福井市からで、沢中心のグループのようだ。3人は先に我々の来た尾根をくだって谷に下りて行った。谷ルートは時間がかかり技術もいるが、迷うことはない。

尾根歩きは、上りでは迷うことがないが下りが難しい。印が無ければ、登った地点からどれだけ離れた所に下りるだろうか。記憶しているの、途中で修正しながらくだれば問題ないが、T氏が赤テープを途中に巻いてくれていたのでずいぶん助かった。下りは上りよりも早くくだれ、山頂から2時間5分で車だった。

山頂では三角点と山名板を写真に残し、周りの山々も写した。北の笹ヶ峰は地図で見ると限りのことから同じ2kmで行けそうだが、東の千回沢山と不動山はどこから入ればよいか検討中、やぶでは無理かもしれない。残雪期でもきつそうだ。徳山ダムが出来て水没した林道がうらめしい。林道が使えなくなってしまうのだから……。

△コースタイム▽文中参照
△地形図▽2万5千広野



美濃侯丸付近略図

岐阜県には御前と名の付く山が4つある。御前岳・御前山・下呂御前山・御前ヶ岳だ。御前岳のみ白山を選擇する山で、後は御嶽山を見ることが御前の名が付いたのだろう。御前山は萩原御前とも呼ばれ、下呂御前山と共に登山道があるが、御前岳と御前ヶ岳の2山には一般登山道は無い。

岐阜百山(120山)と統岐阜百山(130山)に御前岳以外の三つの山は入っていて、御前岳と御前山には1等三角点を設置されている。道が無いのになぜか、御前岳(1816.5m)は1等三角点の百名山に入っている。1等三角点を主に登っている人でも、なかなか行けない。1泊2日でやぶをかき分けて登っていて、日帰りでは難しい。



私達は、御前岳へ05年6月最初の土曜日に、日帰りです決行した(6月にならなと天生峠に入れないから最初の土曜日に入った。天生峠から初級山経由で5人、片道9kmのうち完全なやぶ漕ぎ3kmで14時間35分もかかった。このやぶはもうこりこりだ。ササやぶがひどい状態であるのと、尾根が広くルート選択がけっこう難しかった。

06年、3月中旬、白川村木谷の集落から林道伝いに入った。その年は雪が多すぎ、6時間歩いても標高1700mだった。お昼を食べて撤退した。

06年5月14日に9名が再挑戦して登頂し、11時間で往復することができた。

07年は雪の程度を考えて4月8日に所属する会の例会として、06年5月と同じルートで11人が挑戦したが、雪の状態が良く10時間で往復できた。

山頂では同じ会の知人の夫婦が隣の栗ヶ岳から来て合流した。13人も大人数が道の無いやぶ山に集まるなんて、前代未聞である。

石川・岐阜・富山の三県境にある笈ヶ岳も道は無い。残雪期に多くの人が入っているが、二百名山だからだろう。

東北百名山を訪ねて、黄葉の山旅

小野岳・志津倉山・金華山他

東北

生駒 聳 峰

黄葉の時期に東北への山旅を考えていたが、姪の結婚などで出発が遅れた。秋も遅くなると東北北部の山には雪が来るので、南部の福島県・宮城県、それから山形県・岩手県の南部あたりまでの山を目指すことにする。東北百名山を主にし、黄葉も楽しもうという計画である。

尾瀬沼(群馬・福島県)

新車は快適に走る。最近は何年かのこともあり、急がず、夜間の走行も控えている。東北までは1日では無理なので、以前から行ってみたかった秋の尾瀬に立ち寄る。

名神、中央道、長野道、上信越道と乗

り継ぎ、関越道に入った時には陽も西に傾き、赤城高原サービステリアに入って車泊した。今日は9時間600kmの走行であった。

翌日、沼田インターで降り、片品から尾瀬に向かう。シーズンの尾瀬はマイカー規制があり、鳩待峠には入れないので、尾瀬沼に行く大清水に走る。行ってみると大駐車場はガラガラ。ここから尾瀬に入るには1時間程の山越えになるので、大半の人は楽な鳩待峠に行くとのこと。

もう尾瀬はシーズンも終わり、山小屋も大方は休業しているとのことであった。今はマイカーが鳩待峠に入れるが、早く行かないと満車になる、との話である。

御前岳山頂にて



05年4月30日の11時頃には30人程が山頂にいた。近年多くの人が入っているのでもルート(登山道らしき道)が出来始めている。栗ヶ岳も登山道が無い山で、岐阜百山にも入っていないし、1等三角点も無いので登る方は少ないが、来年以降の予定に入れておきたい。

△コースタイム▽文中参照
△地形図▽2万5千1平瀬

尾瀬沼と燧岳



駐車料500円を払って林道に入る。車は少ないが、それでも観光バスが二、三台来ていた。尾瀬の黄葉はもう終わりがそうだが、峠に到る林道周辺はいま真っ盛り。まず来た甲斐があったというもんだ。

林道終点の一の瀬茶屋から三平峠への登りになる。黄葉は峠で終わり、沼までは針葉樹の森をくぐる。湖畔の小屋はす

の好きな「なせばなる」の碑の前で記念写真を撮る。今日は郊外の高島町の道の駅で車泊。

連日天候が良くない。雨は降っていないが登山は見送り、蔵王エコーラインに向かう。山脈沿いに北上し、遠刈田温泉から刈田峠に登る。峠に近づくにつれて、強風にあおられ視界も無く、車から降りることもできない。山の上と下では天候が大違い。仕方がないので早々に蔵王温泉にくだった。

蔵王も黄葉真っ盛り。何回か来ているが、山が目的だったので湯の町をゆっくり歩いたこともなかった。今回、小さい宿や外湯など、温泉情緒が感じられた。立石寺にも立ち寄ってみる。ここでも大勢の中国人に出会った。

泊まりはいつも道の駅なので、今夜は天童温泉を目指した。

また夜半から雨である。天気予報を見ていると、奥羽山脈を挟んで日本海側は雨。太平洋側は晴天になっている。それではと、山を越して太平洋側に向かうことにする。途中「おしん」で有名なになった銀山温泉に立ち寄る。狭い谷間の温泉街に観光バスが押し寄せ、駐車もままな

られ、しばし話はずんだ。

町の公園でお祭りがあり、露店が並び見知らぬ歌手が歌っていた。秋刀魚がバケツ一杯500円と言う。欲しいがそんなにたくさん食べられないと200円差し出すと、大きなやつを10匹も袋に入れてくれた。

さらに北上して本吉町の大谷海岸の道の駅に行く。鉄道駅と国道に面して騒がしいので、裏側の海水浴場に車を停めさせて先刻の秋刀魚の料理に大騒動。造りに塩焼きに煮つけと、おかげで酒がうまかった。

朝、海岸を散歩すると、昆布の切れ端が打ち上げられていた。昆布拾いは北海道で経験済み、早速集めて袋に詰める。

徳仙丈山 (711m) 2等 宮城県

徳仙丈山はツツジの山で、山麓一帯の高原はツツジで埋められている。花のシーズンには大賑わうらしい。山は高原の丘で、登山というより散歩感覚で登れる。展望は良く一面のツツジの原と、大森山のどかに望まれ、はるか北に五葉山が眺められた。シーズンオフの今は人影も無い。

らない。雨のなかを観光客の行列が続く。本日に観光は大変だ。名物の外国人女将の和服姿が珍しかった。

国道347号線で鍋越峠を越える。これも黄葉真っ盛り。しかし有名地ではないので観光客の姿も無く、のんびりと景色を楽しむことができた。この山越えの道は大型車が通れず走りやすかった。峠を越えると予報通り太陽が顔を出す。古川市に向かう途中に葉菜山の道標が出て、可愛い山が見える。この山も東北百名山だが、今日は先を急ぐので帰りに登ることにしよう。明日は金華山なので、今日は牡鹿半島女川港駅前の駐車場まで、道駅前にはトイレや足湯、浴場もあり、道の駅ではないが車泊に不便はなかった。

金華山 (445m) 2等 宮城県

金華山は島で、牡鹿半島の先端にある。女川港まで半島を縦断するコバルトラインを走る。けっこう距離があり小1時間かかるが無料である。港から船が1時間毎くらいに出て、20分で島に到着する。

渡船場のおばさんが登山姿の私を見て、「山を一周するコースは荒れているから行かないほうがよいです」と話しかけて

公園のセンターで昼食タイム。拾った昆布や布巾を干す。数本のモミジが真っ赤と真っ黄に染まっていた。登山後ののんびりタイムは、宿付きルンペンの特典である。

次に氷上山を求めて北上する。陸前高田の道の駅は広くて寝心地がよさそう。案内所には氷上山のパンフが置かれていた。

氷上山 (875m) 2等 岩手県

パンフの中から一番柔そうな玉の湯のコースを選ぶ。「時間がかかるが楽です」とパンフにある。林道には温泉玉の湯のぼりが各所に立ち、人里離れた山のかだが、けっこう人が来るようだ。温泉の上が登山口で、道標に従い小沢を渡り林のなかのおだやかな道をたどる。ここも黄葉真っ盛り。稜線に登り着くと、雷神宮と刻まれた碑とブロック造りの神社が建っている。後から1人の老人が足早に追い越して行く。とても速くて追って行けない。草原広場に出ると山小屋があり、その先に山頂が見えた。氷上山には三つの神社があり、先刻の雷神社は西御殿、中央の草原近くに中御殿、そうして

きた。登る人は少ないらしい。神社の島だが私に神社は無関係。港から神社まで15分くらい。登山道は神社の裏から始まる。荒れた沢を渡って1時間程で山頂に到着する。神社と2等の標石。大海原が広がっている。

女川からは海岸を走り、女川原子力発電所に立ち寄る。特に珍しいものはない。女川港のマリンバレス販売所で名物の松島牡蠣を買う。一つ80円くらいからで、大きなやつを開けてくれと言うと、店では料理できない規則だから自分で開けろ、と道具を買わされた。

今日も駅前まで車泊。温泉はあまり快適ではなかった。

硯上山 (520m) 2等 宮城県

太平洋側を北上する。山のある雄勝町は硯の産地で、日本の80%を生産する。町から山越えの峠に登山口があり、広い駐車場に案内板が立っている。林道が山頂まで通じているが、倒木があるからと車は通行止めになっていた。山頂周辺も整備され、休憩舎やアンテナが建ち、眼下に町から太平洋が望まれた。地元の人でも登って来て、大阪からかと珍らしが

山頂は東御殿である。山頂には先刻の老人がいたが、狭くて坐る余地もない。展望はまずまずで、太平洋が広がっていた。玉の湯に入る。先の老人は東北百名山の山登りで、青森から来て昨夜はここに泊まったと言っていた。これから面白山だと走って行った。

氷上山山頂



鉱泉は何か薬効があるそうで、老女が何人もたむろしていた。

天候も回復してきたので、奥羽山脈の山に戻ることにする。国道343号線を走っていると、猊鼻溪何々の看板がたくさん出てくる。今まで行ったことがないので観光して行こうと立ち寄ると、船でしか観光できない所で、夕暮れも迫っているの、近くの水沢の道の駅に走った。

11月に入り少し寒くなってきた。朝一番の船には5、6人。両側は岩壁が切り立ち歩く所もない。40分程で猊鼻溪に到着する。どうしてこんな難しい名が付けたのかと思ったら、岩壁に鼻のような突起の岩が出てくる。なるほどこれで納得である。溪流に大きな魚が群れている。よく見ると蛙である。東北のこんな上流まで蛙が溯上するとは思わなかったが、北上川から来るとのことであった。次々と来る船はツアー客で超満員。朝早くに来てよかった。

続いて厳美溪に走る。「げいび」「げんび」とややこしい。今まで漠然と記憶していたが、近くに二つの溪谷があるとは知らなかった。厳美溪のほうはテレビでも採り上げられ、団子を籠で吊し川向こ

洗濯もしている。温泉での洗濯は気が引けるが、連日の山行ではこれも仕方がない。今日は村山の道の駅で車泊。

翁山(1075m) 2等 山形県

4、ばかり林道を入ると、新しいプレハブの山小屋が建っている。人影は無いが道標もあり、良い道が付いている。朝の下界は霧のなかだったが、山は雲一つない晴天。下は雲海に埋まっていた。大きな沼(胡橋沼)が見えたので立ち寄ったが、湖畔に道は無かった。

小屋の登山簿には、休日に2、3組が記されていた。1日に一山と決めているので、早く登れると時間が余る。ここでもゆっくり昼食タイムを楽しんだ。今日は再び天童の駅で車泊。

面白山(1264m) 2等 山形県

今朝も霧に埋まる。平野が霧のときは山は晴天だ。天童高原に登って行くとき青空が広がった。高原はキャンプ場や牧場などの憩いの場で、折から11月の三連休。山に登る人も多い。道は明瞭で、水平道を長命水まで行き、左の尾根道に入る。直進する道は下山に使われることが多い

うから売るのが名物になっていて、大勢の観光客が集まっていたが、それほどの景色とは思わなかった。

中尊寺は何回も見ているが、毛越寺は初めてである。堂宇は戦で失われたと思っていたが、失火で消失したと初めて知った。大きな池を一周する。数本のカエデが真っ赤になっていた。

鳴子峡(宮城県)

栗駒山に行こうと花山の道の駅で車泊する。山村で、他に一台も車は無く寂しかった。

また天候が良くないので、栗駒山は止めて鳴子峡を目指す。ここも見ているのだが、ツアーではなかなか奥まで行けないので、最奥まで往復する。往復5・2kmの距離だ。今まで見ていた下流よりも、上流の溪谷こそが鳴子峡であった。これもフリータイムの旅のおかげである。今回はこのあたりから戻ることにしてしよう。

古川市から国道4号線を南下し、三本木の道の駅で車泊する。構内に小さい展示場があり、ここが亜炭の大産地だったことを知る。

このこと。一つのピークに達する。ここは三沢山で碑が建っている。面白山が大きくそびえる。まだだいたい高度がありそう。少し急で滑りやすい所もあり、最後の頑張りで稜線の一角に登り着く。山頂には十数人の人影が見えた。

展望はすばらしく、南方にはここより高い山々が重なっている。南面白山から大東岳だと言う。大東岳(1等)と言われて、登った時のことが思い出された。あの時はまだ元気だったなあ。今では山で会う人達によく歳を聞かれる。私より年長者の姿は少ない。

仙台に向かう国道48号線を走る。作並温泉、秋保温泉などの有名温泉地を訪ねてみようと思ったのだが、三連休の最後の日で、仙台行きは大渋滞で身動きできない。そこで反対方向にと遠刈田温泉に向かった。道は空いていたが温泉は車で埋まっていた。

日が暮れて車も少なくなり、共同浴場の神の湯で疲れを癒した。今日は温泉街の駐車場泊まりである。ラジオが、「秋の連休も終わり、明日から山のハイウェイは通行止になる」と報じている。行きに通った藤王エコー

葉菜山(553m) 2等 宮城県
朝5度と冷え込んできた。行きに葉通りした葉菜山を目指す。平野のなかの可愛らしい独立峰で、山麓には遊園地や牧場が広がり、温泉リゾート地にもなっている。

県道脇に大きな鳥居が立つ所が登山口で、神社の参道から山に入る。すぐ丸太階段が始まる。形の良い山はどこでも急傾斜である。706段の表示があり、1時間足らずで登れるが、急登で息が切れる。数が表示されているとつい数えてしまいかえって疲れる。山頂は双耳峰で、鞍部の石像に裁ち鉄が何本か供えられている。錆びたものから新しいものもあり、いったい何の仏だろう。山頂は展望も良く、2等の標石が入っている。

急階段は下りも歩きにくい。行き違った地元の人、裏側は楽な道ですと話していたが、車を置いているので仕方がない。

行きに通った鍋越峠はすっかり落葉していた。1週間余りでもう冬を感じる。花笠踊りの発祥地の徳良湖で、温泉に入って洗濯と汗流し。山行後に温泉に入るのいつものことだが、温泉では下着の

ラインも閉鎖され、東北の山は冬に向かう。もう登山シーズンも終わりに近い。

青麻山(800m) 3等 宮城県

白石市に向かい青麻山を目指す。今回の東北最後の山になった。手前のアンテナピークまで車道がある。こんもりとした形の良い山で、麓は枯木が広がり秋の終わりを告げている。1時間程で簡単に頂上に立つ。石の祠と3等標石が入っているが、今回の登山で唯一3等だった。行きにも泊まった高嶺の道の駅で車泊。また雨である。予定していた始山は中止して南に向かう。会津坂下の道の駅で一泊し、越後山脈沿いに只見ダム道を走る。周辺には登った山、登りたい山が連なる。このあたりももう一度訪れたい所である。地震で大変だった小千谷市から十日町を通り、野沢温泉で泊まる。

ここで2日間、朝に夕に外湯めぐりを楽しみ、長旅の疲れを癒す。おみやげの信州りんごや野沢菜を積み込み、一路大阪を目指した。

黄葉の山と温泉を楽しんだ25日間の旅が終わった。
(平成18年10月17日〜11月10日)

道迷い山行②

塔尾金明神・コリカキバ・イブネ

鈴鹿

長谷川 雅俊

いつも御池岳周辺ばかりでは能が無い。どこへ行くか考える。久し振りにお金さんへ山歩き的安全折願でもお願いしてこよかなという具合で、自宅を20時53分出発。朝明駐車場に22時29分到着、満月のためのかけっこう明るい。駐車場は小生の車も含めて二百台だけである。ぐっすり眠って朝4時起床、今回も風が強クゴーゴーとうなっている。

4時42分、ヘッドライトを点けて歩き出すが強風のため、けっこう寒い。10月ともなるとさすがにキャンプする人も少なく、人の気配が感じられない。新しく舗装された林道を歩いて行くと、ジュースの自動販売機の所だけが明るくなって

思ったが、しばらくしてから右の方へ曲がって行き、小さな沢を渡ると中峠のプレートがあり、ホッとす。しばらく右手に沢を見ながら急登するが、せっかく登ったのに木につかまって谷へ下りる。目の前に大きな堰堤があり、左岸へ渡る。急斜面を登り、そろそろ明るくなってきたので周りが見渡せるように早目にライトを消す。やぶっぽい斜面をかき分けながら斜めにトラバースすると、右手に石垣が続く。ガレ沢にぶつかって道が無くなる。再びライトを点けて戻り、石垣の上を行くと道がある。そのまま道なりに谷を下りると滝が現れる。滝と呼はれている。右岸へ渡り目の前のガレ沢を直登し、左斜面に取り付く。そのままガレ沢を横切り次のガレ沢(野流の上)の

いて、ちょっぴりホッとす。小生でも暗闇の中を一人で歩くのはやはり怖い。今回は伏木谷から登る予定だが、果たして登山口がわかるのか心配である。たとえ登山道が無くとも、目の前に尾根や谷があれば、そこから登ればよいから問題ないが、朝明のように、ちゃんとした道があつて、林道歩きの後、暗闇の中で登山口を探すというのはけっこう大変なのである。以前も腰越峠への入り口がわからずに、1時間以上も探し廻り、結局明るくなってから登り始めたこともあったし、伊勢谷や伏木谷でも同じようなものである。

5時04分、中峠(伏木谷)への分岐に

右岸を登るがすぐに伏流となる。

谷右岸を高く登り落差が大きくなった所で左斜面に通行手形(鹿角)を発見。かなり古そうで、少なくとも2〜3年は経っているように見えるが、今まで誰も気づかなかったのだろうか。5時59分、800円でジンジソウが咲き、振り返ると松尾尾根の頭が見える。しばらくすると小沢の滑になり水流は豊富である。そのままササの掘削になり直登する。6時12分、中峠に到着。高度計は875mだった。840mに修正する。振り返って見れば、水平位置の太陽が眩しい。休まず下水晶谷へ下り、785mで右手からの沢を横切り、755mでも同じく横切る。次に水の無いガレ沢を渡り、しばらくすると窯跡が現れる。715m

三訂 奥美濃

——ヤブ山登山のすすめ

高木泰夫著 四六判並製 一八九〇円

樹林の山旅が楽しめる奥美濃七〇山のガイド。写真と地図を多数掲載。

新刊

春は尾根の残雪を踏み、夏は魚影を追って溪谷を、秋は燃える樹林の中の古い峠道を辿る。

比叡山100年の道を歩く

竹内康之著 A5判並製 一六八〇円

比叡山の諸堂へと続く古道や峠道は、千年の歴史で踏み固められたやさしい道として訪れる人達を待っています。誰でも登れる、晩秋から初冬の陽だまりハイキングに最適。

塔尾金明神



着き、朝明川を横切る。見上げると、オリオン座が美しく輝いている。対岸のやぶのなかに入ると踏み跡があり、右に折れて進むがすぐに行き止まりとなる。仕方なく戻ると、踏み跡は朝明川の右岸をくだるようになっている。山へ登るのに最初からいきなりくだるという動作は、これだよいかと非常に不安になる。また今日も明るくなるまで彷徨うのかなと

で倒木が道を塞いでいて、谷との高低差が大きくなる。6時49分、右手が平坦地になり、石組の炉があり、斧で四分割した新しい薪が三個置いてあった。かなり大きな薪で、ここで採ったものではなく、下界から持ってきたのであろうか？

すぐに見覚えのある大滑橋に着く。以前と比べると、橋もかなり傾いていて立ち入り禁止の看板が掛かっていたが、「鈴鹿の山神様、どうか私を落とさないでください！」と、唱えながら急いで渡る。そういえば、この神崎川もダムが出る。この大滑橋まで水没するらしい。果たしてダムが必要なのだろうか？このようならば私は我々の怠慢ではなからうかと思うのだが、ただ思うだけで、何

★表示の価格は5%税込です
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111 〒606-8161

あたり両岸共に窯跡、ドラムカン、鉄材、レールが散乱している。

9時42分、810㍎にて谷が二俣になり、あたりに一升瓶が散乱している。左160度、右225度で、とりあえず本流の右へ行く。10時03分、左手から小さな沢が合流するが、右の本流(300度)へ進む。870㍎、875㍎にも窯跡があった。こんな鈴鹿の奥深い所でも1人で炭を焼いていたなんてとても信じられない。先人のすごさに全く頭が下がる。お腹が空いてきたので窯跡の横でまたオニギリ一個を食べる。

歩き始めると、すぐにまた二俣になる。左245度、右327度で、地形図で確認すると、左俣は1022㍎ピークの北西、右俣は1040㍎ピーク南西にたどり着きそうなので、時間も考えて左俣に登ることにする。10時27分、920㍎において谷は伏流となり、急斜面の岩壁が迫ってくるようになる。左手の壁は水が滴っていて黒光りしており、ジンジソウ(たぶん……)が群生している。これだけたくさん咲いているのを見るのは初めてである。早速ザックを降してレンズを広角ズームから100㍎マクロに交換する。

二、三十枚撮ったが果たして何枚ピン트가合っているであろうか？

10時45分に歩き出すが、ここからはかなり急峻で灌木につかまりぶら下がりがから攀じ登る。10時56分、970㍎にて尾根稜線にたどり着く。地形図では990㍎プラスなのでまあ正確である。北側には二つのピークが双耳峰のように見える。たぶん左が1080㍎ピーク、右側が手前にある1040㍎ピークであろう。振り返れば目の前に1022㍎ピークが立ちはだかっている。稜線はかなり風が強く、すでに冬の風である。東西の斜面はかなりきついので、気をつけないと転落しそうなほどである。

強風に吹き飛ばされないように、慎重にやせ尾根の急登を続ける。1022㍎ピークを通り過ぎてからも相変わらずのやせ尾根であったが、11時33分、1130㍎位で尾根がだんだん広くなり、なだらかな斜面になってきた。そのまま130度の方へ進めば、クラシ(1154㍎)へ行くのだが、今日は右折して初めて銚子(たぶん)のピークへ行く。すぐに到着するが、山名プレートも無く、刈り払われたようであるのでどかな感じがし



ジンジソウ

た。やはりこのあたりもササ枯れしたのだろうか。休むことなくまっすぐ南に歩くと、すぐに小さな支谷に突き当たる。おそらく佐目子谷川の支流の一つだと思おうが、とてもきれいな水が流れており、こんな頂上台地にさらさらと流れる川があるなんて、鈴鹿の山のすばらしさに改めて感動する。

次に現れた谷はかなり大きく深いので左折して谷の右岸に沿って歩いて行き、谷が小さくなってから谷芯に下りて進む。そのまま行けば谷は右へ曲がるように見えたが、時間も遅いので反対側になるとちょうど両側が谷になり、116度の方へ進むことになる。しばらくして右の谷は無くなり、左の谷が右へ曲がってきて前方を塞ぐようになってきたので、右(153度)へ行くことにする。天気も良

く見晴らしも良いので、目の前に横たわっているイブネの高みに向かって適当に歩いて行く。

12時06分、1165㍎にてイブネに着。ササがほとんど無くなっているのにビックリする。御池岳もササ枯れて、背丈を超えるものが腰くらいになってしまったが、ここは膝までしかない。以前来た時には、2㍎以上あり、コンパス片手にドキドキしながら歩いたものだ。



イブネからイブネ北端を望む

見晴らしが良いので、現在地を一応チェック。御在所レジャーが129度、鎌ヶ岳が153度、南雨乞岳が195度にある。実は今まで、このイブネのピークがどこにあるのかわからなかった。イブネ北端は木の高い所にプレートが付けられているので知っていたが、ピークは何度訪れて探しても深いササに阻まれて発見できなかったのだ。ところが今日は360度どこを見廻しても全てが見える。佐目峠の方角に何やら白いプレートのようなものが光って見えたので近づくと、やはりイブネ(1160㍎)と書かれてあった。苦節うん十年(そんなわけない!)ようやくイブネピークにたどり着きました、ホッ。

しかしこんなにササが低くなっちゃったから、もの足りないというか、イブネへ来る楽しみがなくなっちゃうような気がするのだが。昔はここへは、かなりの覚悟をしないと入れなかったし、それが充実感となったわけだ。

次は帰りをどうするかだ。杉峠からの下山は風流があって大好きなのだがいかんせん距離がありすぎる。下重谷や佐目峠から御池谷へ下りる谷もちょっと遠回り。クラシ谷で下りたり、マチガ平谷経

由でオゾ谷は、下山にはちょっと怖い。単独行での無理は禁物。

あと一つはイブネ北端から南東にのびている尾根で、現在は廃道となっている旧千種街道の小峠に下りるルート。しかしこの尾根下降で以前あわや遭難!ということがあった。

その時は、コンパスもチェックせずに尾根を闇雲に下りて行ったのだが、途中、左へ行くべき所を右の支尾根に入ってしまった。その尾根も切り立った崖となり終わり。仕方なく、右側のやぶっぽい谷に下りて行ったところ、だんだんと斜面がきつくなり、一枚岩の滑滝状になってきた。うーん、これはまずい!と、思ったが後のまっすり。日暮れの時間も迫っており、登り返す気力も体力も無くなっていった。とうとう今日はここでピークか……と、諦めて腹ごしらえをした。いつも迷った時(小生は毎回のように迷っている)には何かを食べることにしているのだが、食べ終わって、少し気力が戻って、あたりをキョロキョロ見廻していると、谷右岸上部に穴が開いている!攀じ登って直径50㍍60㍍程の穴の中を覗くと、まっすぐ5㍍くらい奥まで続いている。自然に

出来たものではなく、明らかに人間が掘った穴である。たぶん、鉱山の間の試掘りの跡のようである。ということは、この谷は下りられるかもしれない。急に元気が出てきて、先程までのしよげかえりはウソみたい……。

やぶにつかまりながら、急斜面を下りて行くと、しばらくしてなかなか立派な鉱山跡に下り立つことができてホッとした。これがあの御池鉱山なのか、と思っただのだが、そういえば千種街道沿いにあるのは、あくまでも飯場跡や神社跡だけなのである。

この谷が猪ヶ谷だということは後で知った。そういう訳で、今回改めてこの尾根をきちんと歩いてみることにする。イブネ北端に12時27分到着。地形図で確認して、143度へ進む。1120mで尾根が分かれるので左103度へ行かなくてはならない。まもなく以前間違えたあたりに着いたので、右の高昌山の方ではなく、左へ進む。実際には94度であったが、これくらいの誤差は許容範囲である。せつたい間違えないように、コンパスを胸の位置に置き、常にチェックしながら下り

計を見ると、根ノ平峠の803mどころか1000mを超えている。こんなバカな！ タケ谷だと思っていたが、もしかすると上水晶谷だったのだろうか？ さっきの分岐は地獄谷への分岐か……いや、それは絶対にありえない、ハズ……グスン。

ずいぶん昔のことだが、上水晶谷から国見峠を目指して登っていて、なぜか道に迷い（一般登山道です）、信じられずか、国見岳のピーク近くにたどり着いたこともある。えい、こうなったらとありえず行ける所まで行っちゃえ、と歩き続けた。

周りの景色は何となく見覚えがあるのだが、心の中は半分パニックになっているので正常な判断ができない。日暮れも迫っているし、いろいろ考える。食料はまだある。水もある。ツェルトもある。最悪ピバークだ。明日の新聞の三面記事が脳裏に浮かんでくる。名古屋の長谷川某というアホが山から帰ってこない……等の見出しが、うえーん、ナミダが出そう！

登山道に大きな岩が現れたのでそれを避く。この大岩は当然見覚えがある。ど

る。地形図で確認したように、1100mで136度へ、910mで132度へと下りて13時28分、小峠（850m）に無事到着。高度計は825mであった。とありえず馴染の時に下りられたので、張りつめていた緊張感がとれてぐったりとしたが、ここからはたとえ暗くなってももう大丈夫とルンルン気分歩き出す。神崎川に13時39分着。高度計を705mから725mに修正する。

ここからタケ谷までは神崎川の左岸をくだるのが一般的だが、今日はまだ歩いたことのない右岸を歩くことにする。川を渡渉して上水晶谷を右に見ながら歩く。このあたりを鈴鹿の上高地と呼ぶ人がいるようだが、たしかにとても雰囲気の良い所である。霧跡も何ヶ所あり、途中かなり大きな池があった。右手から小さな谷が下りてきて、その水が溜まっているからなのだが、なかなか雰囲気がある。今度またじっくりと訪れてみたいと思うほどであった。

鹿の鳴き声がそこかしこから聞こえているが、目の前に現れた二頭が小生を見て一目散に逃げていった。

14時18分、大きな谷に出会う。たぶん

ここにあったらもうと考えるが全然浮かばない。目の前には山体は国見岳のようだが、御在所にも見える。「わーわーわーわー、わーわーわーわー」と鳥歌を口ずさみながらひたすら登山道を歩き続ける。突然目の前にプレートが現れ、「根ノ平 御在所分岐」となっている。ようやく自分がどこにいるのかを悟る。

アホ！ マスケ！ オタンチン！ どうしようもないバカ！ こんなこと、新ハイ誌に書いたら、これから一生、鈴鹿の登山者に後ろ指を差されるかも知れない。すれ違った登山者から、「あの人がいつも登山道で迷っているアホの長谷川……なんですって、ヒソヒソヒソ……、ほんと、グッサーイ」なんて言われちゃうのかなあ、ガッカリ。

（恥ずかしい話ですが、こういう道迷いもあるのだということが、皆さんにも知っていただければ何かの役に立つのではないかと考えて投稿します）

すぐに根ノ平にとって返し、峠に着いたのは16時17分。

なぜ迷ったのかというと、根ノ平の集落跡を彷徨っていて登山道へ戻る時に、

タケ谷だと思うのだが、久しぶりなのと小生の記憶回路がお粗末なせいで断定できない。左岸に道は無かったので、渡渉して右岸へ行くこと立派な登山道があったので、とありえず登り始める。この谷がタケ谷だという自信はなく不安であったが、道もあるしまあ何とかなるだろうと進むと、14時41分、785mで右に分岐があった。地形図で確認すると、780mで上水晶谷へ行く道が記されているので、これで間違いないと確信する。根ノ平峠は803mなのであと少しと力が入る。右手斜面がなだらかな地形になってきたのが目に留まった。たしか昔この辺に根ノ平の集落があった所である。ちょっと寄り道をしようとササのなかへ入って行く。これもササの勢いが弱くなっているのか、激やぶではなくなっている。こんな山中に大きな集落があったなんて今ではとても信じられないが往時を偲びつつ、しばらく彷徨ってから登山道に戻る。

じきに峠だろうと思いつながら、なぜか無心になって歩き続ける。しばらくしてふと我に戻って、あれ、まだ着かないの？ おかしいなあ、ヒョックとしてやはり道を間違えていたのかなあ……。高度

タケ谷、根ノ平峠間の道でなく、根ノ平峠、国見岳間の登山道に出たのを気づかなかったからである。単独行ではこういう思い込みが一番怖い。

ホッとしながらも失意のどん底に打ちひしがれて朝明の駐車場にたどり着いたのは17時16分。

救いは（救いかどうかはわからないが、実にセコイ）朝早く立ち、夕方遅く下山したので駐車場の料金500円を払わずに済んだこと、ホンマ、アホやわ！

（平成18年10月8日歩く）

▲参考タイム▼

朝明 4・42 | 中峠分岐 5・04 | 伏木谷・曙滝 5・36 | 中峠 6・12 | 大瀬橋 6・51 | お金谷出合 7・23 | 塔尾金明神 7・46 | お金峠 8・14 | コリカキバ 8・28 | 稜線 10・56 | 鏡子 11・36 | イブネ 12・17 | 小峠 13・28 | タケ谷 14・18 | 根ノ平峠 16・17 | 朝明 17・16

△地形図▽2万5千御在所山

京都北山を歩く ●ミニガイド (第6回)

エリア別徹底研究

— 晩秋、紅葉・落ち葉の自然林を歩く3コース —

■村田 智俊



晩秋の山ミニガイド

京都北山の山々へ四季を通じて歩いてみませんか。

今号は晩秋の1日、美しい紅葉を見る山を3コース紹介します。

この中で「白尾山」を、村田が案内する山行例会に組み込んでいます。ガイドを読まれ、興味をもたれた方は、ぜひご参加ください。

今回は紙面の都合でいつもより2コース少なくなり、申し訳ございません。愛宕山周辺や朽木周辺の山も予定しておりましたが、来年度に他の山といっしょに紹介します。北山はやぶ漕ぎのある山を入れるとまだまだ多くのすばらしい登山道があります。

*狼峠から「まほら谷」を経由しての「魚谷山」は、晩秋の頃がベスト。「桑谷山」の西尾根は新しい道として期待でき、「白尾山」への古い登山道は歴史を感じさせる道で、ともに紅葉・落ち葉が美しいでしょう。

コース① (一般コース) 狼峠から魚谷山

若い頃は、雲ヶ畑の出合橋・白梅橋から谷を廻り木馬道を伝って魚谷山へ登ったものだ。直谷には、直谷山荘・龍杉荘(森本次男氏創建)・北山荘の小屋があり、今西錦司氏のレリーフも建てられていて、北山の原点ともいえる所である。しかし、現在、惣谷や松尾谷林道が魚谷峠へ上って越しているため、雲ヶ畑からの登山は味気ないものになった。



京都地下鉄北大路駅からタクシーで祖父谷林道の車止めまで入る。車を降り、10分も行くと、右の谷を渡って狼峠への林道がのびる。4・5年前までは植林のなかのジグザグ道を狼峠に上り、魚谷(院王沢)にくだって石仏峠方面に行ったものだが、いまは伐採されて林道を伝うはめになった。林道を10分程で狼峠だ。狼峠の小さな札がぶら下がっている。そのまましばらく林道を行くと終点になり、尾根道に入っていく。

アップダウンを繰り返して、やがて下り切ると落ち葉を敷く広い谷底のような所に着く。尾根上をたどるのになぜ谷底のような所にくるのかと不思議に思う。昭文社の「京都北山」地図に④と記されている所だ。ここは、テープや目印を確かめて登山道から外れないようにしたい。紅葉がすばらしい所で、斜面に落ち葉が積もり、あたりは赤や黄に染まっている。広場で熱いコーヒーでも楽しんで休憩したい雰囲気だ。

「北山の道3」(白地社・1987刊)を著した京都山歩会の渡辺歩京さんは、ここを「まほら谷」と名付け、この風景を絶賛している。今回紹介する尾根道を

「狼尾根」とも呼び、北山の落ち葉道ベストワンに挙げている。

さて、谷底から右に曲がりやがて左に廻り込むように上って行くと、はっきりした尾根道となり、魚谷峠に到着する。

林道が上って来ており、峠の雰囲気は失われてしまった。魚谷山(△816・2)へは、北東にのびる登山道を伝う。やがて三角点のある山頂に着く。樹林の広場で見晴らしはきかない。昼食は、柳谷峠にくだってからのほうがよい。北山を代表するササに覆われた雰囲気のない峠だったが、いまは枯れている。

細ヶ谷をくだり、今西錦司のレリーフを見て、アズキ坂から滝谷峠へ上り、二ノ瀬ユリ道を縦電二ノ瀬駅にくだる。

▲コースタイム▼

地下鉄北大路駅(タクシー40分) 祖父谷林道車止(10分) 狼峠への分岐(10分) 狼峠(15分) 林道終点(15分) P831(15分) 「まほら谷」(20分) 魚谷峠(10分) 魚谷山(5分) 柳谷峠(20分) 今西錦司レリーフ(30分) 滝谷峠(二ノ瀬ユリ経由1時間30分) 縦電二ノ瀬駅
△地図▽昭文社『京都北山』

コース② (一般コース)

西尾根から桑谷山

桑谷山は三角点のある西峰と、やや離れて東峰があり、二つのピークを持つめずらし山頂である。新しい「京都北山」(昭文社)の地図を見ると、能見から西峰への長戸谷コースが旧の「京都北山2」には記されていたのに、新しい地図では消えている。ガレ場がありロープを使うような危険な道のため、登山コースから除かれたのであろう。

私は十数年前頃、西峰から、長戸谷の北方を西へのびる尾根に注目し、新ハイ例会でくぐってみた。しかし、尾根末端が急斜面の杉林となり、下り立った地点



コース③ (中級コース)

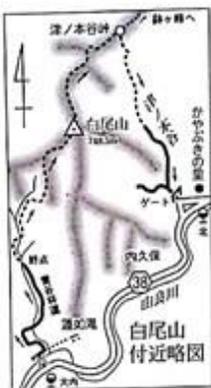
大内から白尾山

白尾山(△748・5)は、「京都北山」(昭文社)の地図を見ると、左上の隅っこに載っている。案内書を読むと、「かやぶきの里」で名高い北集落の津ノ本谷からコルに上り、南の白尾山と北の鉢ヶ峰を共に往復するものだ。

私は、白尾山へ登るのであれば北集落からより、南の大内集落から青谷林道を

使って登るコースが好きだ。10年程前に新ハイ例会で登ったことがあるが、当時は廃道に近く、林道終点からの道探しに苦労した記憶がある。

現在は、地元の内久保史跡保存会により整備されたようで、道標も完璧で、登



で能見川を渡渉しなくてはならなかった。昨年、村人に尋ねて西尾根に取り付くいい道を教えてもらった。最近、それを伝って西尾根に上がり、西峰に登高する例会を新ハイで二回行った。

西尾根は、自然林のなかに大杉が点在し、やぶも無く歩きやすい。テープも付けられていて迷うことはない。落ち葉を敷きつめ、さぞかしきれいだらう。

出町柳7時50分発の京都バス広河原行きに乗車すると、9時33分に能見口バス停に到着する。北東へのびる久多峠への車道を10分行き、右の橋を渡って長戸谷林道へ入る。5分もしないうちに左に作業小屋を見る。その先の橋手前に左手に上る小道があるので、それに入る。

これは、近年植林した際の作業道で、斜面は急だがジグザグに切られていて登りやすい。途中に二ヶ所所除けネットの出入口があるが、紐を解けば開けられる。通過後は元に戻しておくこと。20分程で尾根上に出る。ここにもネットがあり、同じように開け閉めして出て欲しい。右折してネットの左側を沿うように尾根を急登して行けば、5分でピークへ着く。展望が良く、北方には小野村割岳の稜線

山道もわかりやすくなっている。

マイカーで行く。京都市内から国道162号線を走り、安掛で右折し、5分も走ると、右に南丹市宮バスの大内バス停を見る。ここが大内からの登山口で、バス停前の民家の間を左に入る。すぐに橋が架かり、その手前に二、三台の駐車スペースがある。村人に尋ねれば、適当な駐車地があるかもしれない。

橋を渡った所に「白尾山」の道標を見る。右折してすぐ「白尾山2時間20分」の道標があり、左折して地道の青谷林道の杉林に入っていく。ここに「運如流」の道標もあり、川べりを400mほどたどって見る美山の名勝らしいが、往復して見るほどの滝ではない。

左を谷が流れるようになると、10分程で林道終点に着く。ここから谷を右岸に渡渉して登山道がのびている。やがて左岸に渡り返し、谷が二俣になった所に「白尾山1時間50分」の道標があり、右の谷沿いを行く。谷沿いをしばらくたどり、右折して植林のなかに尾根に登って行く。杉林を抜けた上部は、自然林に包まれた古い登山道となり、紅葉の頃は美しいだらう。急登もあるが、道標に導かれて

が見え、能見の家々を見下ろす。西尾根にのつたので安心して休憩しよう。

尾根上の踏み跡をたどって行けば植林地も終わり、自然林のなかへ入って行く。途中休憩をはさんでゆるやかに登って行けば、ちょうど正午時分に桑谷山西峰(△924・9)に着く。

西峰は樹林のなか、10分もたると東峰に着く。最近北側が伐採されていて展望が広がる。昼食は東峰でとるか、もう少し東へたどった鉄塔下でもよい。

下山は、一般道が北の久多峠と南の桑谷へのびているが、バス便を考えて南の桑谷に下りよう。土・日に運行される大内山口バス停16時16分発のバスには十分間に合う(平日なら17時16分発しかない)。

▲コースタイム▼

京阪出町柳駅(バス1時間50分) 能見口バス停(10分) 長戸谷林道への橋(5分) 作業道取付点(30分) 西尾根末端ピーク(1時間30分) 桑谷山西峰(10分) 東峰(50分) 桑谷林道(40分) 大内山口バス停(バス1時間40分) 出町柳駅
▲地図▼昭文社「京都北山」
*京都市バス ☎075(871)7521

やがて山頂に着く。

下山は、車の都合で往路を引き返すことになるが、私なら津ノ本谷峠経由でかやぶきの里にくる。この場合、早朝に出発し、いったんかやぶきの里へ行って駐車しておく。北バス停発7時53分(平日・7時49分(休日)に乗り(これ以降は11時まで無い)、大内へバスで戻る。車数台なら置き車しておけばよい。

津ノ本谷峠から北集落への下山道はやや荒れているが、地図が読めれば大丈夫だらう。かやぶきの里を見学し、近くにある(車5分)美山町自然文化村「河鹿荘」で汗を流して帰ろう。

▲コースタイム▼

京都市(車1時間40分) 大内集落(20分) 青谷林道終点(10分) 谷分岐(1時間50分) 白尾山(40分) 津ノ本谷峠(1時間) 北集落(車1時間50分) 京都市
▲地図▼昭文社「京都北山」
▲地形図▼2万5千1:5万

*南丹市宮バス美山事務所

☎0771(75)1666

*「河鹿荘」(入浴500円・11時から) ☎0771(77)0014

連載

腕木通信・旗振り通信の文献

柴田昭彦

込みがあったのではないだろうか。

【腕木通信の文献】
○三浦正悦『おもしろ電気通信史』(総合電子、平成15年)
腕木通信・手旗信号について紹介しているが、米相場通信にはなぜかふれていない。

10頁の「烽火の伝達速度は新幹線より速い」という大阪―尾道のろしりレーの記事はタイトルも間違いで、「新幹線はそれより10分遅かった」のではなく「10分速かった」が正しい。距離も290*とあるが、実際は250*である。イラストにも「のろしの勝ち!」とあるので、誤解も甚だしい。烽火が速いという思い

大阪―尾道のろしりレーの詳細については、本誌72号や筆者の『旗振り山』(ナカニシヤ出版、平成18年)の「広島・山口・福岡ルートの概要」で紹介している。

○永瀬唯『腕時計の誕生』(廣済堂出版、平成13年)

腕木通信・鏡通信について紹介している。1861年に開始された南北戦争で、南軍は戦争開始直前に考案された旗振り通信を活用していたという(43頁)。

永瀬氏は評論家で、筆者の『旗振り山』(ナカニシヤ出版、平成18年)の書評「江戸期のインターネット?」(平成18年7月2

と装丁にご配慮いただいた竹内氏の案内書である。旗振り山としては、達坂山(小関山)と二石山(二谷山、西野山)を紹介している。

竹内氏がHPの記事(探訪山)で指摘しているように、「二石山」は定着した山名とは言い難い。「二石山」は、旗振り通信に関するパイブルとされる論文(近藤文二「大阪の旗振り通信」)に従った呼称である。

竹内氏によれば、岩屋寺や山科神社(京都市山科区西野山)での聞き取りでは、すぐ西に聳え立つこの山を、地名表示および三角点名と同一の西野山と呼んでいるということである。一方、「城州伏見町(天保年間)では、深草の石峰寺から宝塔寺にかけての山が二石山として描かれている。

江戸時代には、二石山は三角点とは別の山々を指す呼称であったようだが、西野山は地名でもあり、まぎらわしい。三角点については二石山と呼ぶほうが区別しやすいだろう。

○森山栄三『歌集 相場振山』(船屋社、平成18年)

森山氏の出生地(滋賀県)に聳える旗

日、東京新聞・中日新聞)があり、「旗振り山」に対しては「空前絶後の研究書」との評をいただいている。

○キース・ロバート著・越智道雄訳「バヴァーヌ」(サンリオSF文庫、昭和62年)(扶桑社、平成12年)

「SF史上屈指の名作」として知られる。腕木通信の信号手の仕事の描写が詳しい。旗振り通信を「バヴァーヌの世界」と呼ぶ人もいるくらいである。

【旗振り通信の文献】

筆者の『旗振り山』の巻末の参考文献に載せていないものを紹介しておく。

○森平爽一郎『物語で読み解くデリバティブ入門』(日本経済新聞出版社、平成19年)

「第2章 賢者は歴史に学ぶ―堂島・米先物市場が語るもの」において、筆者の研究成果を紹介している。残念なことに、書名や人名、地名、引用文献名、日付、所要時間、距離などに誤りが散見し、事実関係についての誤認などもあって、せっかくの興味深い記述の価値を損ねている。中島一著『四季のうつろい 彦根日記』(サンライズ出版、平成17年)には、「彦根の旗振り山」が収録されているこ

振り山(相場振山)を題名にした歌集である。カバー絵の「相場振山と三上山(近江富士)」「藤原紀子卿」も味いがある。この相場振山は、「滋賀県の山」(山と溪谷社、平成16年)の三上山の項目で竹内氏が紹介している。

○星名定雄『情報と通信の文化史』(法政大学出版局、平成18年)

狼煙、米飛脚、伝書鳩、腕木通信にふれている。旗振り通信については、389頁に記述がある。星名氏からの問い合せに対して、筆者が送付した文献が、巻末の参考文献に収められており、活用されている。

○藤井信幸『通信と地域社会』(近代日本の社会と交通 第5巻、日本経済評論社、平成17年)

18、19頁に旗振り通信の記事がある。○本渡章『大阪名所むかし案内―絵とき撰津名所図会』(創元社、平成18年)

堂島の米市場(35、40頁)の様子を紹介している。手旗信号はふれるのみ(39頁)。

【関連情報について】

○平成18年6月、筆者のHP「旗振り通

とになっている(72頁)が、実際の本には見当たらない。本誌79号で紹介したように、「彦根の旗振り山」は、HPに掲載されていたメッセージであり、平成19年現在では削除されている。

○金森敦子「きよのさん」と歩く江戸六百里」(パジリコ、平成18年)

堂島の記事に、米相場を遠眼鏡でみる方法があり、「尾張までは二時間少々で情報が届いたといわれる」(203頁)とある。金森氏がどのような資料によったのか不明だが、筆者の資料では、堂島から尾張名古屋まで15分で届いたので、誤解であろう。おそらく、江戸まで8時間という情報から単純に推定したものでないだろうか。この8時間には箱根八里越えの約7時間を含むので、旗振り中継のみに要した時間は約1時間と思われる。旗振り通信のスピード(時速4000、7500)は、新幹線(時速190、230)より遙かに速く、航空機(時速450、550)に匹敵するものであった。

○竹内康之「比叡山1000年の道を歩く」(付)「東山」の山なみ(ナカニシヤ出版、平成18年)

筆者の「旗振り山」の地図のトレース

信ものがたり」で、愛知県岡崎市鶴果町に旗振り場があるのを見て、岡崎市東部出身、豊田市在住の主婦、岡本由美子さんからメールがあり、岡崎市大幡町の由来が、「大きな旗を振っていた」からだとのお知らせをいただいた。小学校の自由研究で調べたので懐かしくてメールしたとのことだった。

「おかしき東海風土記」(岡崎市立東海中学校発行、昭和49年)の14・15頁には、次のような「大幡町の由来」が載っている。

「額田町桜井寺には、嵯峨天皇の弘仁四年(八三三)弘法大師の開いたといわれる三河五山(注一)の一つの桜井寺があります。

この寺は、紀州の高野山平等院の末寺ですが、昔、この寺は祭祀になると、道筋に大きな旗を立てて、参拝者の道しるべにしたといわれます。その桜井寺の道筋に大幡があって、参道に道しるべの旗をあげたので、「大旗」が「大幡」になって、現在の地名になったといわれます。

また、一説には、この大幡の地が、上文と下文の中間にあたるので、昔は、両地域の連絡に大きな旗を上げて知らせ

合ったことから、この地を、大幡と呼ぶようになったといわれたり、また、和田兵衛大夫という人が甲州(山梨)からきて、大幡城をこの地に築いたので、城の名を取って、大幡と呼ぶようになったともいわれます。

注一 三河五山とは、桜井寺、鳳来寺、高隆寺、滝山寺、真福寺をいいます。

大幡城については、同書の79頁に次のような説明がある。

「大幡城 本宿大幡にあって、一説には、天正二年(一五七四)甲州よりきた、和田兵衛大夫という武将が築城したといわれます。」

したがって、大幡の地名の由来は、たしかに「大旗」に由来しているが、年代が異なるので、米相場とは無関係というわけである。

○乾幸次「南山城の歴史的景観」(古今書院、昭和62年)の94頁には和東川上流の「銭取場」の説明がある。本誌65号や筆者の「旗振り山」(ナカニシヤ出版、平成18年)の90頁で、姫路市の相場振山の南側の「銭取」の由来についての疑問を出したことがあり、相場と関係があるのかどうか、ずっと気になっていた。和東川上

流の「銭取場」は、交通の難所の解消のために行われた道幅拡張工事の建設資金返済のため、大八車一台につき、金二銭を徴収した場所なのであった。

○旗振り山については、本誌79号や「旗振り山」で紹介しているが、山名の由来については不明確であった。HP「たぬきホーム」の「百万岩をたずねて 高砂峰」には次のような一文があって興味深い。

「高砂峰は、高砂山またはサカズキ山ともいわれ、サカズキを逆にした形で同定しやすい。昔は展望がよく、京愛宕山、青葉山、由良ヶ岳等が望めたという。また、旗を振って米相場の伝えたとか、雨乞いも行われたとも言われている。(兵庫丹波の山「水上郡志」参照)」

なお、「高砂峰山頂は木に囲まれ、展望がない」とレポートされている。

○日本山岳会編著「新日本山岳誌」(ナカニシヤ出版、平成17年11月)には、米相場の旗振り山としては、多度山、阿武山、石堂ヶ岡が収録されている。

「高旗山」(福島県郡山市)は八幡太郎義家が軍旗を掲げて戦勝を祈願した山で

ある。「高旗山」(山梨県大月市・都留市)は焼畑の別称ともいわれる。「高旗山」(盛賀県甲賀市・三重県鳥山市)は「高所にある畑」あるいは「焼畑」に由来するともいう。

「高旗山」(鳥取県日野郡日南町・岡山県新見市)は地元では「高旗山」であり、「昔、ここから旗で連絡をとり合ったから」といわれるが、定かではないという。立地上、中世における軍事上の通信が行われた地点と考えられ、米相場とは無関係であろう。

○石堂ヶ岡(茨木市)が米相場の旗振り中継所であったことを伝える石碑については、本誌77号や「旗振り山」の口絵などで紹介しておいた(平成14年3月17日に調査)。その石碑の裏側の二面の碑文についても紹介しておこう(平成19年5月19日に再調査)。

クラブハウスの玄関前に設置された、高さ約3・5尺の石碑の前面には、有名な「米相場 京え知らすに 旗振りし ことが昔の 相場たて山」の碑文が刻まれている。その左側の裏面を見ると、「堂島米相場 中継場跡地」とある。さらに左側の別の裏面を見ると「次木高原

カンツリー倶楽部 開場記念 昭和三十六年十月吉日 開設者 後藤田義夫 毎日書道審査員 谷口周上書」とある。

本誌57号で述べたように、ゴルフ場の開発の際に豊能町高山地区と茨木市泉原地区の古老による相場振りの話が確認され、昭和36年10月に、この記念碑が建立されたのであった。

同年6月、ゴルフ場完成の直前、集中豪雨による被害を受けた苦勞話などが、後藤田義夫「青い空―老人問題を問う―」(竹井出版・致知出版社、平成3年)に綴られている。

○御手洗相場については、HP「港のイベント大集結! 港を結ぶポータルサイト 港町ネットワーク」の平成17年11月24日の記事に、次のように紹介されている。

「国の重要伝統的建造物群保存地区となっている御手洗は、江戸時代に開かれ、北前船や諸大名の交易船の風待ちや潮待ち港として栄えた港町。

北陸や奥州の米やニシン、昆布などを大阪、京都へ運ぶ中継点となり、特に米の「御手洗相場」は大阪の米相場を見ながらこの港で需給を調整したとして有名

です。」

御手洗は、瀬戸内海に浮かぶ大崎下島の港町である。もとは広島県豊田郡御手洗町。昭和31年、二村との合併により、豊田郡豊田町となる。平成17年3月、安芸郡三町・豊田郡二町と共に、呉市に編入された。

○神田川菜翁「やっちゃ相場伝 青物市場に伝承された400年の世相と食」(サンガ新書、平成19年)は、本誌88号で紹介した「競り人伊勢長日誌 やっちゃ相場伝」(豊山漁村文化協会発表、平成5年)(農経新聞社、平成15年改訂)の増補改訂版である。

江戸時代にあったという光通信ネットワークが紹介されているが、その詳細と真偽については本誌88号を参照されたい。

○京都地名研究会編「京都の地名 検証 2」(鶴城出版、平成19年1月)

筆者は会員として、「大尾山(祝山)」と「ハナノ木段山」の二項目を執筆している。前者は本誌56号の随想をまとめたものである。

(平成19年4月30日成稿)
(平成19年5月20日追補)

茶野から滝洞谷を渡って万野へ

鈴鹿

磯部 純

今年になって三度目になる鈴鹿の例会参加で早く目が覚め、5時45分に家を出た。国道を走るつもりで宇治まで来たが、集合時間が8時なのを思いだし、これでは間に合わない、急ぎよ進路を変更。瀬田東インターから名神に入った。お蔭で八日市には早く着き過ぎてしまった。道の駅で朝食をとっていると、やって来たのは鈴鹿のお嬢。彼女とは5ヶ月振りの再会である。

すぐ後に来た鈴鹿のお兄と3人でいっしょに走り、多賀町役場へ7時25分に着。次々と参加者が集まるが、ほとんどが見知った顔ばかり、26名の参加だった。この日のルートはミノガ峠から大見晴、

万野だけなのに、集合時間は8時。おかしいと思っていたら、岩野さんが到着するなり、「これだけでは時間が早過ぎるので、ミノガ峠から茶野へ行ってから、谷へくっつけて鞍部へ登り返し、大見晴へ行く」とルート変更。

通常、茶野から万野へ歩くには、大君ヶ畑から古い道を茶野へ登り、桜峠から尾根をミノガ峠へ。峠から吊尾根を歩いて大見晴、万野を経て、大君ヶ畑へ下山するのが、ミノガ峠を出発点にして茶野へ向かって、滝洞谷を渡って吊尾根へ登り返し、大見晴から万野へ向かい御池林道へくだるルートは、八日市の彼以外歩いたのを聞いたことがない。今回の例

桜峠(一本木)の南斜面



会参加者でも岩野さんを始めとして、誰も歩いたことのないルートである。地形図でルートを確認すると、この斜面は等高線が1坪の間に二本あるような急勾配で、こんな斜面を下り、登らなくてはならないと思うと、不安と期待が交錯し、何とも言えない心境だった。

定刻に、1名欠席のまま、25名が全員車で霜ヶ原から御池林道へ入る。ウネウ

ネと林道を走り、いったんくっつけて境谷の橋を渡った先の広場へ置き車をし、五台の車に分乗してミノガ峠へ移動。峠を越えた送電線下の広場へ駐車する。点呼をとった後、この日のコース変更の説明があって、8時45分に出発となる。

岩野さんを先頭に巡視路を登り、尾根ののったら東へ向かう。送電線鉄塔まではゆるい登りだが、歩き出して間がないのに、先頭を歩いていたはずの岩野さんが立っている。「大丈夫ですか?」と聞くと、「駄目だ。先に行って」との返事。ここからは名古屋の彼が先頭に立ち、尾

根巡視路を茶野へと向かう。

巡視路は、旧水源寺町と多賀町の境界尾根に付けられており、両側は杉の植林斜面。林の切れ目からは、左上にドーム型の茶野がそそり立っている。茶野の西や南の斜面は地形図で読む以上に急勾配で、あんな斜面をくだらなくてはならないと思うと、ゾクとする。ピークから左へくだり、登り返した地点で岩野さんを待つが、なかなか来ない。甚目寺町の彼が見に戻ると、「歩くのは無理なので車で待っている。予定通り行ってくれ」との伝言。昨年からの岩野さんが歩かないで待つことが多くなったと聞いているが、身体のはうは大丈夫かと心配になる。

ここから先は、サブの山田さんがリーダーとなり例会を統括することになった。集合場所を間違えたために遅れ、後から追いついてきた甲賀市の彼がここで合流して、歩くのは同じ25名である。送電線鉄塔で休憩し、尾根の巡視路を登り、尾根が斜面になる地点から右手へトラバースして登って行く。それまでの杉林は雑木林に変わり、両側にはマツカゼソウやミカエリソウも咲いており、早や、トリカブトも花を開き、秋の到来を告げている。

道脇の草むらに隠れていたシデシヤジンの花を見たのは初めてだ。

斜めに登り、登り着いた送電線鉄塔のある鞍部は桜峠。昔は大君ヶ畑から茶野の北側を捲いてこの峠へ登り、鈴ヶ岳の南山腹を横切って伊勢尾まで炭焼きに通ったと聞いているが、今ではその道も消え、峠とは名ばかりになってしまい、桜峠の名も忘れ去られようとしている。この峠を一本木とも呼んでいるそうだが、桜峠のほうが情緒がある。

峠から雑木林を西北に登って尾根をたどる。一段登った林の切れた所にはコフウロやヒメフウロが咲いている。ヒオウギの花も初めて見る。西に進むと、普通のトリカブトのほかにイブキトリカブトも咲いている。その先にあったカリガネソウの花は何とも言えない臭いがするが、よく見ると、名の通りに雁の姿に似ていないこともない。

尾根を左に曲がると、前方には茶野が見えている。「鈴鹿の山と谷2」(西尾野一著、ナカニシヤ出版)には、標高点938mを茶野と書いてあるが、岩野さんは地元の人から聞いて、その北のコブから西へのびている平坦な尾根先端の盛り上



がりを茶野と呼んでいる。こちらから見ると、来る時見た急峻な山腹は、想像でしかないほどユックリとした広い尾根だ。尾根を進むと、以前には草が生い茂っていたが丸裸になり、糞と尿が散らばっていて鹿の運動場と化している。その先の岩ガラのゆるいピークが茶野。10時5分の到着だった。その時「オーイー」「オーイー」、声の方へ目をやると、ミノガ峠近くの送電線鉄塔のある広場で、岩野さんが手を振っている。

茶野ピークから西南へ向かい、台地の端まで歩く。見下ろすと、下に滝洞谷が切れ込んでいて、そこに落ち込む斜面は足を滑らすとどこまで転んでゆくかわからないほどの急斜面。しかも、下の林までは岩ガラの急勾配で、落石にも注意しなくてはならない。地形図を見て、谷へくだるには下の尾根にのるしかないと思いで、リーダーに「下に見える尾根にのるようにくだらう！」と声をかけてくだり始めた。

山田リーダー、緑水さん、甲賀市の彼が先頭でくだり始めるが、足元から絶えず岩が転げ落ち、アチコチで「落石！」の音が響く。ある時など50〜60秒もある

岩が音を立てて転げ落ち「ヒヤッ」としたが、その岩は林のなかへと消えていった。幸い皆がくだる所とは外れた方の落石で、下に人が居らずに事無きを得た。こんな斜面の下りは得意な人ばかりではないので、下の林で待つように言っていて、私は後ろの集団を受けもつ。

岩場をくだり林に入ると、岩は無くなるが急斜面であることには変わりはない。いったん、林がいくぶん平坦になった所に集合し、人員を確認した後、方向を定めて尾根へ向かってくだる。斜面は急な所もあり、そこを避けながら左に右にとくだったが、何とか尾根の付け根へ無事に下りることができた。この尾根をくだりながら、尾根の両側を見ると、崖とも見えるような急斜面。もしこの尾根にのれなかったら大変な事態になっていたかもしれない。杉林の尾根をたどり、最後の急斜面を左へくだると、滝洞谷へ下り立った。尾根の両側の斜面は崖状にそそり立ち、こころ無気というルートをくだったと実感する。

この滝洞谷はミノガ峠から大君ヶ畑へ流れる谷だが、下流は悪相の谷で、岩登りの経験者でも登攀に苦勞し、これまではススキに隠され全く見ることはできないほどに変わっている。ススキのなかを泳ぎ、大見晴(820m)ピークに到達。全員集合の記念写真を撮る。

山頂から北へ向かうと杉林の斜面。リーダーはすぐ左へ向かうが、そちらは方向が違うので、今度は私が先頭になり斜面をくだり、北の尾根への。6年前に来た時には、濃いガスに覆われ斜面の様子も見えず、岩野さんでも方向を見失いウロウロした場所だ。その低いピークで全員が揃うのを待って、杉林の尾根を北西へ進み、小さなコブを二つ越えて登り返すと万野だった。そのピークには3等三角点埋められている。点名「足谷」で標高775・1m。標石は北を向いていて、東へ20度振っている。

さあくだらうという時になって、「カメラを大見晴に忘れたから取りに戻る」と1人。技量のわからない人を放っておくわけにもゆかず、戻って来るまで待つことにする。「ついて行く」と言ってくれた元気なあなたの方。もう1人のベテランにもいっしょに行くことを依頼して、帰るのを待つ。カメラは大見晴ではなく、先程の休憩場所に忘れていて、10分程で

何回か遭難騒ぎがあり、完全に通行に成功した人はいないと聞いている。それだけに、間違っても下流にはくだらないようにしたが、下りた滝洞谷上部の谷はそんな様相は全くなく、普通の谷と何ら変わりなかった。

谷からの登りは、岩野さんは「大見晴の吊尾根鞍部へ登ればよい」と言っていたが、谷の両側は見上げるような斜面で取り付きようがない。ここから緑水さんが先頭に立ち、谷を30分程通った所から植林の急斜面に取り付く。見上げると、先に登っている人のヘッが見える程の急過ぎるくらい急な斜面だが、一歩一歩体を持ち上げ登って行く。谷には風が吹かず暑さが厳しく、汗が滝のように流れ落ちてくる。

そろそろ尾根ではくという急斜面に、名古屋の彼がヘタリ込んでいた。「大丈夫？」と聞くと、「フラフラで眩暈がして動けない」との返事。顔を見ると少し青白く、汗はあまり出ていない様子。水もほとんど飲んでいないと言っているので、脱水症状ではと思い、スポーツドリンクを飲んでもらう。先に登っている人にこの状況を伝え、「待ってくださるようには」

戻って来たが、待つ間に雨が降ってきて、残りの人は雨対策におおわらわら。

下山は北の送電線鉄塔から西の巡視路をたどり、御池林道へくだることにする。誰もが初めての道だったが、迷うことなくくだれ、朝に置き車をした地点へ下りた。ここでいちおうの解散となる。ミノガ峠に車を置いた人達を乗せてミノガ峠へ戻り、着替えを済ませて家路についた。

後で聞いた話だが、「万野から巡視路をくだらずに、西へのびる尾根を歩いて展望を楽しんだ後、御池林道へくだる」予定だったと、岩野さんが言っていたそうだが、そんなルートを歩くとは誰も聞いていないので、巡視路をくだってしまったのだ。また、次の機会に歩かせていただきたいものである。

(平成17年9月4日歩く)



大見晴の山名標識
越え、登り返せば大見晴。6年前に来た時には、山頂はカレンフェルトに覆われていたが、その岩

▲コースタイム▼

- 多賀野役場(車40分)ミノガ峠(50分)
 - 桜峠(15分)茶野(50分)滝洞谷(40分)
 - 吊尾根(30分)大見晴(20分)万野(30分)
 - 御池林道(車15分)ミノガ峠
- △地形図V2万5千高宮・篠立

富田林に石上露子を訪ねて

松永恵一

小板橋

小板橋

ゆきずりのわが小板橋
しらしらとひと枝のうばら
いずこより流れか寄りし。
君まつと踏みし夕べに
いひしらず沁みて匂いき。

今はとて思ひ痛みて

君が名も夢も捨てむと
なげきつつ夕わたれば、

あゝうばら、あともとどめず、
小板橋ひとりゆらめく。

ゆふちどり

清き流れの石川。「石川の夕千鳥」と謡
われた千鳥の名所。注ぎ込む流れに架か
る小板の橋。うばらの花。泣き濡れる乙女。

石上露子の「小板橋」の絶唱は、明治
四十年（1907）『明星』12月号に「ゆ
ふちどり」の筆名で掲載された。鳳晶子、
山川登美子、茅野雅子、玉野花子ととも
に「新詩社の五才媛」と評された露子は、
翌年家を守るために筆を折られる。

大正二年、読売新聞に「明治美人伝」
を連載していた長谷川時雨は、「小板橋」
を杉山孝子という名と共に紹介した。
「明星の女流歌人の中でもっとも美しき
人とうたわれ、その歌の風情と、姿の趣
を合わせて、白菊の花にたとえられた。」
大正八年、生田春月は「日本近代名
詩集」に収録した。「石上露子 もと新
詩社の同人たりしこと他知ることなき
も小板橋一編は絶唱なれば特に収む。」

みいくさにこよひ誰が死ぬ

さびしみに髪ふく風の行方見まもる
明治三十七年『明星』7月号で発表。鳳
（与謝野）晶子の「あ、おとうとよ、君を
泣く、君死にたまふことなかれ」が掲載
される2ヶ月前のことだった。

思いこがれた初恋の人に対するかなわ
ぬ思いを詠んだ「小板橋」は絶唱と評さ
れ、石上露子の名を不朽のものにした。
永遠の恋人たる正平はカナダに渡り邦字
新聞記者になり、生涯独身で生を終えた。
明治四十年12月17日、跡取り娘の露子
は婿養子片山莊平を奈良県から迎えた。
秋の空馬の千枝に花かざり
我を奪る子は山越えて来ぬ

夫の強要により文筆活動を停止。作歌活
動を再開したのは、長男が京大次男が三
高に入学し、京都に母子の家庭を営んだ
昭和六年のことだった。「冬柏」に残る歌
歌も身も君をも捨てし日の後の

よわき女の衰へをみよ

富田林の生家で杉山家最後の女当主と
して静かな余生を送っていた露子は、昭
和三四年の秋、奥座敷で1人事故切れてい
た。袂に古い角封筒が入っていた。差出
人は「S・Osada」。享年78歳。

富田林寺内町

浄土真宗の寺院を中心に堀や土塁で防
御した町を寺内町という。永禄元年（1
558）、京の興正寺第14世の証秀上人
は、石川の西の富田が芝と呼ぶ荒れた芝
地を高屋城主から銭百貫文で購入した。
中野、新堂、毛人谷、山中田の近隣四
ヶ村から2人ずつ8人の有力者を集め、
荒地を開き、四町四面の地域を区画して
外側を土居と竹林で囲い、中央に御坊・
興正寺別院を建立。8人衆の合議制のも
とで御坊を中心とした町づくりが行われた。

江戸時代は幕府の直轄地となり、石川
の水運、東高野街道と千早街道とが交差
する陸運に恵まれ、南河内の交易・流通
の中心地となり、商業の町として大いに
発展した。「南河内、都会の地也。いに
しへは富田芝とて、広き野にてありしが、
天正の頃、公命によりて、市店建ちて、
商人多し。特には、水勝れて善れば、酒
造る業の家数の軒をならぶ。」と、「河内
名所図会」は記している。

酒造りで財をなした仲村家や橋本家・
杉山家などの旧家、町並がよく残ってい
て、平成九年10月、国の重要建造物群保
存地区に選定された。

石上露子

本名杉山タカ（孝子）。明治十五年（1
882）6月11日、南河内一の大地主・
杉山家の長女として生まれた。寺内町開
発にたずさわった8人衆の筆頭年寄とし
ての歴史を持つ家は、酒造業で財をなし、
明治三三年の所有地は10か村61町5反
（約18・5万坪）に及んだ。

幼時から京・大阪の一流の師匠につい
て古典や漢籍、琴などに親しんだ露子は、
16歳の時、堺の方違神社生まれの女性、
神山薫を家庭教師に迎えた。明治三三
年5月、皇太子御成婚に賑わう東京見物
に薫が引率して上京。薫の遠縁に当たる
長田正平（東京高等商業学校在学中）と出
会う。露子19歳。夏休暇、翌三四年1月
の冬休暇に正平は富田林を訪れている。
この年の春、薫と東北地方を旅行。夏か
ら秋へかけて東京の長田方に長期滞在。
露子と正平は互いに心を惹かれるように
なるが、告白することはなかった。

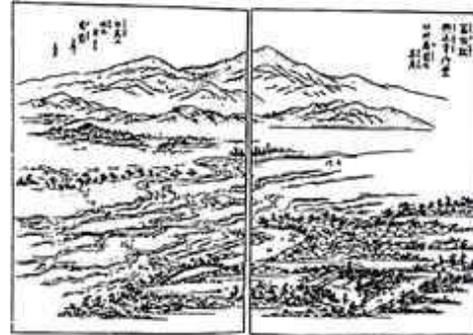
身はここに君ゆゑ死ぬと磯づたひ

文せし空の雲に泣きつつ

20歳頃から「夕ちどり」「石上露子」
の名で「婦女新聞」「明星」などに短歌・
詩・小説などを発表した。



旧杉山家住宅



富田林 興正寺御堂 【河内名所図会】

コース概観

謡歌に「富田林の酒屋のむすめ 大和河内にないきりょう」と謳われたという石上露子。実に清楚で美しい。利発そうな顔の下に凛とした眼が光っている。美貌と言葉の才と富とを持って生まれた彼女が、文学から身を引いて守った杉山家住宅は、国の重要文化財となり富田林寺内町のシンボルとして公開されている。石上露子を訪ね、寺内町を歩いてみた。



の上の白壁、板塼、店前の贅をつくした出格子や荒格子、白く塗りこめられた虫籠窓、重厚な瓦屋根、さまざま意匠を施した見事な鬼瓦、大屋根の上にはかまどの煙を外に出す煙だしの凝った小さな屋根、扉の上に先のとがった竹・木を並べた返返し、駒つなぎの石。二百年年以上にわたる歴史的な民家群が個性的な表情を今に伝えている。

寺内町センターの前にそびえる四層の

近鉄長野線の富田林駅下車。河内長野方面行き側の南口の改札を出るとバスやタクシーの狭い発着場。すぐ右側の観光案内所で「じないまち散策絵図」を手に入れる。右斜め方向に進む信号を渡り、そのまますすぐ狭い道に入っていく。本町筋で富田林寺内町の西端を南北に通じている。右側の小さな公園が本町公園。入口に寺内町案内板が設けられ、化粧タイルの意匠には重要文化財・旧杉山家住宅が取り入れられている。右に「小板橋」を記した石上露子の記念碑、左にはこの地の姉を訪ねて、しばらく暮らした織田作之助の「土曜夫人」の原稿を記した記念碑が建つ。石上露子の生誕120周年を記念した「みいくさ」の歌碑がある。四つ角の西口地蔵を左へ折れ、次の四つ角の先の三叉路の左側に北口地蔵がある。左へとると西国三十三所五番札所の藤井寺に通じる巡礼街道。まっすぐ進むと道幅の広い通りが寺内町に入ってくる。東高野街道である。

富田林・寺内町は、南北約300m、東西約400m、面積約12ha。四五十年以上を経た戦国時代の自治・自衛都市の町割を現在もそのまま残している。御坊

大屋根の家が旧杉山家(わたや)の住宅。代々「杉山長左右衛門」を名乗り、江戸時代を通じて富田林8人家の1人として町の経営に携わってきた家柄である。旧杉山家住宅は、昭和五八年(1983)に国の重要文化財に指定された富田林寺内町を代表する旧家で、富田林市が買い取り、解体修理が行われ昭和六二年から一般公開されている。寺内町最古・最大の十七世紀中期の建物は、藤田正浩監督の「摺姫」の撮影に使われた。

屋敷地は一区画(約千坪、現在は430坪)を占める。母屋と東にのびる三室の別座敷、二棟の土蔵(酒蔵と米蔵)など十数棟が軒を接して建てられている。

旧杉山家の内部に入る。台所の間で寺内町紹介ビデオを見る。広い土間の片隅に釜屋があり、黒光りする甕があった。見上げると巨大な煙返し梁。内部の説明を聞く。格子の間に掲げられた「生前富貴学頭露身後風流怕上花」は、訪れた山岡鉄舟が書き残したものだ。能舞台を模して造られた大床の間に、狩野派絵師・狩野杏山守明筆の障壁画「老松の図」。千鳥が舞う様子を描いた襦袢は、石上露子のもうひとつのペンネーム「夕ちどり」

を中心に六筋七町の甚整目状に幅約2間半(約5m)の道路が通じている。南北の通りを「筋」、東西の通りを「町」という。東より西へ東筋、亀が坂筋、城之門筋、富筋、市場筋、西筋。町は北から南へ一里山町、富山町、北会所町、南会所町、堺町、御坊町、西林町、東林町の八町名を数える。四つ辻は当時の城下町にも見られたように防衛上の配慮から、少しずらすことで遠方がまっすぐに見通せない当て曲げの辻になっている。町の南端に東高野街道の道標がある。「町中くわえさせる、ひなわ火無用」と、防火の注意が払われている。

中心部を南北に結ぶ延長約400mの城之門筋は「日本の道百選」の一つに選ばれている。名前の由来は、豊臣秀吉が築城した桃山城の城門が京の興正寺に移され、旧天満別院から「御坊さん」(富田林御坊)と呼ばれ親しまれていた興正寺別院の山門として移築されたことにちなむ。石畳が整備され、通り沿いの電柱や電線を移設し、夜間は路面灯でライトアップされている。

軒高は低く、母屋・蔵・塼と横に広がる民家。低い中二階(駒子)、腰板壁とその由来となった言われている。座敷・奥座敷・茶室・欄間彫刻など、最盛期には70人以上が働いていたという酒造業で栄えた当時の繁栄が偲ばれる。モダンな螺旋階段は露子が改装して設けた。山崎豊子の小説「花区」は、露子の波乱万丈の人生をモデルに書かれたものと言われている。寺内町センターは、酒造業や木綿問屋で栄えた江戸時代、明治時代の商家に残る各種資料を展示している。寺内町歩きのおちこちで目にしたマンホールには金剛山、葛城山と旧杉山家住宅がデザインされている。

富田林駅前の和菓子老舗「相馬葛城堂」の寺内町煎餅を土産に富田林を後にした。

Aコースタイム

近鉄富田林駅(10分) 富田林寺内町

△地形図V2万5千 富田林

△費用

近鉄阿部野橋駅～富田林駅 4300円

旧杉山家住宅 4000円

(問い合わせ先)

旧杉山家住宅 0721(23)6117

富田林市じないまち交流館 0721(26)0110

「山のレポート」 山の地名を歩く⑧ 「シブレ山」

西尾 寿一

摂津の山の先輩である多田繁次さんには大変お世話になり、多くの著書も拝領した。

小生達が京都北山へ足繁く通うのと同じように、神戸の背後の山地、つまり六甲から北摂へと続き、ついには丹波へと打ち続く山並の真っ只中へ、まるで日帰りの山仕事をしに行く態で弁当持参の山歩きを、多田さんは一生をかけて実践してこられた。その姿に強い印象を残している。

この山地は日本の高度成長期から現在に至るまで、絶え間のない開発の嵐が吹きあれた。それは海岸線の工業化とは対照的な、人の住む住宅団地、ゴルフ場、これらをつぶ道路網である。

六甲山中に幾本ものトンネルと横断道路がつけられ、またたく間に奥山が都市化していった。自然が大変化してゆく様

子を多田さんは多くの著書のなかで嘆いておられる。春にはすばらしい樹林の散歩道だったのが、秋には造成工事で見える影も無い姿を見て茫然と立ちつくす多田さんの姿が胸に浮かぶ。三大都市圏共通のこの現象は、誰にも止めることができなない日本の宿命のようなものだったのかもしれない。

そんな一角を神戸電鉄が有馬へ三田へ、あるいは播州へと走るが、多田さんが常に愛用した登山の交通機関でもある。車社会とはいえ、今日でも電車が登山の主役であり続けるのは京都も同じで、北山のオールドファンは京福電鉄に乗り、安易に車を使用しないものだ。

電車を降り、駅からすぐ登山が始まる快感は特別なものがある。電車は都市から一瞬にして自然のなかへ放出してくれる手品師である。魔法にかかったように都会人から自然人へと表情を変えて山へ入って行く人は幸福である。

神戸電鉄鈴蘭台駅から粟生線まで二駅目が木津である。明石川が小幡で木見川と木津川に分かれる。2、3程の小さな在野である。

この付近は豊富な材木があったとみられることから川の港であったのだろう。京都の木津川も規模が違っただけで機能は同じである。

木津の小集落を抜けると小河という名の山村が東の台地に一塊に鎮まっている。三木に淡河川と淡河の町があり、何らかのつながりがあるかも知れないが、その一角から「シブレ山」が東西に長い尾根を張っているのが見える。山頂にマイクローエーブがあつて無粋ではあるが、山体は二次林に覆われてなかなかのものがある。

北摂の主、多田さんもふれなかったシブレ山という奇抜な名をもつ山が妙に気になり登りに行ったが、旧地形図には全く記載の無いゴルフ場と高速度道路の出現で面食ってしまう。送電線の下で巡視路を行くと、良い道が山頂まで導いてくれた。ゴルフ場西端の道である。

下山は北へくだったが、これまた巨大なダム湖が出現して驚く。ダムの名を呑吐と言ひ、湖に沈んだ村の名である衝原をとって、つくはら湖と言うらしい。ツクハラは突き当りの意で、コウモリ谷の岩場が押し出して川を狭くする地点に村

があり、箱木千年家もあつて、有馬から三木へ抜ける重要な街道の中間地点であつた。さて、シブレ山のことである。当初衝原の北にあるシブレ山と同じ意とみていたが、調べてゆくうちに別の意味が浮上したのである。

つまり、この山名の発生地である。衝原か木津かと言うなら、断然南方の木津である。その理由は地形にある。北に急で南にゆるい田園地帯でたくさん池が散在する。シブレ池という名の池もあつて昔この部分は湿地帯であつた可能性が高い。

旧地形図にはシブレ山の東南部に無数の池と水田があるが、高低の少ない湿地帯である。西半分はシブレ池に向かってゆるやかに高度を下げるが、現在は造成工事中である。東側は完全にゴルフ場になつて昔の様子を知るものは何ひとつないので地形図で判断するよりないが、湿地帯であつたことは間違いないようだ。それでは「シブレ」とは何か、である。

- 一、液木・ヤマモモの異名
- 二、淡味・舌を刺す強烈な刺激
- 三、飛沫・シブキ・水・流のー

四、妻むしシボム地形

五、湿地・池・水田等

六、流るゝ行為・行動を控える

以上探り上げたものうちどれかになるが、一は、植物名で、この山地に特にヤマモモが多かつたわけもないので退ける。二は、流水に淡味があるわけで、温泉・鉱山がそれに相当するものの、現地に当てはまらない。三は、川の水流が激しい流などによって飛沫を飛ばしている状況であるが、これも不可で現地は逆に高低差の少ない地形だ。四は、地名学者の松尾俊郎氏の説で多くの実例があるが、これも現地に合わないようだ。六は、地言語でなく行為の語であつて、直接この山の姿を表現するものではないので割愛してもよさそうである。なかには特定の人間の行為によつて地名が生まれる場合があるが、極めてまれだと思われる。

最後に残つたのが、五の湿地説である。山陰地方で湿地のことを「シブタレ」(葎草)と呼ぶことがあると、「方言辞典」に出ている。シブタレとは湿地に限らないが、特定の水気が多い土地から垂れ下がる細い水流を指しているようである。谷や沢の奥でぶ厚いコケに覆われた細流

の一角からスグレのように垂れ下がる流とも呼べない繊細な流れを想像するが、夏の沢登りの折にはたとえようもなくよい気分にかけてくれる場所でもある。

そんな水気が多い棚田群を見るには時代が遅すぎた。わずかに残る池のいくつかを見て昔のことを思いめぐらすしかなかったが、地名を同定するにはそれで十分だった。

シブレ山の北の衝原もすばらしい田園風景のなかにあつたのを丹生山を登った折に見ている。木津から木見川のあたりも同じ雰囲気があつたようだが、現在はすさまじい開発によつて、かつての石仏なども離散していか心配の種はつきない。

わずか348軒に過ぎないこんな低山をわざわざ登る人もいないとみえて誰にも出合わない山脈だったが、開発され過ぎてはいるもののそれなりの良さはあるのである。

山頂の標識からみても、低山を丹念にトレースしている人達がいるのであろう。踏み固められた良い道だった。

〈山のレポート〉 犬連れ登山

金谷 昭

ペットブームの昨今、犬連れの登山者をよく目にする。かく言う私も子供の頃から愛犬家。登山の際には犬の鋭い嗅覚を生かし、近郊のみならず激やぶで名高い奥美濃や湖北の山々をナビゲーター代わりに犬連れ登山をしたものである。

犬を山中に放しても、臭覚と同様に鋭い聴覚で人間には聞こえないが犬には聞こえる長周波を発する犬笛を吹くことにより、飼い主の所に戻ってくる。

登高の際には、飼い主の動向を常に意識しながら飼い主の7〜8メートル先の距離を保持させる。そして左右の進行方向の指示や引き返す際にはアイ・コンタクトにて素早く行動するように訓練した。その結果、地形図と磁石を併用しても見通しのきかない悪天候下や激やぶかつ地形が複雑で迷いやすい登山にもほとんど迷うことなく、特にそのような山岳の往復登山には抜群の効果が有り、犬連れ登山を

楽しんできた。

ある時、自宅近くの醍醐山地に連れて行き犬の鎖を外したところ、本能的に獣の匂いを感じとったのか一目散に山中に消えてしまった。だいぶ時間が経ってから犬笛で呼んだら、高塚山と行者ヶ森との尾根で犬の吠え声と異様な地響きがあったので駆けつけると、一匹の猪を追い出しているところであった。猪はどこかのヌク場で泥を浴びたらしく、泥の固まりのようだった。こんな民家に近い所で猪を見たのは初めてであった。なお、本誌をよく投稿され、その文に出ていたU御夫妻の愛犬の秋田犬が山中で行方不明となったとお聞きしたが、他の獣との争いか転落事故でなければ、犬笛を使用されていれば防げたかもしれない。

現在私が飼っているのは狢犬種の血の混じった雑種の中型犬である。ある時、目から膿のような目ヤニが出てきて獣医師に見せたところ、獣医師は犬の目を見て即座に、よく山に連れて行っていることを言い当てた。狢犬によくあることで、山中で目に虫が入ったらしい。虫を除去

いる犬を見ていると、いずれも大勢の登山者に接することによって人懐っこくおとなしくなるようである。

山で出会った犬で私が最も思い出深い心に残っているのは、四国笹ヶ峰(1859・7呎)の山頂近くの丸山荘の黒毛の中型雑種犬の愛称「黒チャン」である。春浅い雪の残る3月末、小屋開きして間もない頃に投宿したが、当日の宿泊者は私1人にも拘わらず、小屋の管理人の老夫婦には大変歓迎していただいた。翌日、ガスのかかった笹ヶ峰に登り、尾根続きの冠岳(1732呎)を経て平家平(1693呎)を往復しようとしたところ、親かな老夫婦は単独の私の身を案じてか、人懐っこく愛嬌のある「黒チャン」をガイド犬として付けてくれた。

大好きな私にはまたとない楽しい山行であった。幸い天候は途中から回復して薄晴れとなった。ササ原の稜線はそう深くもない積雪、登山道は雪の下でわからなくなっていた。5〜6呎先を行く「黒チャン」の先導により吹き溜まりにはまり込むことなく軽足で無事往復でき、忘れられない山行の一つとなった。

後に老夫婦に聞けば、全国遠くから「黒チャン」に会いに来る大好きな登山者もあり、当時「黒チャン」のファンクラブが出来かかっていたと言う。その後はファン増加のためかあるいは牡犬のためか、登山ガイドは女性登山者にしか務めず、男性登山者は相手にしなくなったとの噂を聞いた。今から25年程前のこと、あの時の老夫婦と「黒チャン」は既にこの世にはおられないだろう。

最近の犬連れ登山は、飼い主のマナー、犬の糞の問題、捨て犬による野犬の増加等が生息系に対しても問題を呈している。私が毎夏訪れる北海道に飼い犬を連れて行き(北海道へのフェリーにはペットケージ完備)、広大な原野でのびのびと走りまわること考えたが、ある年の夏に東京から連れて行った飼い犬が、例の寄生虫エキノコックスに罹患し問題となり、連れて行くことを断念した。寄生虫エキノコックスはネタキツネにのみ寄生するのではなく、ウサギ・ネズミ・モグラ等の小動物にも寄生しており、犬は所詮野生を秘めた獣、山中でこれらの小動物を襲ったりしてエキノコックスを寄生してしまう可

し、完治するには大層な手術以外に方法がなく、早速手術日を予約し、執刀してもらった。術後、犬の目の裏から出てきた木綿糸位の長さ10・5cmの虫が10匹程入った試験官を見せられてゾッとされた。以後犬を山に連れて行くのは止めたが、猟犬ではしばしば発症することである。犬に健康保険証はなく、約3万円の多額の医療費を請求された。

過去、登山で出会った山小屋の飼い犬との思い出も多い。奥秩父の雲取山荘には大きなセントバーナードが玄関に繋がっていた。巨大な体格で、犬に慣れていない登山者には怖そうであったが性質は極めておとなしく、霧に包まれた時の遠吠えは山小屋の位置を知る判断材料になっていた。40年程前には穂高連峰の岳沢小屋にはジャーマン・シェパードが飼われていた。犬の名前は穂高ジャンダルムに因んで「ジャン」と名付けられ、遭難発生時には捜索救助に活躍して登山者にも親しまれていた。20年程前に登山した苗場山山頂ヒュッテには、雑種犬が看板犬として飼われていた。山小屋で飼われて

性能がある。

犬連れ登山で一般登山者の入る山に行く場合、登山者が大好きな人ばかりとは限らず、また子供もいて、飼い主は必ず鎖を付けて人を襲ったり無駄吠えせぬように頼むこと。それと共に糞便処理の徹底など、飼い主のマナー向上を図り、楽しい犬連れ登山としたい。

飼い主は可愛い小犬が長ずるに及んで手に負えず山中に捨て、野犬化させてしまっているのは、家族の一員として人間より短命の犬の面倒を一生見守るべきである。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

石田川を挟んで対峙する山
荒谷山地(縄手)と大俵山

一般コース(★★★)
長宗 清司

JR近江今津駅から小浜行き JRバスに乗る。保坂で下車して、石田川沿いに下流へ左岸を少し南下、雨谷橋から始まる林道梅原雨谷線の谷筋に入る。

右の川を見ながら歩く。左は滝谷、釜谷、材木谷と谷があり、林道の下をくぐって右の谷川に注いでいる。なかで、直谷には谷奥に向かって袖道がある。

若むした岩肌から水の滴る道は、蒸し暑い季節には涼しさを届けてくれる。冬場は日差しが薄く、谷筋は雪が融けず、轍や踏み跡がくっきり残っている。

この林道は、以前は峠の手前で途切れたままだったが、現在は峠を越えて梅原集落まで続いている。峠の手前左側の谷

の源頭には、持ち込まれた土砂を敷きならした広場がある。

峠の向こう側に廻ると谷で、道はT状になり左右に分れる。正面には箱館山の南面が望める。右の道を尾根に上り切ると、右に遠く比良の最高峰武奈ヶ嶽の頂が白銀に輝いていた。

今回は、峠をくだる前に、左(北)に連なる荒谷山地の尾根上にある三角点を目指す。残土広場から尾根に取り付き、418mに向かう。人の入った気配が残る獣道には、シカ・イノシシ・サルの存在を確認する。標高500mあたりからは木の間越しに自衛隊の舞庭野演習場や琵琶湖が見えはじめる。やがて林道に出て、しばらく平坦な道の延長上に広場があり、西側の草むらのなかに縄手577・9mの三角点標石を見つめる。

下山は、元の道を引き返して峠に戻る。梅原への下り林道は何の障害もない平凡な道で、ゆったりとした気分ですく。平地に下り、すぐ左手にある「弓削神社」で一服する。境内では二本の巨木と狛犬に出会う。旧村社弓削神社は、もと弓削八幡宮と称し、祭神は応神天皇・弓削皇子で左内社とする説がある。

一足引の板倉山の峰までに積める刈り穂を見るがうれしき！この板倉山と次の大俵山の頂を結ぶ尾根道は、民有地と自衛隊用地の境界線で、将来はフェンスで仕切られるようで、一般人はフェンス沿いを歩くことになる。頂上から少しくだった所に幅10m奥行50mほど拓いた草地があり、テレビ用のアンテナが設置されている。北の端に立つと目前に円明寺と荒谷山、その奥には大御影山あたりが望める。さらに視野を右に向けると箱館山から、ずっと遠くに伊吹連峰が望める。

再び境界線を東進する。右側にはずっと自衛隊の施設(建物)や広場が木の間がくれにちらちら見える。次の山塊への鞍部は切通しになっていったん道路に下りる。登り返して大俵山の山頂に向かう。板倉山より勾配はゆるい。二つの大岩を過ぎて間もなく赤土の広場に出る。大俵山(302・9m)の三角点標石は、削り残した草付きの土饅頭の端にある。残念ながら、将来このあたりはフェンスの囲いの中になる(と見る)。再び境界線のフェンス際を急下降して、



別荘地「やわらぎの里」に下り立ち、梅原口のバス停に急ぐ。

(平成14年11月14日歩く)
(平成19年2月12日歩く)
(平成19年3月1日歩く)

▲コースタイム▼

JR近江今津駅(バス20分) 保坂(10分) 雨谷橋(20分) 直谷口(20分) 峠(20分) 618m(40分) 縄手三角点(40分) 峠(50分) 弓削神社(10分) 日吉神社(15分) 上ノ瀬橋(5分) 二つ目の石段(30分) 板倉山(5分) アンテナ展望台(15分) 切通し(30分) 大俵山(15分) 別荘地(15分) 梅原口バス停(バス10分) 近江今津駅

△地形図V2万5千II舞庭野・熊川(問い合わせ先)

高島市今津町観光協会

☎0740(22) 2108

JRバス・今津営業所

☎0740(22) 2136

湖国バス・長浜営業所

☎0749(64) 1224

近江タクシー・今津営業所

☎0740(22) 0106

林道梅原雨谷線の峠付近



弓削神社から南下して日吉神社に向かう道は複雑かつ高低差があり、わかり難いので注意する。日吉神社から西へそのまま移動する。

獣除けのりっぱなフェンスを抜けて谷川を渡り、石田川沿いの山道を上流に向かって左岸を歩く。土道が突然舗装路に変わる地点で見下ろす左の国道303号線に下り立ち、上ノ瀬橋を渡って、国道

特選コースサイト④

若狭

フナ美林の尾根を歩く

小栗

一般コース(★★)

金谷 昭

福井県嶺南の江若国境山地は、比較的低山でも因西屈指のフナ美林が見られ、日本海の展望も楽しめる。百里ヶ岳と若狭駒ヶ岳との江若国境から北に派生する尾根上の地形図に載る山名記入の無い三角点峰「小栗」(722・9M)もその一つで、比較的登りやすく、ブナを始めとする自然林のなかの山歩きが楽しめる。西麓の上根米を起点に、小栗の少し南から派生する小栗尾根を経て小栗に登り、百里ヶ岳と若狭駒ヶ岳との江若国境尾根の中間点の分岐峰P8255峰を経て、木地山峠にくだり、上根米に戻る周回コースを紹介する。

滋賀県側からは高島市朽木町小入谷



から奥道の遠敷峠を越え、あるいは小浜市遠敷を経て遠敷川の最奥集落上根米に入る。積雪時には、11月末から翌3月末まで遠敷峠の車は通行止めで、福井県側からしか入れない。遠敷峠越えは無雪期でも土砂崩れで通行できない場合があり、道路情報に注意したい。マイカーの場合、駐車は上根米の集落奥の墓地前か旧番座団地付近の空地を利用する。

廃村に近い集落の中を行き、上部にある寺院裏の杉林の尾根に取り付く。急斜面のため直登を避け、尾根末端を目指して斜面を左(北)に捲いて行き、尾根にのる。杉林には微かな踏み跡しかないが、わからなくても下生えは無くどこでも歩ける。

この小尾根は傾斜がゆるやかで、右(杉)側は杉植林、左側は雑木林となっており、その下生えの無い境線跡線に登って行く。しばらく登ると右側の杉植林が雑木林に変わる頃、使用されなくなった共同アンテナが出てくる。これを過ぎると左に折れ、P5477のクブに達すると尾根は広くなる。下生えの無い自然林のなか、落ち葉のクッションを味わいながらの登高となる。

は木の間越しに西北方向に多田ヶ岳、北方向には久須夜ヶ岳と日本海を見る。頂上から引き返して百里ヶ岳と若狭駒ヶ岳との間の分岐峰P8255峰に向かつて広い主稜線を南に向かう。先程の尾根分岐を過ぎると、いったん少しくだつてヌク場を見る。その後やや右(東南)方向に振り、ゆるやかな疎林の登り返しとなる。左方向が開かれ、落ち葉のカーベツ

トにブナの巨木を点在させた絵に描いたような風景が現れる。分岐峰が近づくとつれ、傾斜も強まり、そのうちやせ尾根となる。やぶも無く特に問題となる所もない。再び広い尾根になって円頂の頂上手前の大斜面となる。

木地山峠への道標を右に見て、登り切ると分岐峰8255峰に飛び出す。頂上も広いブナ疎林で、ここもガスがかかった際には方向判断に注意を要する所である。最上部より少し東(若狭駒ヶ岳)側に行くと、三角点ではないが図根点が置かれ、その少し先は南面が開かれて比良や北山の展望が満喫できる。

木地山峠へは国境線を行くのであるが、少し戻り、先の道標の所から南西方向に雑木林の急斜面を駆け落ちるようにくたつて行く。最初は踏み跡がはっきりとしないが、左側に杉植林が出てきて、右側の雑木林との境界に沿って明瞭な踏み跡が出てくる。傾斜がややゆるむと地蔵尊の置かれた木地山峠に下り立つ。若狭と近江を結ぶ古くからの由緒ある峠で、現在も健在である。

峠からは地形図通り、最初は山腹をトラバース気味にくたつて、いったん遠敷

少しくたつた鞍部にヌク場が出てくると、ブナを交えた疎林となり、広いゆるやかな尾根を登って行く。

小栗頂上広場



8255峰との主稜線に飛び出す。下生えの無い落ち葉のカーベツトの広くてゆるやかな尾根線は、ブナやミズナラの巨木が点在し、疎林は明るく好ましい風景を醸しだしている。

この主稜線を左(北)に折れて頂上を目指す。いったんゆるくくたつて登り返せば頂上である。

頂上は三角点標石以外の人工物は小さい見当たらず、登る人もほとんどいない静寂そのもので、3等三角点(722・94M)点名小栗を中心にした円頂の大きな広場である。ガスがかかっている時は方向判断に注意を要する。落葉時期に

川の源流に下り立ち、沢沿いをくだり、再び右岸の支尾根の山腹をトラバース気味に行く。この支尾根を乗越して遠敷川の北の源支流に下りる。

以後は沢沿いの踏み跡をたどってくだつて行く。上根米集落が近くになってからは地形図にある左岸沿いではなく、右岸の山腹の高いトラバース道を行き、最後は集落すぐ上の牧場跡に出る。

(平成19年4月19日歩く)

Aコースタイム

上根米(40分) 共同アンテナ跡(20分)
小栗尾根P5477峰(25分) 主稜線分岐(25分) 三角点小栗(20分) 主稜線分岐(45分) 分岐峰8255峰(25分) 木地山峠(1時間30分) 上根米

(問い合わせ先)

小浜市役所(バス便) ☎0770(53)1111

福井県嶺南振興局小浜土木事務所(道路) ☎0770(56)2100

滋賀県高島県事務所建設管理部(道路) ☎0740(22)6068

三福タクシー ☎0770(52)1414

大和交通 ☎0770(56)3333

特選コースガイド③

比叡

坂本・日吉大社から横川行者道を経て

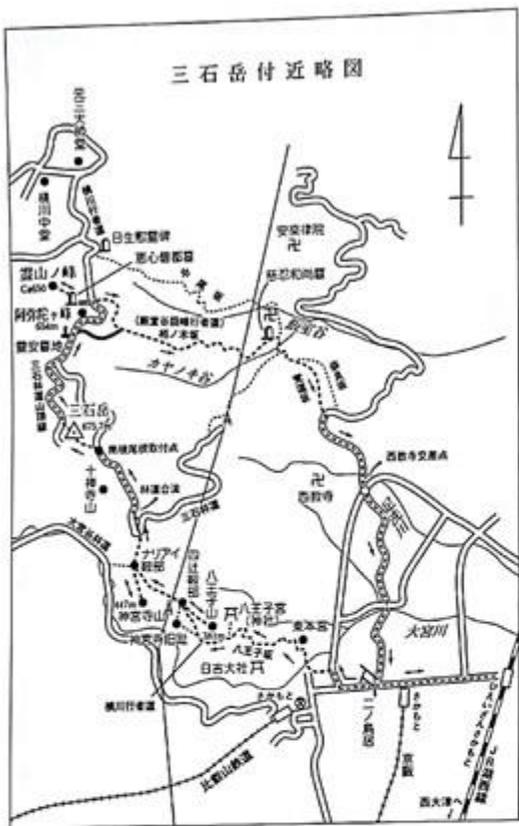
三石岳

一般コース(★★★)
松尾 一郎

三石岳は、比叡北稜の水井・横高山南嶺付近から東に分岐し、横川台地で南に転じる比叡支稜の最高峰で、大宮谷を挟み奥比叡スカイラインと対峙している。

今回は坂本・日吉大社から八王子坂を経て横川行者道(途中から三石林道)を北上し、三石岳南稜を直登して三石岳頂上に達するコースを案内する。余力があれば途中の八王子山や神宮寺山へ立ち寄ってもよい。下山路は、三石岳より林道を恵心僧都墓まで北上し、その奥の霊山ノ峰に登拝し、飯室谷回峰(行者)道でもある栢ノ木板をくだり、飯室谷の慈忍和尚墓まで下りて、坂本(日吉)に戻る。JR湖西線比叡山坂本駅から西へ約20

＊神宮寺山へはナリアイ鞍部から左(南方)へ倒木の多い踏み跡も無い尾根を忠実にたどる。山頂(447)は三角点なし)にはやや大きめの石に「神宮寺山」と墨書してあるが、樹木に覆われ何も見えない。下山のときは方向がわかりづらく要注意である。特に南面は急斜面で危険であり、コンパスと地形図で北の方角を確認しながらの、



分で坂本・日吉大社前に着き、屋台のような東受付で入山料300円を支払う。八王子坂へは東本宮前を左(西)へ行き、すぐ右に上がる広い石段道を登る。鬱蒼と木々に囲まれた九十九折の砂利湿じりの八王子坂は八王子神社まで続く。再び石段になり、右に曲がると八王子神社(石が牛尾宮・左が三宮宮)の社殿が見え、左(西)方向より黒い木柵の水平道が八王子坂(石段)に合流してくる。この道が横川行者道(道標なし)で、そのまま水平道に入りしばらく行くと、道は二手に分かれる。右手の細い踏み跡が横川行者道、左へくぐる木柵の良い道は飯室谷回峰道で神宮寺舊趾へ続く。左の横川行者道に入り、八王子山南面の山腹をトラパスしながら進むと、鉄塔が立つ四辻鞍部(道標なし)に着く。左下より先ほどの神宮寺舊趾から道が上がってきている。

＊八王子山へは右へ反転(南東方向)気味に尾根伝いの踏み跡をたどり、小ピークを一つ越すと山頂(381)は三角点なし)に達する。樹木が茂り見通しはきかず、枝に山名標識が掛かるだけだ。(登り10分、下り7分)

慎重なルート選びが肝要である。(登り10分、下り7分)
ナリアイ鞍部から北に横川(三石岳)方面に進むと、すぐの分岐は左へ。木で土止めしたよく踏まれた尾根道を登る。数本の大杉が現れると、そのすぐ先(上部)で三石林道を斜めに横切る(日吉大社への標識あり)。さらに登って行くと上部で再び三石林道に合流する。以降の

八王子坂登り口の石段(階段上部から左へ登って行く)

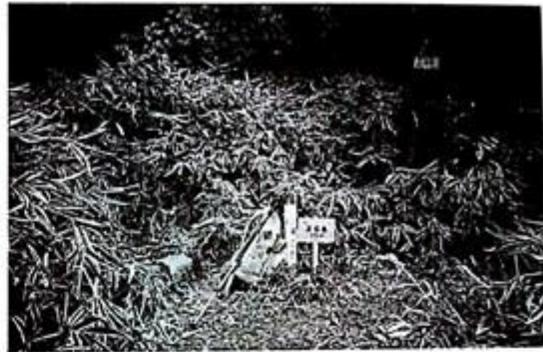


四辻鞍部から神宮寺山北東面の山腹をトラパスし気味に登り、十禅寺山からの勾配のゆるい尾根(横川行者道)と神宮寺山との四辻鞍部(ナリアイ・ナリアイともいう、道標なし)に登り着く。記念植樹の石塔が倒れたまま。横川(三石岳)方面は右(北)の尾根道を行く。鞍部を乗っ越し西方へくぐる大宮林道への山道はロープで通行止めにしてある。

コース(横川行者道)は三石林道に埋もれているので、そのまま十禅寺山の東斜面の勾配のゆるい林道を北に向かってただらと行き、十禅寺山と三石岳のただ広い鞍部に着く。ここには丸太も転がっている休憩適地で、昼食によい。

三石林道は三石岳の東側山腹を水平にトラパスして横川まで通じているが、この鞍部から三石岳へ直登(注1)の南稜尾根の先端に取り付く。枯れ木に巻かれた黒と黄色のテープ(三石岳と表意)を確認し、尾根を北へ登る。伐採後の疎らな杉林のなか、ササに覆われた尾根の踏み跡を丹念にたどり登って行くと、鹿除けネットが張られている。ネット沿いに左(西北方向)へ進み、槍の植林が現れるとネット沿いの踏み跡は一気に急坂となり、ササの根元をつかんで喘ぎ喘ぎ必死に登り続ける。やがて急坂もゆるくなり、三石岳(657・7)に飛び出す。山頂は狭く樹木に覆われ眺望は無い。3等三角点標石が埋まり、山名標識が数枚枝にぶら下がっている。

三石岳からの下山路(注2)は北西方向へ、三角点標石の奥の踏み跡(少し先に枯れ木に黒と黄色のテープ印あり)のササ



三石岳山頂（三角点の左奥が林道への下山路）

のなかを行く。途中赤布などが垂らしてあり、林中を100mほど少々と三石林道山頂線に出る。ここには黄色の「三石岳」で100mの案内標識が枝に掛かっており、逆コースのときは目印となる。三石林道山頂線を右北方に行き、ゆるくトラバース気味にくだれば三石岳北側鞍部で、先ほど分かれた三石林道が右から合流する。横川へはそのまま北へ林道

（横川行者道）に入る。この林道分岐の三石林道山頂線入口には、黒と黄色で三石岳への登山案内標識が右側の木に括りつけてある。

林道合流地点からは行者道（林道）を横川方面に行き、左側に滋賀医大の献体霊安墓地をやり過すと、しばらくで恵心僧都（注3）墓の入口に着く。左へ石段（55段）を登れば恵心僧都墓前に登り着く。霊山ノ峰へは右の墓石群奥の杉植林のなかを北西方向に進み、鹿除けネット沿いのササに覆われた踏み跡を右にたどれば、ササがきれいに刈り込まれた霊山ノ峰（約650m三角点なし、山頂標識もなし）に着く。山頂からは西方の比叡主稜の水井・横高山から大比叡までの雄大な景色が一望のもとに見渡せる。古い切り株もあって休憩適地である。

比叡スカイラインの眺望を堪能したら恵心墓まで戻り、その南側の阿弥陀ヶ峰（注4）には登らず、墓の石段下の林道まで下りる。

栢ノ木坂へは下りた石段向かいの林道脇から日吉（南側）側に向かって左側にくる。この小径（道標なし）が下山路となる。最初は阿弥陀ヶ峰から派生する天

然林の支尾根を捲いてくただって行くが、杉のほかにモミ・ツガなどの針葉樹の大木やブナ・ミズナラなども散見され、やがて右から滋賀医大霊安墓地からの林道（終点）が合流する。

ここからの栢ノ木坂は杉植林の尾根道となりどんどんくただって行けば、やがてジグザグを繰り返して、カヤノキ谷左岸に下り着く。冷たい清流が流れており、一服したい所だ。流れを離れて左岸の谷道を進むことしばし、慈忍和尚（注5）墓前に下り立つ。あたり一帯は樹齢数百年の杉の巨木群が参道両脇を固め、霊気漂う幽玄な所で、比叡三魔所（注6）の一つといわれる。すでに飯室谷の一角だ。坂本へは鳥居の建つ慈忍墓出口の階段をくだり、右（南）へすぐのカヤノキ谷堰堤を木の橋で渡り尾根道に取り付く。

右から山道を合わせ、道はやがて左右に分かれるが「坂本の道」の道標に従い、右の「覚道坂」（注7）をくだって車道に出る。

車道を右へ行き、足洗川を渡れば路線バスも通る西教寺前交差点に出る。ここは坂本の街中で、後は地図を頼りに道なりに琵琶湖を望見しつつ南下すれば、二

ノ鳥居の立つ日吉（坂本）に着く。車道を左に行けば京阪石坂線坂本駅はすぐ、JR湖西線比叡山坂本駅も10分少々だ。（平成18年11月23日、平成19年5月3・12・26日歩く）

▲コースタイム▼

JR比叡山坂本駅（20分）日吉大社（八王子坂25分）八王子神社（横川行者道入口）（5分）神宮寺舊趾分岐（5分）八王子山・神宮寺山鞍部（10分）ナリアイ鞍部（10分）三石林道横断（5分）三石林道合流（三石林道15分）十禅寺山・三石岳南麓鞍部（三石岳南麓15分）三石岳（三石林道10分）三石林道合流（三石林道10分）行者道（10分）恵心僧都墓下点（林道）（恵心僧都墓（5分）霊山ノ峰（4分）恵心僧都墓（階段1分）霊山ノ峰（4分）恵心僧都墓（階段1分）カヤノキ坂27分）カヤノキ谷合出（5分）慈忍和尚墓前（6分）奈良坂・覚道坂分岐（10分）覚道坂出口（10分）西教寺前交差点点（坂本二ノ鳥居（10分）比叡山坂本駅

△地形図▼

2万5千Ⅱ京都東北部・大原

〔注1〕三石岳南麓からの直登を避けなければ、林道（行者道）を北に進み三石岳北麓鞍部で山頂への林道が左に分岐する。左へ反転気味に上がる山頂への林道に入り、山腹を巻く気味に三石岳直下まで進む。林道終点手前の木枝に掛かる黄色い標識の案内に従い、東南方向に山道に入れば三石岳である。所要約30分。

〔注2〕三石岳からの下山路は、以前は山頂から南西方向に向かって踏み跡をたどり、林道の終点部に出ていた。今も踏み跡はあるが、遠廻りなのであまり利用されていない。

〔注3〕恵心僧都（942〜1017）は「往生要集」で有名な浄信のこと、10世紀後半から11世紀前半に比叡山で活躍した僧侶。横川再興の祖、良源、慈尊大師・元三大師（912〜985）に師事した。

〔注4〕阿弥陀ヶ峰（654m三角点なし）は、霊山ノ峰と対をなす霊峰。杉・モミなどの巨木が茂り見晴らしはしない。登り口は逆茂木で通行止めにしてある。

〔注5〕慈忍和尚（943〜990）は、

生前は尊神と称し、10世紀後半比叡山で活躍した僧侶。右大臣藤原師輔の第十男で生母は醍醐帝の皇女。尊神は父の師輔を権家とする円仁派の総師良源に弟子入りし、当時衰退していた横川再興に師の良源とともに尽力し、師良源に就いて天台座主となった。また、慈忍（尊神）は廢れていた飯室谷の中興の祖でもある。

〔注6〕他の比叡山三魔所は、横川の御廟ノ森（元三大師廟）と本坂道中腹にある竜ノ塔の東奥の天梯ノ峰（614m三角点なし）である。

〔注7〕この分岐は、左の尾根道を「奈良坂」といって旧来からのコース。右へ斜面をくだる道を「覚道坂」といって大正時代に僧覚道が開いた道で、坂本への近道なので主に利用されている。ただし、「覚道坂」は近年の風雨などにより下部が荒れており、雨天のときなどには「奈良坂」迂回が無難だ。下山地も50mしか離れておらず、タイムもほとんど変わらない。

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽近鉄万歩ハイキング「スキスキの墓城山へ」11月3日(雨)雨天中止
〔集合〕警成駅9時30分〜10時
〔コース〕警成駅→長尾神社→(ダイヤモンドトレール)→葛城山山頂(解散)→葛城山山頂(ロープウェイ)→葛城登山口駅(約11時)健脚回 参加自由・無料(ロープウェイ代720円別途)・近鉄大阪イベント係06(6775) 3566
▽金剛生駒紀泉ハイキング+α
〔紀見峠からダイヤモンドトレールを経て若湧山へ〕11月4日(雨)小南決行(荒天の場合は12月9日(日)に延期)〔集合〕南海紀見峠駅8時30分〜10時(コース)紀見峠駅→紀見峠→根古峠→五ツ辻→岩湧山→カキザコー滝畑ダムバス停(バス)南海・近鉄河内長野駅(約12時健脚回)参加自由・無料(バス代530円別途)・南海テレホンセンター06(6643) 1005
▽おおさか山の日、「生駒・山の日フェスティバル生駒周遊ハイク」11月10日(小南決行(荒天の場合は11月18日(日)に延期)〔集合〕枚岡公園駐車場(額田駅徒歩約10分)9時〜9時30分(コース)枚岡公園→神津嶽ふれあい広場→客坊大橋せせらぎ広場→なるかわ園地→神津嶽→枚岡公園(約5時)一般回 参加自由・無料、大阪府中部農と緑の総合事務所地域政策室072(994) 1515(内線385)
▽駅長お薦めフリーハイキング「秋の矢田山を歩こう」11月17日(雨)雨天決行(荒天の場合は11月23日(日)に延期)〔集合〕元山上口駅9時30分〜11時(コース)元山上口駅→矢田寺→松尾寺→竜田川上(約11時)一般回*係員は同行しません(参加自由・無料、王寺駅0745(72) 2330
▽奈良交通ハイキング「蜻蛉の滝から青根ヶ峰へ」11月17日(雨)雨天中止(中止の場合は11月18日(日)に延期)〔集合〕大和上市駅9時30分(コース)大和上市駅(バス)西河バス停→蜻蛉の滝→青根ヶ峰→吉野山→吉野駅(約9時)一般回 参加自由・無料(バス代700円別途)・吉野営業所0747(52) 4101
▽駅長お薦めフリーハイキング「古代・神話の山の辺の道を訪ねて」11月18日(雨)雨天決行(荒天

京阪

9時〜9時30分(コース)枚岡公園→枚岡山展望台→神津嶽ふれあい広場→客坊大橋せせらぎ広場→なるかわ園地→神津嶽→枚岡公園(約5時)一般回 参加自由・無料、大阪府中部農と緑の総合事務所地域政策室072(994) 1515(内線385)
▽駅長お薦めフリーハイキング「大阪大仏と高取城跡を訪ねて」11月23日(雨)雨天決行(荒天の場合は11月25日(日)に延期)〔集合〕高取山駅9時10分〜10時40分(コース)高取山駅→砂防公園→猿石→高取城跡→五百羅漢石→高取寺(高取大仏)→お里沢市の墓→並阪山駅(約11時健脚回*係員は同行しません)参加自由・無料、榎原神宮前駅0744(22) 2449
▽金剛生駒紀泉ハイキング+α
最終回遠征コース「狹山神社・富田林寺内町から東高野街道を歩く」11月25日(雨)雨天決行(荒天の場合は12月9日(日)に延期)〔集合〕南海金剛駅9時〜10時(コース)金剛駅→狹山神社→鏡鏡神社→水郡町→富田林寺内町→教蓮寺→桜井地蔵→大泉→河内町→(試飲)・販売・講習会等予定)→杜本神社→駒ヶ谷駅(約13時)一般回 参加

自由・無料、南海テレホンセンター06(6643) 1005
▽駅長お薦めフリーハイキング「かぐや姫の里と古墳めぐり」11月28日(雨)雨天決行(荒天中止)〔集合〕五位堂駅9時30分〜11時(コース)五位堂駅→かつらぎの道→竹取公園→馬見丘公園(ナガレ山古墳)→牧野古墳→武烈陵→志都美神社→頭宗陵→鹿島神社→下田駅(約13時)一般回*係員は同行しません(参加自由・無料、大和高田駅0745(52) 2414

京阪電車

雨天決行(荒天の場合は12月8日(日)に延期)〔集合〕新石切駅9時〜11時(コース)新石切駅→石切神社→生駒山麓→生駒徒走歩道(展望台)→生駒山上駅(約9時)健脚回*係員は同行しません(参加自由・無料、生駒駅0743(74) 2056
▽駅長お薦めフリーハイキング「かいがけの道からくろんど池へ」11月4日(雨)小南決行・荒天中止〔集合〕天田神社(河内森駅より9時30分〜10時(コース)天田神社→住吉神社(かいがけの道)→傍不くろんど園地(ハツ橋)→獅子ヶ丘住宅→くろんど池→くろんど園地(すいれん池)→月輪の滝→私市駅前公園(約9時)一般回 参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06(6947) 3702
▽スポニチファミリアハイク「日向大神宮から大文字山・吉田神社へ」11月25日(雨)雨天決行・雨天中止〔集合〕三条駅9時30分〜10時(コース)三条駅→蹴上→日向大神宮→七福思案処(京都一周トレイル東山コース)→大文字山

京都バス

11月15日(雨)雨天中止〔集合〕貴船口駅9時30分〜10時(コース)貴船口駅→大岩分岐→貴船山→樋ノ水峠→夜泣峠→二ノ瀬駅(約9時)一般回 参加自由・無料、叡山電車営業課075(702) 8111
▽三角点トレック「三十三間山コース」11月3日(雨)雨天中止(雨天中止の場合は11月10日(日)に延期)〔集合〕出町柳駅8時〜8時30分(コース)出町柳駅(バス)倉見→夫船松→風神→大草原→三十三間山→大草原→風神→夫船松→倉見(バス)出町柳駅(約8時)健脚回 参加定員200名(申込制1ヶ月前から)無料(バス代別途)〔申込先〕京都バス運輸部営業課075(871) 752112
▽木曜ハイクマップ片手にフリーハイキング「有馬六甲周遊コース」11月1日(雨)雨天中止〔集合〕有馬温泉駅9時〜10時(コース)有馬温泉駅→紅葉谷道→楊葉茶屋跡→六甲最高峰→魚巻道→有馬温泉駅(約11時)一般回 参加自由・無料、

も果たしたのである。
それは「安寿と厨子王」の伝説地を歩くことであり、2日間共に下山後の時間を利用して、安寿塚・山椒太夫屋敷跡・安寿と厨子王像・如意寺・汐汲浜・森鷗外文学碑・山椒太夫首挽松などを訪ねたのは大きな収穫だった。
(枚方市 東谷 宏)

「風光美に佳にして峽迫りては深淵碧水を湛え岩抗しては奔流天馬の如し。文人墨客一度は此峽に遊ぶべし。神韻必ずや俗塵を掃うであろう。」(「新編伊賀地誌」昭14刊)

上野城から西北約3kmの岩倉峽は、奇岩怪石が続く名勝の地、昨今は、渓谷美以外にも賑わいを見せている。地形図を方5km、島ヶ原が示すように、ふれ愛公園という名のもと、長さ118mの吊橋が象徴するトリム広場や、清潔な大キャンプ場など、屋外活動の場としての顔が幅をきかせてきた……。

閑話休題。右記の地図は、渓谷の右岸道下の先が小道消滅と表現されているが、実際は、川沿い道は続いていて、絶好の

紅葉スポット(見頃11月中旬)かとお薦め。

岩倉峽へのアプローチ。一般に、近鉄伊賀線(10月1日以降は伊賀鉄道)の上野市駅からの路線バスが便利。別案、JR伊賀上野駅から、岩倉バス停までの里道3kmを歩くのはいかが? バス停からは西へ。途中、遊歩道を選び、吊橋下までさらに1.5km。

渓谷の説明板が立つ。概要はぜひ頭の中へ。吊橋を渡ってトリム広場一周の道はオプショントし、右岸を川沿いに南進。この数百mが紅葉のハイライト。流れの瀬・淵・巨岩には名称が付けられていておもしろい。

発電所跡を過ぎると急に人影は消えるが、やぶつちやの湯までひたすら歩く。温泉からは鯛ヶ峯大橋を渡り、国道163号をくだる。島ヶ原大橋で再び右岸へ。渡ればJR島ヶ原駅は指呼の間。(伊賀市 高田栄久)

05年7月、梅池の展望台から大雪渓を見て登りたいと思った。06年7月に白馬尻まで行ってみたが、ずいぶん手前から雪が残っ

ていて苦勞して小屋に着いた。大雪渓入口まで行ってみると大雪渓はけっこうな傾斜で、登れるかなと思った。花はシラネアオイとオオサクラソウが咲いていた。来年は絶対登ると決めて帰った。

兩年共、山登りをしない人達と来ていたから、07年7月7日、山仲間と訪れた。ガスつたり晴れたりしていたが、山と大雪渓の全容が見えてよかった。菰平からはお花畑で、先週八ヶ岳でも見たウルフソウだが、こちらのほうが大きくて多かった。ハクサンイチゲも大群生していた。

8日朝は丸山から御来光を拝んだ。オヤマノエンドウ・ウルフソウ、さらに山頂付近にはツクモグサも多く見られた。今年は見花が遅れているようで、ツクモグサが見られたのだろう。山頂から360度の展望を楽しみ、またまた行きたい山が増えてしまった。

(海津市 山田妙子)

山行短歌(夏の花畑)
6月1日 室生香酔山
君影草そのスズランの花咲けば

樹から樹へ渡る頭上の栗鼠に見惚れ路に戻れば海老フライあり(誰が言ったかリスが食べた後の松の実の海老フライに瓜二つ) 待った甲斐ありて暗夜の灯の如く日陰陽國が路照らした山だっ

あ、そうだこの花見に見せよう
4月30日 浜島大山浅間
帰ったら次機頭作ると言い
手の届かぬ葉を我に摘ます君
新しいカメラを君が買ったから
下りの方が時間を食ったよ
5月3日(憲法記念日) 伊吹北
薄紅の雪洞点して片栗も六十度
目の記念日祝う

懐しき友と出会いたる驚き
山吹草の鮮烈なる黄
青嵐 静馬ヶ原の座禅草
蒼き天蓋翳して鎮座す
6月3日 天狗倉山
名にし食う古道 蒼生す石畳
さ乱れ髪にて我も旧り行く
岩屋までよう来た天狗の計ら
いか尾鷲の海見ゆ一葉草と
(松阪市 藪木伸人)

山行短歌(夏の花畑)
6月1日 室生香酔山
君影草そのスズランの花咲けば

山行短歌(夏の花畑)
6月1日 室生香酔山
君影草そのスズランの花咲けば

君の面影浮かびくるものを

6月5日 室生三郎岳

女人高野の南門そばの坂道に

愁いを秘めて著我の花咲くや

6月10日 六甲摩耶山

遅梅雨に摩耶の水辺の河骨は

水を恋いおり黄花香いいでむ

6月13日 奥美濃金草岳

コバイケイソウの穂波よ揺れる

菅原の青水泳へ飛び込むぞ

6月19日 紀原一徳坊山

雨に歩けば慰めてくれるよう

夢いり得がたき世百合の群れ

7月1日 丹後権現山

アルプスに咲くという十葉の花

道いちめん雨にぬれ匂う

7月5日 奥美濃冠山

幸薄きニッコウキスゲ君の瞳は

いちにち限りの命愛しむ

7月8日 丹後空山

忘れ草咲けど忘れ得ぬ君は今

山を遠ざかり何処で何してる

7月18日 若狭八ヶ峰

旅行村のアジサイに話を聞けば

若狭の海が見たいのと言う

7月31日 越前鬼ヶ岳

鬼女の面差し喰えるならば

オニアザミかも縁に傷つきぬ

(吹田市 木村太郎)

6月22、3日、今年の干支の

猪臥山、1等の大雨見山、岐阜

百山の国見山へ行った。竹の子

も多く採れたし、フキ、ワラビ、

タラコシアブラ、ヤマウドな

ども採れた。

6月10日、恵那山に行った。

山頂ではバイカオウレンが見

事に咲いていた。広河原ルート

からは短時間で登れるので、

「日本百名山」巡りの遠方から

の客が60人は来ていた。

6月17日、美濃俣丸へ行った。

鈴谷の林道をつめて終点から尾

根を登って3時間半、帰り2時

間。やぶは初級だがルート選び

は上級だった。山頂で谷ルート

から来た3人と出会い、先にと

た沢の他の4人にも帰りに追い

ついた。

6月24日、初登山に行った。

小雨でも6人が入山。初夏の花

が多く咲いていた。ゴゼンタチ

バナ・ツマトリソウ・コバイケ

イソウ・サイハイランなど。

7月1日、前夜泊で八ヶ岳の

硫黄岳、横岳、赤岳と縦走して

きた。ガスって見晴しは無かつ

た。花は多く、初見が9種もあつ

た。ウルフソウ・コメバツガ

ザクラ・チョウノスケソウ・イ

ワヒゲ・ツシマアマナ・クモ

ナズナ・ツクモグサ・不明2種

7月7、8日、白馬から小連

葉、梅池と歩いた。花は多いが

人はまだ少なかつた。夏の花も

まだで、初夏の花が多かつた。

80種程を確認した。

7月16日、珍名の「ゴンニヤ

ク」に行った。11月に行う例会

の下見。やぶは薄かりかつた。

7月22日、霧ヶ峰に行ったが、

車山・霧ヶ峰共に三角点は見つ

けられなかつた。花は多くて70

種程も確認。ゼンテイカは群生

で咲いていたが来週くらいが見

頃か?

7月28、29日、例会で白山の

隣の中宮山と加賀禪定道に行っ

た。夏の花は多かつたが見晴し

は無く、百四丈の滝はガスの切

れ目から見られた。

(海津市 山田明男)

岐阜県下呂温泉は日本三名泉

の一つといわれているが、他の

二つは知らない。その下呂温泉

の東に位置し、大ガレを抱いた

湯ヶ峰には、その名の通りかつ

て源泉があつた。今は涸れ、飛

騨川の河原から湧き出ている。

湯ヶ峰も他と同様に林道が縦

横に走り、駅前案内所でもら

た登山マップは、最奥の登山

口から周遊して歩行時間は計40

分とある。青春18きっぷ利用で

来た我々に車は無くそうはいか

ない。

大石の集落から科亭「志むら

を右にとり、副産物所でタクシ

ーを捨てた。橋を渡り、南に湯ヶ

峰の登山口を見て取り付く。踏

み跡があるようで無いような、

ヤマジノホトトギスが咲く斜面

を登り切ると、3等1066・

8級の湯ヶ峰山頂。樹林と霞で

展望は薄かつた。

山頂から南にくぐり、鞍部で

前述した源泉の湯壺跡を見る。

1000mそのまま西へ行くは

ずが、その南から西にやぶ漕ぎ

して難波して林道に出た。

下呂温泉では足湯に没かり、

簡単な山をわざわざ難しく歩い

たことを反省し、JRに飛び乗っ

た。(向日市 湯浅康夫)

平成の大合併で兵庫県の慣れ

親しんだ91市町が41市町になり、

山行計画
(11・12月)

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも必ず参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点等の関係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社新井損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額 10000万円
入院保険金 日額 50000円
通院保険金 日額 25000円
保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からです。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。返信が無い場合は、定員枠に入っていると判断していただきます。
- ④ グレードは、次のように決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース (3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山 (5時間コース)
 - (中級向き) かなり危険を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース (6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース (6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ滑きの連続など、ハードなコース (7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようお願いいたします。

11月		行先		定員	リーダー	サブ
29(休)	伯耆・三徳山	24	木村			
28(休)	湖東・笠峰山・伊崎山	40	金谷	*	高島	
23(祝)	湖北・上谷山西尾根1041					
20(火)	京都北山・牛松山					
18(日)	鈴鹿・雨乞岳	*	岩野			
18(日)	比良・岩阿沙利山・見張山		秦			
15(木)	比良・蛇谷ヶ峰	22	寺井			
15(木)	大峰・天狗倉山から高城山	25	西上			
13(火)	大峰・熊山・勝負塚山	*10	田中賢			
11(日)	播州西部・ヒルガタワ	18	古賀			
11(日)	大和山地・音羽三山	30	塚元			
11(日)	比良・地藏山・釣瓶岳	23	森脇			
10(土)	湖北・曙ヶ岳・赤良山・サイクリング・黒鷲野	10	山口			
10(土)	美濃・楢ヶ先	20	鷺見			
7(木)	南紀・半作嶽	24	木村			
6(水)	山梨・毛無山・長者ヶ岳	20	田中明			
4(日)	鈴鹿・能登ヶ峰	*	岩野			
3(土)	越前・飯降山・銀杏峰	19	森脇			
3(土)	美濃・ゴンニヤク・滝波山	10	山田			

*マイカー山行

12月		行先		定員	リーダー	サブ
1(土)	美濃・飯盛山・西津及	20	鷺見			
1(土)	備前・天狗山・熊山	20	須藤岡			
2(日)	鈴鹿・綿向山・奥草山・政子	*	岩野			
2(日)	鈴鹿・寒山	25	山田			
2(日)	京都北山・白尾山	40	村田			
3(月)	山梨・節ヶ岳・三方分山	20	田中明			
8(土)	室生・伊賀山・ダム湖サイクリング・新藤原					
9(日)	湖北・マキノ田尾城址(湯の山)	40	山口			
9(日)	淡路・汐崎山					
10(月)	高見山地・高見山北尾根	*10	田中賢			
13(木)	室生・古光山・曾爾高原	25	西上			
15(土)	美濃・金華山					
15(土)	参詣道伊勢路・矢ノ川・万歳峠越	22	村田			
16(日)	鈴鹿・西山・丸茅山	*	岩野			
18(火)	湖東・三上山・田中山					
19(水)	京都北山・東松尾山・鳥ヶ岳					
20(木)	北摂・五月山					
22(土)	湖北・二の谷山	*20	高島			
30(日)	北河内・津田取・枚岡公園		村田			

展望の山38
美濃・ゴンニヤクと滝波山
(健脚向き)

期日 11月3日(出)4日(回)
1泊2日
集合 (3日) JR西岐阜駅6時50分

コース (3日) 西岐阜駅(車) 関市板取(車) 林道車止
Iゴンニヤク(往路)
I車止(車) 民宿(泊)
(4日) 民宿(車) 島口
I主線線滝波山(往路)
I島口(車) 西岐阜駅(解放)

費用 約15000円(宿泊・車・入浴代等)
地図 2万5千 門原
係 ◎山田明男
申込み 〒50310535
海津市南濃町松山624の19山田明男まで

時間があれば大ゴンニヤクにも滝波山は7時出発で12時で引き返します。2山共にやぶ山で残雪期が楽ですがおもしろくありません(ゴンニヤクは本誌95号35ページ参照)。紅葉には良い時期です。雨天決行(コース変更あり)

越前・飯降山と銀杏峰
(一般向き)

期日 11月3日(出)4日(回)
1泊2日
集合 (3日) JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分

コース (3日) 京都駅(バス) 飯降登山口(飯降山) 飯降集落(バス) 宝慶寺(こいの森(自炊・泊))
(4日) 宝慶寺(こいの森(バス) 小笠原登山口(バス) 京都駅(解放17時頃) 宿泊代等)

費用 約15000円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千 越前大野・宝慶寺
係 ◎森脇貞義 ◎磯野重治
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10新ハイキング関西まで

大野市の2山に登ります。銀杏峰はすばらしい展望が待っています。新しく拓かれた名松新道にくだります。*宝慶寺(こいの森)は自炊・食分を持参。風呂・ガス・

倉庫等あり、当日コンビニに寄ります。雨天決行

鈴鹿を歩く273
能登ヶ峰(一般向き)

期日 11月4日(回) 日帰り
集合 鮎河坊前橋広場8時30分
コース 広場(林道) 登山口(能登ヶ峰) 鹿の薬園(P6 96) P758 ウグイ川(林道) 鮎河(解放)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
係 ◎岩野 明 ◎山田景三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10新ハイキング関西まで

秋たけなわ、能登ヶ峰の草原と紅葉を楽しみます。雨天中止
*マイカー山行
富士見山行①
山梨・毛無山と長者ヶ岳
(中級向き)

コース (6日) 京都駅(バス) 朝霧高原グリーンパーク(泊)

(7日) 宿(バス) 根原(一峰足跡) 毛無山(朝霧高原(バス) 休暇村富士(泊))
(8日) 宿(バス) 田貫湖(湖) 登山口(長者ヶ岳) 天子ヶ岳(白山権現(バス) 白糸の滝(バス) 富士天母の湯(浴食・バス) 京都駅(解放21時30分頃)

費用 約35000円(バス・宿泊・入浴代等)
地図 2万5千 精進・人穴・上井出
係 ◎田中 明
申込み 〒61710838
長岡京市緑が丘16の9田中 明まで

一回目は、富士の西側17の至近距離から、爽快な大沢崩れが

真止面の山歩きです。雨天決行

ファミリーハイク1-2
南紀・半作嶺(初級向き)

期日 11月7日(回) 日帰り
集合 JR新大阪駅(階上) 階上
8時00分

コース 新大阪駅(バス) 林道登山口(半作嶺) 半作嶺(林道) 登山口(バス) 富里温泉(女の湯(バス) 新大阪駅(解放)

費用 約45000円(バス代)
地図 2万5千 合川
係 ◎木村太郎
申込み 〒566510854
吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで

その昔に半作(ミズメ坂)が嶽に茂っていた。急峻な岩峰部の姿と形から「乙女の寝顔」と呼ぶ。関西百名山を歩く。雨天中止

自然観察山行239
美濃・槍ヶ先(一般向き)

期日 11月10日(出) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 揖斐川町中津(関窓等) 分岐点

槍ヶ先(分岐点) 寺本(バス) 大垣駅(解放) 分岐点(バス代等)
費用 約40000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千 美東
係 ◎鷺見守康
申込み 〒50410828
各務原市藤原村雨町1の19の25 鷺見守康まで

*定員20名(申込み状況により減員あり)
急なやせ尾根を登る里山です。雨天決行(雨天時は観察会)

サイクリング&登山③
湖北・膳ヶ岳と余呉湖・奥琵琶湖群
(一般向き)

期日 11月10日(出) 日帰り
集合 JR余呉駅9時00分

コース 余呉駅(サイクリング) 余呉湖(半周) 膳ヶ岳登山口(軽輪) 膳ヶ岳(軽輪) 膳ヶ岳登山口(サイクリング) 余呉湖(半周) 大音(膳ヶ岳) トンネル(飯浦津) 膳ヶ岳(奥琵琶湖) 湖水の駅(近江塩津駅(解放))

費用 交通費各自(自転車レンタル代800円・自転車)

は保険対象外)
地図 2万5千 木之本・中河内
係 ◎山口敏明
申込み 〒51810755
名張市緑が丘144山口敏明まで

*定員10名
余呉湖で自転車をレンタルし、余呉湖一周と静かな奥琵琶湖群をサイクリングします。途中、膳ヶ岳に登山します。雨天中止

近江の山シリーズ⑤
比良・地蔵山と釣瓶岳
(一般向き)

期日 11月11日(回) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分

コース 京都駅(バス) 高島市畑一地蔵山(釣瓶岳) ナガオ(大樽鉢) ガリバー旅行村(バス) 京都駅(解放18時頃)

費用 約30000円(京都駅からバス代)
地図 昭文社「比良山系」
係 ◎森脇貞義 ◎磯野重治
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*定員23名
地蔵山三角に登り、釣瓶岳からナガオをくだります。雨天中止

地図 関ヶ原山行84
大和山地・音羽三山(一般向き)

期日 11月11日(回) 日帰り
集合 近鉄桜井駅(バス) のりば9時00分(9:06発に乗車)

コース 桜井駅(バス) 下居(善法寺) 音羽山(経ヶ塚山) 熊ヶ岳(大峠) 不動滝(多武峰(バス) 桜井駅(解放))

費用 約21000円(大阪から) 地図 2万5千 畷傍山・古市
係 ◎塚元一彦 ◎中村 登
申込み 〒53610008
大阪市城東区園目4の14の9の901 塚元一彦まで

*定員30名
新ハイキング関西支部と合同やさしいコースをゆっくり歩きながら地形図とコンパス(磁石)の勉強をします。シルバー型コンパスを持参ください。初心者歓迎。雨天中止

播州西部・ヒルガタワ

費用 交通費各自
期日 11月11日(日) 日帰り
集合 JR加古川駅8時00分
コース 加古川駅(バス) 植松山
登山口 小河内の流しヒルガタワ 植松山登山口
(バス) 加古川駅(解散18時頃)
費用 約4500円(加古川駅からバス代)

秋の一日、ヒルガタワあたりでのんびりしませんか。雨天中止

大峰・熊山から勝負塚山

期日 11月13日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原駅前8時55分
コース 杉の湯道の駅9時35分
各集合地(車) 下多古林 道広場 熊山 天狗岩 今宿跡分岐 勝負塚山 伊氏谷出合(解散)

費用 交通費各自

地図 2万5千 洞川
期日 11月15日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
コース 橿原神宮前駅(バス) 五色谷林道 登山口 槍草峠 天狗倉山 高城山 西ノ谷峠 西ノ谷林道(バス) 橿原神宮前駅(解散17時頃)

大峰・天狗倉山から高城山

費用 約2900円(バス代)
地図 昭文社「大峰山脈」

費用 交通費各自

地図 2万5千 中河内
期日 11月23日(日) 日帰り
集合 中河内集落中央広場9時00分
コース 針川登山口ピーク(往復コース)

湖北の山

費用 約2900円(バス代)
地図 昭文社「大峰山脈」

費用 交通費各自

地図 2万5千 西河内・千種
期日 11月28日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス(一般向き)

比良・蛇谷ヶ峰(一般向き)

費用 約1860円(京都から)
地図 昭文社「比良山系」

雨を浴び奥の畑峠 奥の細谷 藤切谷林道 広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「現在所・雲仙・伊吹」

費用 交通費各自

期日 11月20日(日) 日帰り
集合 JR亀岡駅8時30分
コース 亀岡駅 登山口 牛松山 P578 P643
一の橋 北谷峠 出雲大神宮(バス) 亀岡駅(解散15時20分頃)

費用 交通費各自

期日 11月28日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バス(一般向き)

新ハイキング関西まで 牛松山から奥の旧道を廻り、北谷峠を越えて一周します。P578からの愛宕山・地蔵山の展望はすばらしい。雨天中止

費用 交通費各自

期日 11月29日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅1階正面口7時00分
コース 新大阪駅(バス) 三徳山

費用 交通費各自

期日 12月1日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース JR大垣駅9時00分 大垣駅(バス) 大垣駅(解散19時頃)

スのりば8時50分
期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅9時00分(9・03発車)

費用 交通費各自

期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅9時00分(9・03発車)

費用 交通費各自

期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅9時00分(9・03発車)

期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅9時00分(9・03発車)

費用 交通費各自

期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅9時00分(9・03発車)

費用 交通費各自

期日 11月18日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅9時00分(9・03発車)

係 ◎発見守庫
〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 発見守庫まで
*定員20名(申込状況に
より減員あり)

何度か中止した飯盛山から西津
汲を改めて計画しました。
雨天決行(雨天時は観察会)

恒例の忘年会山行
備前・天狗山と熊山(一般向き)
期日 12月1日(土)・2日(日)
1泊2日

集合 (1日) JR播州赤穂駅
9時30分(9時45分三原
行きに乗継ぎ寒河野下車)
コース (1日) 寒河野→八幡神
社登山口→六合目→天狗
山→三峰越→奥池→寒河
野(電車) 日生駅→日生
漁港(船) 頭島→民宿
「鯛丸」泊

費用 約12000円(宿泊・
船代等)

地図 2万5千 備前二石・日
生・和気・万富・片上・
備前瀬戸

係 ◎須磨岡 輯
〒671-1262
姫路市余部区上余部50の
2の11 須磨岡 輯まで
*定員20名

瀬戸内の低山に登り、思い出の
宿で魚を食べます。雨天決行

鈴鹿を歩く275
綿向山・奥草山・政子
(やや健脚向き)

期日 12月2日(日) 日帰り
集合 大河原「かもしか荘」広
場8時30分
コース かもしか荘(車) 西明寺
→林道→奥の平→綿向山
→ブナの水平→奥草山→
政子→栗子峠(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雷池・
伊吹」
係 ◎岩野 明 ○山田景三
○後藤肇幸

申込み 〒610-1021
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

綿向山から南の野洲川ダムへと
続く秘境の長大な尾根を歩く。
雨天中止

展望の山39(忘年会山行)
鈴鹿・寒山(一般向き)
期日 12月2日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅8時35分/
三岐鉄道西野尻駅9時00
分

コース 集合駅(車) 忘年会場→
寒山(往復コース)
費用 関ヶ原駅1500円・西
野尻駅1000円(重代・
会費等)

地図 2万5千 藤立
係 ◎山田明男

申込み 〒503-0535
海津市南濃町松山62の19
山田明男まで
*定員25名程度

今年も会場は昨年と同じです。
*マイカー運転の方は禁酒。飲酒
された場合は会場で泊まること
(寝袋持参)。雨天中止

京都北山歩き126
白尾山(一般向き)
期日 12月2日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ

スのりば7時40分
京都駅(バス) 大内→青
谷林道終点→白尾山→津
ノ本谷峠→津ノ本谷一か
やぶきの里(バス) 河鹿
荘(入浴) 京都駅(解散
18時30分頃)

費用 約3000円(京都駅か
らバス代)

地図 昭文社「京都北山」
2万5千 鳥

係 ◎村田智俊 ○安倉止勝
○呉比裕美

申込み 〒610-1021
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員40名

展望の良い白尾山に登り、津ノ
本谷峠からかやぶきの里へくだる
(木道57ペーシ参照)。雨天中止

富士見山行②
山梨・節刀ヶ岳と三方分山
(中級向き)
期日 12月3日(月)・5日(水)
2泊3日
集合 (3日) JR京都駅八条
口団体バスのりば7時00
分
コース (3日) 京都駅(バス)

足利田ホテル(泊)
<4日> 宿(バス) 文化
洞トンネルバス停→毛無
山→節刀ヶ岳→鍵掛峠→
根場民宿バス停(バス)
山田屋ホテル(泊)
<5日> 宿(バス) 精進
バス停→女坂峠→三方分
山→精進峠→山田屋ホテ
ル(浴食・バス) 京都駅
(解散21時30分頃)

費用 約38000円(バス・
宿泊代等)
地図 2万5千 河口湖西部・
市川大門

係 ◎田中 明
申込み 〒617-10868
長岡京市緑が丘16の9
田中 明まで
(HPからメールでも可)
http://hana.04.hp.
infoseek.co.jp
*定員20名(11月12日ま
で、少人数はJRで)

一回目は、富士の北側約19kmの
至近距離から西湖、精進湖を眼下
に、また子抱き富士の姿も羨しみ
です。雨天決行

サイクリング&登山④

室生・俱利伽羅山とダム湖畔・香
滝
期日 12月8日(日) 一般向き
集合 近鉄名張駅東口9時00分
コース 名張駅(サイクリング・
中央公園)→比奈知ダム
→上太郎(池ノ平温泉)
→山峠(駐車場)→二本ボ
ン→俱利伽羅山→二本ボ
ン→俱利伽羅山(サイクリ
ング)→香滝→青蓮寺ダ
ム(中央公園) 名張駅
(解散)

費用 交通費各自(自転車は保
険対象外)
地図 昭文社「赤目・俱利伽
羅山(旧版)」
係 ◎山口敬明
申込み 〒518-0755
名張市緑が丘中144
山口敬明まで

二つのダム湖畔と紅葉の香滝溪
をサイクリング。俱利伽羅山登山と
スキの曽根高原で晩秋の風を楽
しみます。雨天中止

近江の山シリーズ⑥(忘年会山行)
湖北・マキノ田尾城址(湯涌の山
(一般向き))

の33・17A403
古賀屋一まで
淡路の山は三回目、ちょっと味
のある手頃な山です。明石で忘年
会を予定(参加費5000円程度・
女性は割引)。雨天決行

期日 12月9日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば8時20分
コース 京都駅(バス) マキノ森
西→田尾城址→マキノ森
西(バス) 京都駅(解散
15時30分頃)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千 海津
係 ◎森脇真義 ○磯部重治
申込み 〒610-1021
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員40名

田尾城址から展望よく琵琶湖・
竹生島が見える。ボタン編で1年
の反省会をします。雨天中止

淡路・汐鳴山(一般向き)
期日 12月9日(日) 日帰り
集合 JR明石駅8時25分
コース 明石駅→明石港(船) 岩
屋→石の宮屋古墳→汐鳴
山→岩屋(船) 明石港
(解散16時頃)

費用 約1600円(船代等)
地図 2万5千 須磨(船代)
係 ◎古賀屋一 ○岡田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山下584

奥山の高角神社前広場で開帳
*マイカー山行(4名ま
で実合い可能。希望者は
その旨明記ください)

年会。翌日、橋俣から高見山北尾根を縦走します。小雨決行

期日 12月13日(休) 日帰り
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口

コース 橿原神宮前駅(バス)ふきあけ斎場→南峰→上光山→後古光山→長尾峠→串山峠→おかも池(バス)→橿原神宮前駅(解散16時頃)

費用 約2800円(バス代)
地図 昭文社『「春日・俱利伽羅高原」(旧版)』

野 西上利和 ○木村 豊
申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

大峠から5峰を縦走し、長尾峠から串山峠へ足をのぼして、串山峠原・おかも池へくだります。雨天中止

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 12月19日(休) 日帰り
集合 JR保津駅9時30分

コース 保津駅→旧保津駅→東松尾山→鳥ヶ岳→嵐山公園(解散)

費用 約4500円(京都駅から)
地図 昭文社『「京都北山」』

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 12月20日(休) 日帰り
集合 阪急池田駅10時20分

コース 池田駅→五月山公園→秀望台→五月山→五月山平→千代山→六ヶ山→松広場→其面スパーガーデン→箕面駅(解散)

費用 約5000円(梅田駅から)
地図 2万5千円広根・伊丹

申込み 〒56510854 吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

期日 12月22日(出) 23日(朝)
集合 高島市朽木支所庁舎前13時00分

コース 庁舎前(重)→笹ヶ谷→一の谷山→一の谷川ルート
下山(車)→つき温泉
費用 約10000円(宿泊代・)

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行241(忘年山行)
美濃・金華山(一般向き)

期日 12月15日(出) 日帰り
集合 JR岐阜駅9時40分

コース 岐阜駅(バス)岩戸公園→金華山→岐阜城→岐阜公園(バス)岐阜駅(解散)・希望者で忘年会開催(約4000円)

費用 約10000円(バス代)
地図 2万5千円岐阜北部

申込み 〒50410828 各務原市蘇原村南町1の19の5 警見守康まで

期日 12月15日(出) 16日(泊)2日
集合 (15日)近鉄上本町駅8時00分

コース (15日)上本町駅(バス)矢ノ川→夕陽の丘公園→楊枝川(バス)楊枝渡し場(バス)高田グリー

期日 12月20日(休) 日帰り
集合 阪急池田駅10時20分

コース 池田駅→五月山公園→秀望台→五月山→五月山平→千代山→六ヶ山→松広場→其面スパーガーデン→箕面駅(解散)

費用 約5000円(梅田駅から)
地図 2万5千円広根・伊丹

申込み 〒56510854 吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

期日 12月22日(出) 23日(朝)
集合 高島市朽木支所庁舎前13時00分

コース 庁舎前(重)→笹ヶ谷→一の谷山→一の谷川ルート
下山(車)→つき温泉
費用 約10000円(宿泊代・)

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 12月20日(休) 日帰り
集合 JR津田駅8時10分

コース 津田駅→源氏の滝→交野山→くろんと池園地→展望台→八丁岩→田原台→常尾池ふれあいの森→室池→生駒山上公園→暗峠→府民の森→くらの広場→神津嶽→牧岡公園→近鉄牧岡駅(解散17時頃)

費用 5万1大阪東北部・大阪東南部
地図 5万1大阪東北部・大阪東南部
係 村田智俊

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

ンランド雲取温泉(泊)
(16日)宿(バス)志古谷林道取付点→万歳峠→小雲取越→誦川(バス)舞波駅(解散17時頃)

費用 約19000円(バス・宿泊代等)
地図 当日配布

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 12月16日(出) 日帰り
集合 国道477号線越王ダム広場8時00分

コース 広場(車)平子峠→西山→丸茅山→平子峠(車)水無山専用ロッジ(昼食忘年会・解散)

期日 12月16日(出) 日帰り
集合 国道477号線越王ダム広場8時00分

コース 広場(車)平子峠→西山→丸茅山→平子峠(車)水無山専用ロッジ(昼食忘年会・解散)

期日 12月16日(出) 日帰り
集合 国道477号線越王ダム広場8時00分

コース 広場(車)平子峠→西山→丸茅山→平子峠(車)水無山専用ロッジ(昼食忘年会・解散)

期日 12月18日(休) 日帰り
集合 JR野洲駅南口9時10分

コース 野洲駅(バス)山出前→裏登山口→打越→女山→三上山→妙光寺山分岐→田中山→相模野山→野洲中学校前→野洲駅(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千円野洲

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 12月18日(休) 日帰り
集合 JR野洲駅南口9時10分

コース 野洲駅(バス)山出前→裏登山口→打越→女山→三上山→妙光寺山分岐→田中山→相模野山→野洲中学校前→野洲駅(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千円野洲

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

費用 交通費各自
地図 昭文社『「御在所・雲仙・伊吹」』

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

期日 12月18日(休) 日帰り
集合 JR野洲駅南口9時10分

コース 野洲駅(バス)山出前→裏登山口→打越→女山→三上山→妙光寺山分岐→田中山→相模野山→野洲中学校前→野洲駅(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千円野洲

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 12月18日(休) 日帰り
集合 JR野洲駅南口9時10分

コース 野洲駅(バス)山出前→裏登山口→打越→女山→三上山→妙光寺山分岐→田中山→相模野山→野洲中学校前→野洲駅(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千円野洲

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 12月18日(休) 日帰り
集合 JR野洲駅南口9時10分

コース 野洲駅(バス)山出前→裏登山口→打越→女山→三上山→妙光寺山分岐→田中山→相模野山→野洲中学校前→野洲駅(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千円野洲

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

期日 12月18日(休) 日帰り
集合 JR野洲駅南口9時10分

コース 野洲駅(バス)山出前→裏登山口→打越→女山→三上山→妙光寺山分岐→田中山→相模野山→野洲中学校前→野洲駅(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千円野洲

申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

シルバー登山家 体験記



常時展示(弱) 個人書店
〒101-0061 東京都中央区銀座5-1
銀座ファイブ2階 月有美町駅・徒歩3分
営業 10時～20時 年中無休
電話 03-5537-1271 FAX 03-5537-1272
個人書店でも販売しております。

2,100円(税込み)
送料売上負担・商品到着後届込制
体裁 A4版・350頁・漢文字
お申し込みは、左記著者宛
FAX、郵送にて承ります。

ご購入ご案内 詳細なフレット送付制
著者 西山雅岳
〒336-0936 さいたま市緑区太田窪1丁目20番9号
FAX 048-885-2162

文章ではない壮絶な生き方が描く入魂の一冊!

記事内容 一部抜粋

登山の出来た 健康法6策

1. 「重い靴」毎日1時間歩行ブルブル汗かき
2. 「尿療法」断絶開始 積年の身体内・毒害排出
3. ガン検出・手術成功・仕事スッパリ辞め
4. 診察券20枚・全種医受診制
5. 私独自の健康諸案 毎日・毎月の動行
6. 登山開始 奮闘費減。体重79より15減・64キロ

新設「シルバー登山会」提案

米前故リカン大統領 宜高坂用 バイ・ノー・オブ・ザ・ピープル 設立理念 シルバーに依る シルバーの為 シルバーの登山会 提唱

1. 70歳以上のみ
2. 老年者登山愛好家に徹底指向制
3. 寄付連言贈与受け入れ制
4. 会のお金は全額・楽しみ為に使切の方針制
5. 田舎世代・定年退職者・軽登山希望者の天国を現世に造る 他多策

登山の会 私の4分類・参加20会名

1. ボランティア ぶらり会・東京野歩踏会・東京ハイキング協会・おいらく山岳会・わかば歩こう会
2. 中間の会 四季山遊会 新ハイキングクラブ・駒草クラブ・岳ガイド長沢
3. 営利の個人法人 ぼうけん倶楽部・ウインドウズT・アルプスEP・アムステルダム・グリーン・北アルプス社・無名山塾・クラブツーリズム・阪急交通社・毎日新聞旅行・ヒマラヤ観光・山旅ぐるらぶ・沖繩其他多
4. 70歳以上者参加入会可能の会・申込不要で参加可能の会・平日ガラ空き利用の会・初心者気弱者誘惑者久病不安者向の会

登山用具 問題点・研究

1. 鉄・ハテ・ブヨ・蚊等、共通攻撃色と、補子シャツ袋ザック等の色
2. 生水嫌いの失神・転倒・ヘリ救助と医師説明「脱水症」理由
3. 傘・紐付け 効用と方法、中製折り畳み傘百円ショップ購入可能・某社は80円
4. 都道府県別大型類似地図が百円ショップで購入可能
5. 「地震備え用品」にソックリ入り替え可能・登山用品 中古も保存要
6. ザックより突き出た「杖」、同乗者の冷たい視線と平気な登山者・会
7. ザック数個より垂れ下がり「紐」特急網棚でスグれ揺れ・メーカーの恥
8. お金自宅鍵入小袋・小尻トイレス悲劇・チャック付きポケット義務
9. 飲み水入れ折り畳み袋・乾燥出来ず不潔危険 メーカーの放置姿勢問題
10. アイゼン事故死多発・百キロ支えが、中世ワラジ発想と永年同じ・研究不熱心

登山事故実例 自分・他見聞等

自分単独時 階段石垣上より数メートル滑落アワヤ・降り脱保備1ヶ月登山不可能・木道より下管内に2度転落・岩壁より転落

目撃 岩壁数メートル上より墜落杉林斜面を滑落・先導者の覆った頭大石が斜面上の宙を飛び後続者の中へ・他数十例

奮闘登山 250回 の一部

北海道/利尻山・羅臼岳・大雪連山・樺尻岳・ベテガリ岳・他
東北/下北・津軽・八甲田連山・月山・鳥海山・蔵王・佐渡・他
北ア/上高地明神岳・奥北西前橋高岳・槍ヶ岳・白馬・鈴ヶ岳・他
中阿ノ/御嶽山・甲斐駒ヶ岳・諸岳・北岳・聖岳・光岳・仙丈・他
上北越/東部下ノ/藤下・毛勝山・立山・朝日岳・朝日岳・白山・他
九州/雲仙普賢岳・英彦山・相母山・間間岳・高千穂・霧島・他
沖縄本島/与那覇群岳・辺戸御嶽・伊良部島牧山・宮古島
野原岳・他

登山業界全体への 問題提起

1. 大腸菌の検出立山室堂湧水・頂上山小屋トイレ垂れ流しが原因
2. 今後積年累積汚染の次世代バトンは悲劇・全国名水検査公表必要
3. 現在奥尻登山道の廃止と自然返却・「平成新登山道」新設の提案
4. 奥尻進行放棄の尾根道場所・南側下敷みに移設花畑期待の提案
5. 「ゴミ」富士山は山小屋の責任重大・他全国登山者待参制提案
6. 「キャンセル料」客より取り自分は不払・違法性懸念・撤回提案
7. 「ストレッチ体操」無し・急坂登山は無謀・他スポーツ同・提案
8. 漢字は我国2千年文明骨幹・山名同・花の名前カタカナ禁止提案
9. 登山事故・隠蔽体質は業界危険信号・反面教師化・詳細公開制提案
10. 「ファスト10」用具・山小屋・登山の会他 毎年アンケート公開制提案
11. 「留守宅登山控え」残し指示業者・不送付の無神経さ 取消提案
12. 其の他 専門用語使用で平気留守の素人理解不可能・拡大鏡が必要な小さい文字で平気・曜日記載の傲慢姿勢・同行者の命運を握る引率責任者の小型ザック・夜間休日営業時間外連絡必要時の携帯電話告知を避ける姿勢・下山前頂上飲酒の危険・山雲送り企画の恥・商品ラベルには、欠点・短所・過去事故例を書くべき
13. 山頂小屋垂れ流しトイレ撤去・ユニット便器ヘリ処理場並び制提案

書評と出版の勧め

原稿段階で某出版社役員様方に、出版相談の結果 業界の痛い点他告知すべき箇所多し。自費出版式で是非世の中に公表する事をご検討下さい。

山行報告 (7・8月号) 新ハイキングクラブ関西

滝又の滝から東俣山
(京都北山歩き122)

7月1日(晴) 晴れ
(集合) JR京都駅8:00~10
(バス) 愛宕道9:30~40滝又
の滝10:10~20林道終点10:35
~45-T字分岐11:00~余野11:
10-射撃場下11:30-東俣山12:
00(昼食) 12:40-西尾根下り
尾根で迷う13:00~14:00-カモ
チ谷への下り尾根分岐14:15-カ
モチ谷林道14:50~15:00-周山
バス停15:45~16:20(解散・バ
ス) 京都駅17:45

美しい滝を見て余野へ。射撃場
下から東俣山への林道が私有地化
されて入れない。林道と射撃場の
中間尾根を使い東俣山へ登り着い
た。西尾根から周山へ直接下りる
尾根分岐を誤って行き過ぎて迷う
仕方なく西尾根から急坂をカモチ
谷林道へくだったが、長い林道歩
きになった。

(参加者) 竹内止子 奥田則夫
福岡 章 平田輝美 中嶋日出男
飯田 一郎 岡崎知子 安田文美江
小栗大直 大林 進 都築由美子
市岡晴美 前田初雄 多賀久子
栗橋崇吉 栗橋君子 上山正二
奥田貞雄 渡部和美 武部美英子
川田洋子 吉野栄子 辻 宣彦
本間 隆 本間智子 湯浅次男
矢野 稔 宮野哲郎 山崎野志子
志水明美 山崎義治 山崎多恵子
加藤元彦 磯部 純 小坂さゆり
伊藤 直 伊藤和代 村田はる江
山根弘美 大槻 一夫 野末あや子
沖 伸 後藤純子 小杉彰明
松尾 一郎 山田幸子 萩野樹子
小川明美 佐野哲江 稲葉美知子
夏山春子 佐藤嘉彦 楠田美佐子
高橋寿治 中川光郎 ○奥比呂美
○安倉止勝 ○村田智俊(計38名)

大峰(沢歩き)
下多古川上流部から大所山尾根
7月2日(雨)夜3日(雨)
前夜発日帰り ○田中賢治
*雨天のため中止しました。

奥美濃・冠山
(ファミリーハイキング106)
7月5日(雨)くもり
大峰・弥山から八経ヶ岳
7月6日(雨)くもりのち雨
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8:00

(参加者) 岩瀬健司 塚本忠次
奥田則夫 妹尾正一 木内範文
大和 絃 村上嘉子 中澤ちず子
本間昭恵 中谷幸子 金藤千恵子
前田一代 岩城豊子 石倉真佐子
金森節子 兼田幸子 菅 キヤウ
渡部和美 小林博子 濱本美和恵
細道徳雄 西原辰夫 伊東ナナ子
田口寿一 宮田富子 野末あや子
岡崎知子 宮野樹子 成川みさお
大谷登子 長沢佑美 田中三恵子
植木敏子 君塚節子 林 久美子
柴村敏子 ○松井明忠
○巻田 晃 ○木村太郎(計39名)

(参加者) 桜庭 栄 須藤浩子
岩村春子 崎山悦子 竹田善英
大和 絃 沖 照子 道平さきわ
若鶴健司 沖 伸 栗橋崇吉
栗橋君子 平田輝美 杉本英一
馬龍忠男 松田和恵 宮路ちへ子
山口充代 立道 修 浦野誠章
奥田貞雄 堀江房麿 川俣 融
今西啓子 西原辰夫 山西文美江
大石吉彦 繁田広美 安田文美江
竹田勝英 大林 進 加藤浩一
堀内預留 古山幸男 佐々木輝子
辻 宣彦 池田 茂 河本美千子
細野欽也 上田裕子 小坂さゆり
林 正義 ○前川和佳子
○西上利和 (計44名)

越美・能郷白山

(自然観察山行234) 7月7日(出) くもり

(集合) JR大垣駅9:00(バス) 湯川峠11:30 35 149号バス 12:40 13:00 能郷白山13:45 (昼食) 14:30 湯見峠16:05 (バス) 大野温泉18:15 (入浴) 18:50 (バス) 大垣駅19:10 (解散)

頂上部にガスが巻いていたものの雨は免れた。アクセスの園道が岐阜県側も福井県側も通行止めのため登山者は少なく、静かな山歩きができた。タカネミズキ(ミズキの多雪地適応型)の花がたくさん咲いていた。

(参加者) 岩田智鶴 市井ユリエ 小田妙子 白島忠子 荻野美紀恵 田口寿一 田口富子 佐々木輝子 竹内正子 堀田輝子 和岡純子

◎加納由紀子 ◎鷺見守康 (計13名)

台高(沢歩き)

木屋谷川本流 7月8日(出) 晴れ

(集合) 近鉄橋原駅8:00(車) 青田発電所9:20(車) 黄谷川出合10:00 万蔵橋入渓点10:40

磯部 純 細野欽也 森実喜美子 志水明美 金谷 昭 河本美十子 神野孝允 中島 隆 六戸喜久江 渡部和美 塚本中次 松井志津子 後藤輝子 谷 守 光川二美子 岩本杉子 石原君子 加藤蘭計 ◎高島伸浩 (計24名)

名張・赤目溪谷(三重の山脈) 7月28日(出) 晴れ (集合) 近鉄赤目駅10:00 15 (バス) 赤目滝口10:25 山椒魚センター10:30 45 不動滝 千手滝 布曳滝 30 泉草茶屋11:45 (昼食) 12:30 荷担滝 琵琶滝 1 岩瀬滝 赤目出合茶屋13:45 小世峠 落合14:45 (タクシ) 名張駅15:26 (解散)

水風豊かな滝を満喫。サンショウウオの「桃ちゃん」は健在だった。花はイワタバコ、蛇は...でっかかった。水場のない小世峠越は汗だくだくだった。

(参加者) 永富律子 宮路ちへ子 岐田二郎 徳田暢子 宮路要希子 辻 宜序 水戸鉄治 岡本美千子 平 龍一 中森義信 松上美代子 林崎 功 陳 登 稲垣重美子 石橋佳代子 ◎稲垣逸夫(計16名)

大滝11・20 奥山谷出合12・30

(昼食) 13:15 1馬車馬場橋15:05 千秋林道経由万蔵橋16:00 黄谷川出合16:30 (マイカー) 解散

万蔵橋入渓点での木葉谷の増水は心配するほどでなかった。ワサビ谷出合からゴルジュに入り、大滝15は右岸をフィックスして越える。奥山谷出合手前のゴルジュは右岸登山道側を捲いた。出合からウシロ谷へ入り、美しい自然林のなかに馬車場へつめ上る。木尻山分岐から、千秋林道へくだった。

(参加者) 伊東弘隆 岡早くみ子 高原喜彦 山口敬明 湯浅みや子 上西久子 森 瑞代 伊藤喜久男 ◎田中賢治 (計9名)

元越谷

(沢歩き・鈴鹿を歩く267) 7月8日(出) 晴れ

(集合) 国道477号線元越谷林道入口手前広場8:15 元越谷9:00 大滝10:00 左俣出合10:40 1 仏谷石俣11:30 ヤブレガサ群落11:50 (昼食) 猪足谷林道13:00 広場15:00 (解散) 谷に入ることをやりとして生き返った

白山・中宮山と百四丈の滝 (展望の山33) 7月28日(出) 29日(回) 1泊2日 (28日) くもり一時晴れ (集合) JR関ヶ原駅7:15 (車) 中宮集落10:15 (車) 林道の登山口10:35 途中11:55 (昼食) 12:25 やどみ尾原集落13:10 中宮山13:30 (往路) 登山口15:45 (車) 宿16:10 (泊)

(29日) くもり一時晴れ 宿6:35 (車) 加賀新道登山口7:00 1 しゃり場8:40 長倉山9:30 奥長倉避難小屋10:45 美女坂の頭11:45 百四丈の滝12:00 避難小屋13:15 長倉山14:10 1 しゃり場14:50 登山口15:55 (車) 宿16:10 45 (車) 米原駅19:45 (集合) 関ヶ原駅20:15 (解散)

2日共ガスって遠望は無かったが、美女坂の頭から白山山頂の間近に見られ、百四丈の滝展望台ではガスが切れ、りっぱな滝を見た。(参加者) 朝倉雄雄 三井弘一 竹内正子 佐藤文枝 生越重美子 山田妙子 ◎山田明男(計7名)

八洲の滝めぐり(比良を歩く) 7月29日(出) くもり時々晴れ (集合) JR近江高島駅9:03

た。大滝にはササユリとトリアシ

ショウマの花 仏谷石俣の源流にはヤブレガサの大群落、イワガラミ・ホタルブクロ・モウセンゴケなどを愛でながら楽しく歩いた。

(参加者) 多田 徳 南 智恵子 栗本敏夫 大西裕郎 白木やす子 永戸鉄治 一芝義雄 奥野太一郎 樫田勝利 武村千鶴 奥野太一郎 池田隆一 小林 修 三上伸夫 谷 守 ◎山田景三 (計17名)

湖北・奥山(深谷山)

(近江の山シリーズ①) 7月8日(出) くもり

(集合) JR京都駅7:20(バス) 高山キャンプ場9:03 登山口9:15 滝谷の頭11:17 奥山12:00 (昼食) 13:10 滝谷の頭13:37 登山口14:58 高山キャンプ場15:15 (バス) 京都駅17:15 (解散)

暑い日だった。道は整備されていて休憩を繰り返して奥山にたどり着いた。以前の切り開きは、木が成長し展望は無かった。ヤマボウシが多く、花が満開だった。(参加者) 塚本中次 仲谷礼司 村井善和 竹内正子 木村 豊

福岡 章 渡部和美 武部美美子

栗栖崇吉 栗栖君子 野末あや子 田島輝昭 沖 伸 下都正年 小栗大直 岡崎純子 船本裕巳子 萩野暢子 小松志信 川田洋子 狩野東彦 多賀久子 ◎磯野重治 ◎森脇貞義 (計24名)

鈴鹿・神崎川(沢歩き)

7月17日(出) ◎田中賢治

*増水のため中止しました。

湖北の山

塩津山・三角点定田 7月28日(出) 晴れ

(集合) JR近江塩津駅10:15 1 深坂地蔵登り口10:40 1 深坂地蔵10:55 11:10 塩津山11:35 1 三角点新野11:50 尾根峠12:25 (昼食) 13:40 三角点定田14:00 1 国道8号線15:10 1 近江塩津駅15:40 (解散)

人身事故のため電車が立ち往生し、36名の申し込みが24名となり、出発時には右往左往。塩津山から三角点定田までは5月に切り開いた新ルート。下山は林道を歩いて8号線に出て近江塩津駅へ戻った。(参加者) 田島輝昭 石倉真佐子 宮西和子 鈴木昭一 都築由美子

8月2日(休) ◎木村太郎 *雨天のため中止しました。 8月4日(出) 夜 5日(回) 前夜発日帰り (4日) (集合) JR関ヶ原19:35 (車) 白峰民宿22:30 (泊) (5日) くもりのち晴れ 民宿6:00 (車) 市ノ瀬駐車場6:30 1 釈迦新道登山口8:10 1 水場9:40 1 前衛峠11:40 1 白山駅13:20 1 釈迦新道登山口14:20 1 駐車場15:20 1 45 (車) 白峰温泉(入浴) 16:45 (車) 米原駅19:50 (解散)

往復に5日間半近くかかった釈迦岳だが、日帰り組は4時間かからなかったそう。花は思ったほど無く、80余り記録した実を入れたら120はあった。

(参加者) 下都正年 馬籠忠男 下藤利恵 大林 進 中嶋日出男 川田洋子 小栗大直 野里マツ代 寺田久広 松尾剛子 水見真砂子 藤岡章雄 妹尾公代 市井ユリエ 福田 真 今泉 勲 村田はる江 蓮井洋子 和田輝子 林 弘毅 松村雅子 ◎本間 隆 (計23名) ◎桑 康夫

南紀・百間山溪谷 (ファミリーハイクル107) 7月29日(出) くもり時々晴れ (集合) JR近江高島駅9:03

横山かず子 小林一世
伊藤重美子 生越重美子 (計25名)

湖北・七尾山

②近江の山シリーズ②

8月5日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅8・20・25
(バス) 南池登山口10・00―七尾山11・52(朝食) 13・00―小泉登山口14・47・53(バス) ジョイいぶき15・10(入浴) 16・00(バス) 京都駅17・45(解散)

何れも休憩しながら頂上に立った。下山予定の大久保へ道は以前と変わり歩く人も稀で、鉄塔までくだるのに迷い、小泉に下りてしまった。反省しきりである。

(参加者) 村井寿和 木村 豊 塚本忠次 渡部和美 武部美美子 栗橋君子 若槻健司 伊東ナナ子 志水明美 宮野絃子 船本裕巳子 川田洋子 岡崎知子 狩野東彦 多賀久子 市岡晴美 西居俊弥 三野 旭 中川節子 市井ユリエ 小尾末吉 ◎森脇貞義(計22名)

比良・白滝山から白滝谷

8月5日(日) 晴れ
(集合) JR堅田駅8・40・45

西中国山地の山々

12日のち 山田乙三 馬場種子 伊藤重美子 小林一世 生越重美子 日置美和子(計18名)

8月14日(日) 夜 17日(日) 前夜発2泊3日
(14日) (集合) JR新大阪駅22・00(バス)
(15日) 晴れ(バス) 鹿野インター4・20(バス) 阿東新村田家6・00(朝食) 7・15(バス) 神角登山口7・30―作業道橋8・40・50―十種ヶ峰9・30・50―野外活動センター11・00(昼食) 11・40(バス) 碩登山口12・40―青野山14・00・30―笹山登山口15・40(バス) 旅館「華菜」16・10(泊)

(16日) 晴れ 宿8・00(バス) 大規模林道閉鎖車止9・20―安威寺山トンネル登山口11・30―スナラ巨神木11・50(昼食) 12・30―中峰13・20―安威寺山13・50・14・00―展望所14・10―ゴギの里奥林道終点15・35・50(バス) 湖原温泉「松かわ」16・40(泊)
(17日) 晴れ 宿8・00(バス) 松ノ木峠8・30―草山分岐10・30・40―寂地山口・10(昼食) 12・

(バス) 葛川中村9・30・40―オシロ谷渡渉10・10―巡視路尾根―長池手前広場11・40(朝食) 12・40―長池12・50―オトワ池13・10・30―白滝山13・40―オトワ池13・50―夫婦滝14・10・30―白滝谷―林道終点広場15・50・16・00―坊村16・40・17・10(タクシー) 堅田駅18・00(解散)

中村から巡視路をたどって長池手前の風の通る広場で昼にした。暑さとプラスチックの階段道が厳しかった。長池を周回してオトワ池から白滝山を往復。夫婦滝を見物して谷道をくだったが、一ヶ所崩壊地があり、前のグループが液溜。上部の捲き道へ戻ってくだったので時間をロスした。

(参加者) 小田二郎 中嶋日出男 馬龍忠男 池田一郎 堤 良男 大川直道 柳川常雄 岩佐 修 福岡 章 蓮井洋子 小谷和子 湯浅次男 有兼 登 村田はる江 ◎呉比呂美 ◎安倉止勝 ◎村田賢俊 (計17名)

須谷川

(沢歩き・鈴鹿を歩く168)
8月12日(日) 晴れ
(集合) 打蕨尾神崎橋広場8・20

00―寂地林道13・00―大辰候13・30・40―林道途中14・10(バス) 懇話の里温泉15・00(入浴) 16・00(バス) 新大塚駅21・45(解散)

十種ヶ峰は花が多く咲き、展望が広がった。青野山への上り下りは急で厳しい山だった。安威寺山林道が途中で崩れていて車輪通行止。トンネル登山口まで600の車道を歩いた。登山道に入るのを涼しい尾根道になった。山頂下の展望所でゆっくりし、ゴギの里への急な下り道を一気にくだった。松ノ木峠から寂地山まではゆるやかに自然林やブナ林のなか。山頂には人もいなくゆっくりできた。入浴して帰ろうと大辰候へくだった。

(参加者) 南 利恵 伊東ナナ子 小林 桂 岡崎知子 村田はる江 湯浅次男 多賀久子 長沢佑美 若林文夫 山島義治 山島多恵子 遠藤 平 ◎呉比呂美 ◎安倉止勝 ◎村田賢俊(計18名)
大峰・伯耆谷城から大普賢岳
8月17日(日) 晴れ
(集合) 近鉄御所神宮前駅8・00
(バス) 上谷・久久能神社9・30―太谷分岐10・00―伯耆谷 12・40(昼食) 13・00―阿弥陀

(車) 須谷川出合8・30―岩の洞門11・00(朝食) 11・50―源流登山道13・40―神崎橋広場15・20(解散)

須谷川の溪谷はイワタパコの花が続いた。トロで泳ぎ、滝・ナメ流のシャワーを浴びて直登。重心に返って水と戯れた。岩の洞門は真暗でシャワーの中を登って昼食。下界は35度だが沢は寒いくらいで楽しい沢歩きとなった。

(参加者) 服部 亮 三下研夫 栗本敏夫 永戸鉄治 南 智恵子 榎田勝利 小林 隆 奥野太一郎 伊東弘隆 武村千鶴 稲津謙治 ◎後藤康幸 ◎若野 明(計13名)

白山

平瀬道から中宮道とブナオ山
8月12日(日) 14日(日) 2泊3日
(12日) 晴れ(集合) JR西岐阜駅6・50(車) 平瀬登山口前白水滝9・40―登山口10・00―大倉山遊覧小屋12・50―室堂15・30(13日) 晴れ 室堂4・40―御前峰5・15―大汝峰分岐6・00―お花松原7・15―北沢陀原8・10―笠原8・40―間名古の頭9・35―

平瀬道から中宮道とブナオ山
8月12日(日) 14日(日) 2泊3日
(12日) 晴れ(集合) JR西岐阜駅6・50(車) 平瀬登山口前白水滝9・40―登山口10・00―大倉山遊覧小屋12・50―室堂15・30(13日) 晴れ 室堂4・40―御前峰5・15―大汝峰分岐6・00―お花松原7・15―北沢陀原8・10―笠原8・40―間名古の頭9・35―

白山に登る前に白水滝72段を見学。岐阜県一の文字流。暑さで時間がかかるが、日曜りの3人も室堂まで行けた。夜は流星を見に外に出て、数個見られた。13日朝方はガスと強風で寒かった。お花松原はコロコロの大群落とハクサンソコカラが見事だった。中宮道は室堂から20分と長く、12時間近くかけたが皆先歩した。14日は「ブナオ山」に行くも、昨日の疲れと暑さで皆まいった。これまで白山で見なかつた花も記録し、実も含め150はあった。

(参加者) 光川佛史 光川一英子 朝倉裕進 佐藤文枝 長坂佐知子 竹内正子 藤野暢子 横田とも子 島居信吾 高原芳彦 山田妙子 ◎山田明男

(朝食) 11・50―垢離取場12・00―(三重ノ滝行往復)―垢離取場13・15―小中坊前14・10―前鬼林道終点14・40(マイカー解散) 近鉄原駅17・00(解散) 水筒少なく、去年よりも谷中でのんびり歩くことができた。寒いくらい(の三重ノ滝谷出合付近の湖水でうどん大会を楽しむ。例年通り小中坊前でヒルチエック。昨年よりも被害は少なかった。

(参加者) 大村優子 佐古田文字 伊藤重正 伊東弘隆 中井昭一 山形 明 山口敏明 山西 治 ◎田中賢治 (計9名)

六甲・東お多福山

(火曜ハイイク)

8月21日(日) 晴れ
(集合) 東お多福山登山口バス停9・50・10・00―十種ヶ峰10・25・30―東お多福山10・45―雨ヶ峰11・05・15―横池12・00(朝食) 13・00―原次若13・05・15―保久長神社14・15・30 坂原本駅14・55(解散)
猛暑のなかの山行。東お多福山のコースを思い切って簡略した。登りは15分だけ、後は下り。ササやぶあり岩場あり、猪と仲良くで

きるなどけっこう楽しめた。

(参加者) 大林 進 中嶋日出男
東村由美 金谷 昭 野里マン代
柳川常雄 渡部和美 磯部 純
堀木忠次 小林 桂 小林博子
岩城豊子 川上久堅 崎山悦子
須藤浩子 兼田幸子 今村あやの
後藤純子 橋下公一 野末あや子
中岡昌子 ○船本裕巳子

越美・金草岳

(自然観察山行235)

8月25日(日) 晴れ
(集合) JR大垣駅9:00(バス)
冠山峠11:00-檜尾峠12:10(昼
食) 12:45-白倉山13:35-金草
岳14:00-20-白倉山14:55-檜
尾峠15:20-30-冠山峠16:30-
50(バス) いび川温泉17:50(入
浴) 18:20(バス) 大垣駅19:15
(解散)

残暑厳しい炎天下。三割のメン
バーが途中で登高を断念した。サ
サや灌木がやぶ状となり、復路の
檜尾峠から冠山峠への登りがこ
にきつかった。旧徳山村は完全
にダム湖に沈み、息をのむような光
景であった。
(参加者) 荒木光雄 大東 哲

沖 小松志信 荻野美紀恵

栗橋英吉 栗橋君子 善塔勝一郎
鈴木昭一 田島輝昭 野末あや子
近田賢子 仲倉礼司 西田俊治
堀田輝子 松見 昭 三井敏一
○狩野東彦 ◎鷺見守康(計16名)

湖北の山・日計山

8月25日(日) 晴れ

(集合) JR近江塩津駅10:10
(車) 集福寺登山口10:20-第二
鉄塔11:00-日計山12:05(昼食)
13:25-集福寺登山口14:45(車)
近江塩津駅15:10(解散)

キンギラ残暑の一日。集福寺か
ら鉄塔遊覧路を西へ向かい、尾根
から南へやぶを漕いで頂上へ。頂
上は展望無。その分昼食タイム
を十分楽しんだ。

(参加者) 紋田 二郎 森本幹雄
稲本芳雄 金谷 昭 林 久美子
磯部 純 山形 明 森本忠次
中島 隆 志水明美 森 美香子
小栗大直 川島豊美 船本裕巳子
加藤剛計 石原君子 岩本彩子
櫻田康一 谷 守 光川 美子
村井寿和 中川節子 國近正男
◎高島伸浩 (計24名)

北摂・丸山温泉

(ファミリーハイク108)

8月26日(日) 晴れ

(集合) JR宝塚駅10:10-15
(バス) 玉瀬10:55-登山口11:
30-40-丸山温泉12:05(昼食)
13:00-大岩ヶ岳分岐13:20-30
-鉄塔地点手前13:55-14:05-
東山橋林道手前14:20-30-JR
道場駅14:50(解散)

川沿いの木陰道を登山口に向か
い、山中に入ると暑さが和らいだ。
温泉にはサギソウが咲いていて、
町で味わえない爽やかさを感じた。

(参加者) 村上嘉子 中澤ちず子
本間昭恵 岩崎健司 道平さわみ
君塚郁子 東村由美 伊東ナナ子
大谷章子 戸倉文子 野里マン代
渡部和美 柳川常雄 宮路ちへ子
前田初雄 榎 照司 榎 美菜子
竹田善英 塚本忠次 熊田千夜子
内田昭彦 内田光俊 内田有紀子
岩城豊子 小栗大直 森実美香子
志水明美 長沢佑美 松上美代子
稲本愛子 林 信男 川上久堅
和田直樹 山根弘美 後藤純子
中村英雄 山口充代 河内正治
◎妹尾正一 ◎西條良彦 (計41名)
◎木村太郎

佐々里峠から小野村割岳

(京都北山歩き123)

8月26日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅7:40(バス)
佐々里峠9:35-45-西尾根への
取付ピーク8:40-10:10-20-
芦生杉群10:50(散策) 11:15
(昼食) 12:00-小野村割岳13:
35-50-ワサ谷林道終点14:05-
下の町15:35-50(バス) 京都駅
17:50(解散)

ようやく秋を感じさせる涼しい
日、風も吹き快適な登山になった。
自然林の尾根をたどり、巨大な杉
と対面した。

(参加者) 須藤浩子 岩村春子
崎山悦子 沖 伸 濱本美和恵
下都正年 馬籠忠男 中嶋日出男
今泉 勲 下藤利恵 市岡晴美
繁田広美 多賀周一 多賀久子
冨田清子 岡本正明 岡本和雄
木内範文 野田裕智 三野 旭
渡辺俊弥 堀内預智 三野 旭
川戸せつ 岡崎知子 武部美美子
中川光郎 桜庭 栄 土倉由布子
○狩野東彦 ○湯浅次男
◎村田智俊 (計35名)

(7・8月の参加 延566名)

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心としたハイキン
グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ
ドなどで、関西のハイキングコー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、健康な身体をつ
くり、自然のなかを歩く喜びをと
もに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に55年
間余、好評のうちに活動していま
す。関西は平成3年秋発足で17年
目に入りますが、すでに多数の会
員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて、多くの仲間たちと山を楽
しみます。

リーダー(係)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
します。

会員には「新ハイキング関西の
山」を毎月お届けします。
四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまで
も持たせるのはすばらしいことだ
です。これから始めてみたい人、す
でにベテランの人もみなさんご入
会いただけます。

入会金 500円(ワッペン共
年会費 3000円(送料共)

入会の申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く
ださい。氏名(ふりがな)及び第
何号からの送本かを忘れずに記
入ください。

なお、定期購読のみをご希望さ
れる方も会員になっていただけます
。毎号確実にお手元に届きます
ので便利です。

お友達のお住所・氏名をハガキで
連絡くだされば、「新ハイキング
関西の山」最新号を見本誌として
送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1〜2回程
度の山行例会を計画・実施してい
たきます。

無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連絡
ください。

○新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間のみなさんです。
会員番号53008番から53220
番まで(敬称略)。

- 【愛知】 永田岸江 岩井照雄
- 【岐阜】 国井文男
- 【滋賀】 矢倉豊子
- 【京都】 久間麻登司
- 【大阪】 岸本卓三 向井克巳
- 【奈良】 村岡雄志郎
- 【兵庫】 京谷弘胤 佐藤美香子
- 【広島】 藤崎敏子
- 【兵庫】 池田展尚
- 【広島】 増本吉彰 (13名)

○95号(監査)追加訂正

- *23ページ中段16行目「センジュ
ガンピ」→「センジュガンピ」
- *24ページ下段5行目「ヒメギア
ヤメ」→「ヒオウギヤメ」
- *26ページ中段19行目「雌阿寒岳
がくつきり……」→「雄阿寒岳が
くつきり……」
- *29ページ上段11行目「ホノノキ
」→「ホノノキ」
- *32ページ付近路中の「東相鹿
池」→「東相鹿池」(本文は正し
い)

○96号(初秋)

- *20ページ下段10行目「冬青(モ
チノキ)」→「冬青(モチノキ、
ソコバ)」
- *39ページ中段21行目「枝谷」→
「栗谷」
- *64ページ中段21行目「ルソン助
左衛門」→「ルソン助左衛門」
- *67ページ中段7行目「直(じき
谷)」→「直(すじ)谷……」
- *同
下段13行目「由良川の水」→
「子吉川の水」
- *74ページ中段19行目「378・
9」→「379・8」
- *108ページ上段後から7行目「辻
小谷コース」→「辻大谷コース」
(編集室)

書店でお求めになりたい方へ

前もって「番号ほしい」と購読
予約をお求めますと、どこの書
店でもお買い求めいただけます。
「関西の山」は隔数月の20
日頃(隔月刊)の発売。